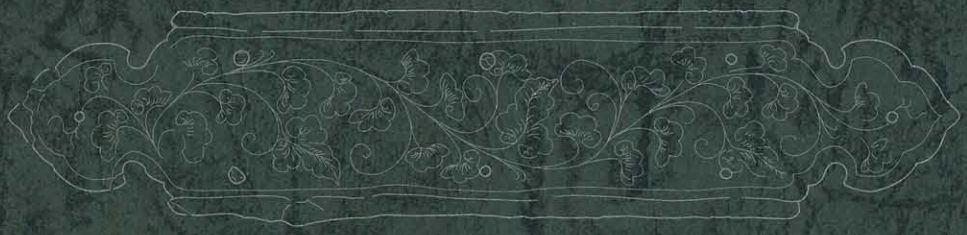
仙台市文化財調査報告書第350集

仙台城跡

―追廻地区遺構確認調査―



2009年3月

仙台市教育委員会

仙台城跡―追廻地区遺構確認調査―　正誤表

頁・行	誤	正
P7 18行目	合計123点	合計128点
	全体の49%を占める	全体の47%を占める
P7　21行目	5点出土し、	6点出土し、
P7　24行目	30点出土し、	29点出土し、
P9　6行目	合計370点	合計376点
P9　32・33行目	274点出土し、丸瓦の70点と平瓦の175点が全体の89%を占める。	289点出土し、丸瓦の80点と平瓦の179点が全体の90%を占める。
P17　30行目	合計894点	合計905点
P22　27行目	合計664点	合計643点
P42　36行目	合計906点	合計930点
P43　2行目	248点出土し、近世のものは216点ある。	247点出土し、近世のものは215点ある。
P48	第3表　差し替えあり(裏面参照)	

瓦 類

トレンチ	層位・遺構	丸瓦	平瓦	軒丸	軒平	滴水	軒桟	桟瓦	板瓦	伏間	飾り	不明
1-1T	撹乱	3										
	Ⅰ層	7	28									
	Ⅱ層	2	3									2
	Ⅲ層		1									
	S1	2	6									
	S3	1	3							1		1
1-2T	撹乱	11	31	1				1				3
	Ⅰ層	6	62					2				1
	Ⅱ層	29	30		1					1		9
	Ⅲ層	9	5									
	Ⅳ層	**20**	**34**									**11**
	Ⅴ層	2	6									
	Ⅵ層		1									
	Ⅷ層	3	10									
1-3T	一括		2									1
	撹乱	2	21									2
	Ⅰ層	8	4									1
	Ⅱ層	13	32		1			1				6
	Ⅲ層	12	12	1	1							8
	Ⅳ層	30	40	1						2		2
	Ⅸ層		2									
	S2	11	37	2				1				16
	S5	11	38	3			1	3	1	2		4
1次調査小計		**182**	**408**	8	3	0	1	8	1	6	0	**67**
2-1T	撹乱	19	88					1			1	9
	Ⅰ層	9	53	1								
	Ⅱ層	2	20									8
	Ⅲ層	1	9	1								
	Ⅴ層	14	68									21
	Ⅵ層		3									1
	Ⅷ層	5	15					1				2
	Ⅸ層		6									
	S10	1	12									
	S14		2									2
	S18	6	21									3
	S19	5	32					1				24
	S36	1										
	S37		5									
2-2T	撹乱	2	4	1								
	Ⅰ層	1	3									3
	Ⅱ層	2	5									
	Ⅲ層		2									2
	Ⅳ層	1	6									1
	Ⅵ層	1										
	Ⅷ層											1
	S46		1									1
	S52	1	1									2
	S55		1									
2-3T	Ⅰ層	8	14									2
	Ⅲ層	5	22	1								12
	Ⅳ層	7	5					1				6
	Ⅴ層	2	7									
	S62	1						1				
	S66		1									
	S68	1										
	S69	1										
2-4T	撹乱	2	5					2				13
	Ⅰ層	7	17						1	1		19
	Ⅳ層		2									
	Ⅷ層		2									
	S76		4									1
2-5T	Ⅰ層	3	1		1							1
2-6T	撹乱		3									1
	Ⅰ層	3	1									1
	S106		3									
	S107		4									
2-7T	Ⅰ層		2									
	Ⅳ層		2									
	Ⅴ層	4	1									
	Ⅵ層	1	4									
	Ⅶ層	1	4									
	Ⅷ層	4	7									10
	S124		10									
2次調査小計		121	478	4	1	0	0	7	1	1	1	146
3-1T	一括	1	1									
	撹乱	1	2									
	導水	2	2			1						1
	南側サブ		2									
	Ⅰ・Ⅱ層	2							2		1	
	Ⅰ層	1	3									
	Ⅱ層	9	12	2								2
	Ⅳ層		3									
	Ⅴ層	4	1									
	Ⅵ層		1									
	S157	2	3									
	S160		1									
3次調査小計		22	31	2	0	1	0	0	2	0	1	3
追廻地区表採				1								
合　計		**325**	**913**	15	4	1	1	15	4	7	2	**216**

金属製品・石製品・木製品・その他

トレンチ	遺構・層位	金属製品											石製品			木製品		動物遺体
		釘		銭			煙管	飾り金具	鈴鐸	簇英	看板	不明	硯	砥石	碁石	漆器	木板	
		近世	近現代	渡来銭	近世	近現代					近現代							
1-1T	撹乱					2						1						
	Ⅰ層	1	1						1									
	Ⅱ層																	
	S1	2																
	S3							1				1						
1-2T	撹乱		2			7						4						
	Ⅱ層		10									1						
	Ⅳ層		1									1						
1-3T	撹乱											3						
	Ⅰ層					1						1						
	Ⅱ層					1												
	Ⅳ層												1					
	Ⅶ層	1																
	Ⅸ層											7						
	S2											1						
	S5	2										2						
1次調査小計		6	14	0	0	11	0	1	1	0	0	22	1	0	0	0	0	0
2-1T	撹乱		19				1					9						**9**
	Ⅰ層		3									2						
	Ⅱ層																	1
	Ⅴ層	2										1						
	S10		3														1	
	S19				3		1					1	1		2	2	1	2
	S36																	8
2-2T	撹乱		6				1					7	1					1
	Ⅰ層											12	1					
	Ⅱ層		11									1						
	Ⅳ層		3															
	Ⅷ層	1																
	S44	8																
	S46	8																
	S53	2																
	S55													1				
2-3T	撹乱																1	
	Ⅰ層				1						1	1						
	Ⅲ層				1											1		
	Ⅳ層												1					
	S63															1		
	S68											2						
2-4T	撹乱		1									23						
	Ⅰ層		4			1	1		1			1						1
	Ⅱ層											3						
	Ⅳ層		1															
	S76																	
2-5T	撹乱											2		1				
	Ⅰ層					1											1	
2-6T	撹乱		1															
	Ⅰ層		1									2						
	S106	1																
	S107	5										2						
2-7T	S115											1						
2次調査小計		27	53	0	5	2	4	0	1	0	1	70	4	2	2	4	4	**22**
3-1T	一括	1																
	撹乱		28									8						
	導水											1						
	Ⅰ層		2						1			3						
	Ⅱ層	1	2	1	4							7						1
	Ⅳ層				2													
	Ⅴ層				1		1					2						
	S157						1			1								
	S160											2		1				
	S163	1																
3次調査小計		3	32	1	7	0	2	0	1	1	0	23	0	1	0	0	0	1
合　計		36	99	1	12	13	6	1	3	1	1	115	5	3	2	4	4	**23**

中世以前の遺物

トレンチ	遺構・層位	弥生土器	土師器	須恵器	中世陶器			古代瓦	石器	石皿
					常滑	白石窯	不明			
1-2T	撹乱		2							
	Ⅳ層		8							
	Ⅴ層		4							
1-3T	撹乱		1							
	Ⅲ層		1							
1次調査小計		0	16	0	0	0	0	0	0	0
2-1T	Ⅱ層		**1**							
	Ⅴ層		1							
	XV層	10							1	
	S19		**2**						1	
2-2T	撹乱		1							
	Ⅱ層		6							
	Ⅲ層		6	2		1	1			
	S53		2							
2-4T	撹乱		1							
2-5T	Ⅴ層		1							
2-6T	撹乱						1			
2次調査小計		10	**21**	2	0	1	1	1	1	1
3-1T	導水		1							
	Ⅱ層		1		1					
	S157		1							
3次調査小計		0	3	0	1	0	0	0	0	0
合　計		10	**40**	2	1	1	1	1	1	1

P48　第3表　差し替え　太字・太枠部分が修正箇所

仙台市文化財調査報告書第350集

仙　台　城　跡

―追廻地区遺構確認調査―

２００９年３月

仙台市教育委員会

序　文

仙台城は初代仙台藩主 伊達政宗により築かれた近世を代表する城であり、現在、東北の中心都市となった本市は、今日まで仙台城とその城下を基となり発展してきたといえます。そのようなことから、仙台市民が市のシンボルとする仙台城はその歴史的価値のみならず、本市を語る上では無くてはならない存在といえます。

仙台城跡の本格的な発掘調査は平成９年より開始した本丸石垣の修復事業に関わる本丸石垣での調査といえます。この調査では、政宗の入府以前にこの地にあったとされる国分氏による「千代城」の存在や、石垣の多様な変遷などの多くの成果を得ることが出来ました。この結果、仙台城跡は平成15年に国史跡の指定を受け、それ以後、本丸における大広間の調査や、周辺の石垣や堀跡など各種調査の継続により、仙台城の真の姿が徐々に解明されることとなりました。

そのような中、仙台城跡を市民の憩いの場所とすることを目的として始まった青葉山公園整備事業に伴い、本丸の東側に位置する追廻地区での遺構確認調査の必要性が出てまいりました。追廻地区は仙台城築城当初から整備されたと考えられる地区で、北側の大身家臣屋敷と共に、南側には馬場など城の様々な付属施設が設置されていたことが多くの絵図から知ることが出来ます。このたびの調査は追廻地区におけるこれらの遺構確認を目的として実施したもので、加えて広瀬川に沿い本地区を囲むように構築された護岸石垣を確認することを目的としています。

３か年にわたる調査では、近世の建物跡をはじめ、石を組むなどした数多くの施設跡を確認しました。これらは予想以上に良好かつ広範囲に残っていることが判明し、さらには家臣屋敷周辺で確認した石組みがこの屋敷内の絵図に描かれた池の一部の可能性があるなど、興味ある成果を得ることができました。

最後となりましたが、調査ならびに報告書の刊行に際し、ご協力を賜りました追廻地区の方々始め、ご指導を賜りました方々に深く感謝しますと共に、本報告書が研究者のみならず、市民の皆様に広く活用されることで文化財保護の一助となれば幸いです。

平成21年３月

仙台市教育委員会
教育長　荒井　崇

例　　言

1．本書は仙台市青葉区川内追廻地区に所在する仙台城跡追廻地区の遺構確認調査報告書である。
2．発掘調査は仙台市教育委員会の指導・監督のもと、テイケイトレード株式会社が行った。
3．本書の執筆は仙台市教育委員会文化財課仙台城史跡調査室　佐藤　淳、渡部　紀の指導のもとに下記の通り行った。

第１章第１節・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・渡部　紀
第２章第２・３節、第４章・・・・・・・・・・・・・・・・・・・黒田恵之
第１章２・３・４節、第２章第１・４節・・・・・・・・・・・・・大口和樹
編集は大口が行った。

4．第３章の理化学分析はパリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。
5．出土した遺物の鑑定に際しては、佐藤　洋（文化財課）、高橋あけみ（仙台市教育委員会生涯学習課）、鈴木裕子（株式会社四門）の協力を得た。
6．調査にあたり、仙台城跡調査指導委員会の岡田清一、平川　新、岡崎修子、北垣聰一郎、西　和夫、藤澤　敦各氏のほか、山田晃弘、松本秀明の両氏、追廻地区親和会の方々から御教示・御協力をいただいた。
7．調査及び報告書作成に関する諸記録、出土遺物などの資料は仙台市教育委員会が保管している。

凡　　例

1．土層注記に記載している土色は、『新版標準土色帖』（小山・竹原：2004）に基づいた。
2．本書に掲載した地形図は、国土地理院発行１：10,000 地形図『青葉山』を使用した。
3．本書で使用した遺構挿入図の縮尺は、遺構全体図が 1/100・1/150、断面図・個別遺構図が 1/50 である。
4．本書で使用した遺物の縮尺は、陶磁器類・土器類が 1/3、瓦類が 1/5、金属製品・土製品類が 1/2、石器類が 2/3 である。
5．遺構番号は第１次から第３次調査まで確認した遺構を、種類を問わず通し番号でＳ○、ピットはＰ○と付した。
6．出土遺物の登録は種別ごとに行い、番号の前に以下の遺物略号を付している。

B　弥生土器　　C　非ロクロ土師器　　D　ロクロ土師器　　E　須恵器　　F　軒丸瓦・丸瓦
G　軒平瓦・平瓦　　H　その他の瓦　　I　陶器・軟質施釉陶器・瓦質土器・土師質土器　　J　磁器
K　石器・石製品　　L　木製品　　N　金属製品　　P　土製品

本文目次

序文
例言・凡例・本文目次

第１章　調査にいたる経緯と調査概要
　第１節　調査に至る経緯・・・・・・・・・・・1
　第２節　調査要項・・・・・・・・・・・・・・1
　第３節　遺跡の地理的環境と歴史的環境・・・1
　第４節　調査方法・・・・・・・・・・・・・・3
第２章　検出遺構と出土遺物
　第１節　第１次調査・・・・・・・・・・・・・5
　第２節　第２次調査・・・・・・・・・・・・・14
　第３節　第３次調査・・・・・・・・・・・・・36
　第４節　表面採集遺物・・・・・・・・・・・・45
第３章　理化学分析・・・・・・・・・・・・・・49
第４章　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・57

写真図版・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59

第１章　調査にいたる経緯と調査概要

第１節　調査にいたる経緯

仙台城跡を含む青葉山公園については、平成９年度に「青葉山公園整備計画」が策定され整備事業が進められている。平成 15 年に仙台城跡が史跡に指定されたことをうけ、公園整備計画の見直しが行われ、現在関係部局で調整中である。公園整備計画の中で追廻地区については、公園便益施設や庭園などを設置する計画で検討中である。追廻地区は国有地であるが、戦後に引揚者のための住宅が建設され現在に至っている。

追廻地区は史跡指定範囲に隣接する埋蔵文化財包蔵地であり、城郭機能時には武家屋敷や馬場などが置かれた重要な地域である。今後青葉山公園整備事業を進めるにあたり、文化財を可能な限り保護しうる計画とするためにも、事前の文化財確認調査を実施することとした。

第２節　調査要項

１．遺 跡 名　仙台城跡（宮城県遺跡番号 01033）

２．調 査 地　仙台市青葉区川内追廻地内

３．調査原因　青葉山公園整備事業に伴う遺構確認調査

４．調査主体　仙台市教育委員会

５．調査担当　仙台市教育委員会文化財課仙台城史跡調査室

主任　渡部　紀（第１～３次調査）　主任　佐藤　淳（第３次調査）

テイケイトレード株式会社

第１次調査　主任調査員　奥冨雅之　　調　査　員　森　元彦

第２次調査　主任調査員　黒田恵之　　調　査　員　雑賀重智

第３次調査　主任調査員　黒田恵之　　調査補助員　大口和樹

６．調査期間　発掘調査　第１次調査　平成 19 年３月１日～平成 19 年３月 30 日

第２次調査　平成 19 年 10 月９日～平成 19 年 12 月 27 日

第３次調査　平成 20 年８月 25 日～平成 20 年 10 月 22 日

７．調査面積　調査対象地面積　約 14ha

調査面積　第１次調査　183.1 ㎡

第２次調査　367.0 ㎡

第３次調査　177.0 ㎡

第３節　遺跡の地理的環境と歴史的環境

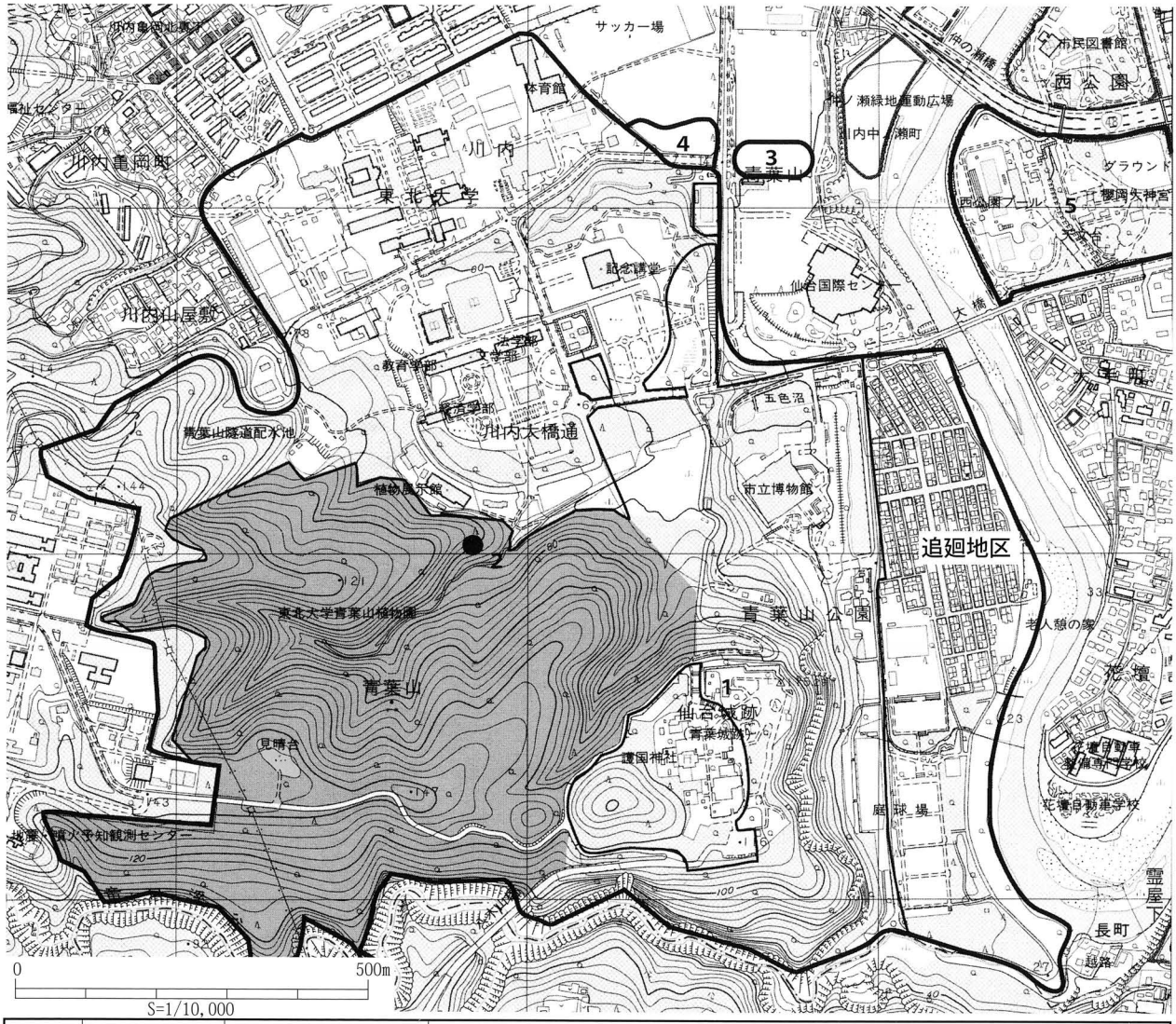
[地理的環境]

調査を行った川内追廻地区を含む仙台城跡は、仙台市街地の西方に位置する青葉山丘陵とその麓の河岸段丘部分を中心に城域が形成されている。青葉山丘陵は東を南流する広瀬川に向かい迫り出し、広瀬川とその支流である竜の口沢の浸食により高さ 70 m程の断崖が形成されている。この丘陵の東端頂部に仙台城本丸跡は位置している。また本丸跡北西側麓部の仙台上町段丘面には二の丸跡、北側麓部の仙台下町段丘面には三の丸跡が位置している。今回調査を行った川内追廻地区は、本丸跡の東側河岸段丘に位置し、南及び東側に向かって緩やかに傾斜しており、現標高は 28 ～ 32 mである。

[歴史的環境]

仙台城は、初代仙台藩主 伊達政宗によって造営された城である。関ヶ原の戦い直後の慶長５（1600）年 12 月に城の縄張りが開始され、慶長７（1602）年５月に一応の完成をみたとされている。築城当初は山上の本丸と麓の蔵屋敷を中心とするものであったが、政宗の死後、二代藩主 忠宗が山麓部に二の丸を造営し、寛永年間以降はこの二の丸が藩政の中心地となり、三の丸や二の丸北側及び東側の家臣屋敷地などが一体となって形成されていった。

調査を行った川内追廻地区は、「仙台城下絵図」（寛政元［1789］年）などの絵図よると、北側は主に家臣屋敷、南側は馬場や厩として利用されていたことが窺え、家臣屋敷部分には「片倉小十郎」の名がみられる。「伊達治家記録」によると、片倉家は延宝５（1667）年に追廻の地に屋敷替えとなっており、これ以降に作成された絵図によると、この地は明治維新に至るまで片倉家の屋敷地として利用されていたことが窺える。またこの屋敷替え以前に作成された「仙台城下絵図」（寛文８～９［1668 ～ 1669］年）などには、「津田玄藩」の名がみられる。また



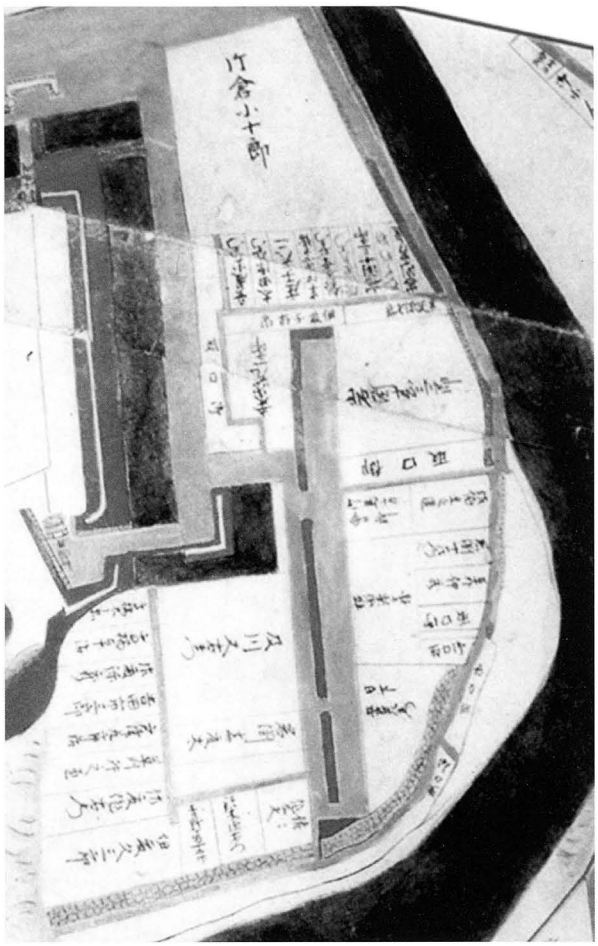
番号	遺跡番号	遺跡名	時代・備考
1	01033	仙台城跡	中世・近世　（細線内は史跡指定範囲　トーンは天然記念物範囲）
2	01386	川内古碑群	弘安10（1287）年、正安4（1302）年の2基
3	01558	川内A遺跡	縄文・近世
4	01565	川内B遺跡	近世
5	01567	桜ヶ岡公園遺跡	縄文・近世

第１図　遺跡の位置と周辺遺跡

「仙台城下絵図」（寛文９～11［1669～1681］年）よると、片倉家屋敷の南側には、「白津七朗左衛門」の名がみられる。延宝年間以降に作成された絵図によると、この区画は10軒に割り崩されており、御家人屋敷となっている。さらにこれよりも南側の地区には「厩」や「御馬屋」、「御口取」などの記載があり、これらは追廻地区にあった馬場やそれに付随する各種施設とみられる。

追廻地区の東側で広瀬川の西岸には長さ260ｍに及ぶ護岸石垣が現存している。この石垣の築造時期は不明だが、その存在は「奥州仙台城絵図」（正保２[1645]年頃）にも確認できることから、17世紀中頃までには築かれていたことがわかる。石垣は城の大手筋にあたる大橋の北側から南に延び、川に沿って追廻地区の南を限り、西側本丸下の山裾まで存在していたことが絵図では確認できるが、現在、地区の南側に石垣は確認できない。

近代に入り仙台城跡に第二師団が置かれると、追廻地区は射撃場や練兵場として利用されることとなる。また大正10（1921）年には下流の愛宕下発電所に導水するための隧道がこの地区に建設されるなどしたが、戦後は住宅地や公園となり、現在に至っている。



第２図　「仙台城下絵図」（寛政元[1789]年）
仙台市博物館所蔵

第４節　調査方法

[トレンチの設定]

遺構確認調査は川内追廻地区内の約14haを対象とし、広範囲における遺構の遺存状況を確認するため、地区全体に試掘トレンチを設定した。トレンチのは基本的に現況の区画に沿って配置したが、第３次調査においては想定される護岸石垣の位置に合わせ設定した。各トレンチの位置及び規模は第３図の通りである。

[調査方法]

調査における平面座標基準は世界測地系平面座標第Ⅶ系を基にした。この基準及び水準は仙台市設置の公共座標（３級基準点：ＱＥ 405602・ＱＥ 405603　標高35.020ｍ）に求め、基準点測量を行った。

遺構平面図はトータルステーションにより計測し、断面図については断面と共に標定点を写しこんだデジタル撮影画像を、正射投影画像に変換している。

写真による記録は35mmカメラを使用し、モノクロ、カラーリバーサルフィルムを使用した。また高画素デジタルカメラによる通常記録に加え、デジタル測量用の撮影を行った。

当初、検出遺構については調査年次ごとに遺構番号を付したが、今回の報告書作成作業の段階で第１次調査からの通し番号に改めた。なお検出遺構については遺構一覧（第１表）を作成したが、この遺構番号については、あくまでも確認調査段階での名称であることを予め述べておく。

出土遺物の取り上げは遺構、層位ごとに行い、整理作業においては産地や器種別に分類し、数量等の集計を行った（第２・３表）。また陶磁器類の文様の実測には埋文スコープを使用した。

調査次数	トレンチ名	規 模	調査面積
第１次	１号	10.0m × 6.4m	60.3㎡
	２号	15.4m × 3.9m	60.1㎡
	３号	31.1m × 2.0m	62.2㎡
第２次	１号	20.0m × 4.4m	87.0㎡
	２号	19.0m × 4.0m	76.0㎡
	３号	10.0m × 4.3m	43.0㎡

調査次数	トレンチ名	規 模	調査面積
第２次	４号	10.0m × 4.1m	41.0㎡
	５号	10.0m × 4.0m	40.0㎡
	６号	10.0m × 4.0m	40.0㎡
	７号	10.0m × 4.0m	40.0㎡
第３次		30.0m×4.0～6.0m	177.0㎡

※　実線は護岸石垣の現存部分、破線は推定ラインである。

第３図　トレンチ配置図

第２章　検出遺構と出土遺物

第１節　第１次調査

１　調査経過

第１次調査地点は追廻地区の北東部に位置しており、試掘トレンチとして３か所のトレンチを現在の区画に合わせる方向に設定した。調査は近年の整地層を重機により除去した後、これより下層を人力により掘り下げ、遺構確認面での精査や遺構確認を行った。基本層序の観察は遺構確認面での記録終了後に各トレンチの長辺に沿ったサブトレンチを設定し行った。基本層序の設定に関しては、各トレンチは近接しているにも関わらず、Ⅰ層以外の同一性がみられなかったことから、各トレンチ間では統一せずに個別に設定している。

検出遺構としては各トレンチより土坑や礫群があり、基本的には確認にとどめたが、サブトレンチにかかる遺構に関しては一部掘り込みを行った。なお１号トレンチからは灰白色火山灰とみられる土壌が確認されたため、分析用の試料採取を行った。10 月 10 日には仙台城跡調査指導委員会による視察が行われた。各トレンチの調査終了時には調査面保護のため、トレンチ内に厚さ 10cm 程の山砂を敷き詰めた上で埋め戻しを行った。

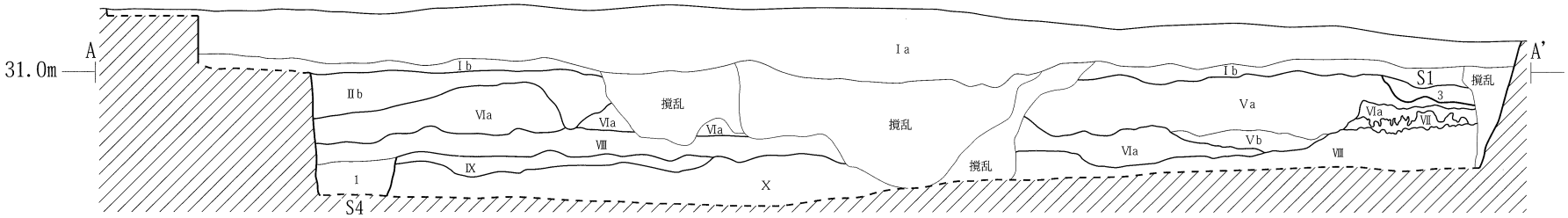
２　１号トレンチ

第１次調査のトレンチの中で最も北に位置する。トレンチは北東―南西方向を軸に長さ 10.0 m、幅 6.3 mの規模で設定した。また基本層序確認のため、トレンチ北壁と南壁側にサブトレンチを設定した。

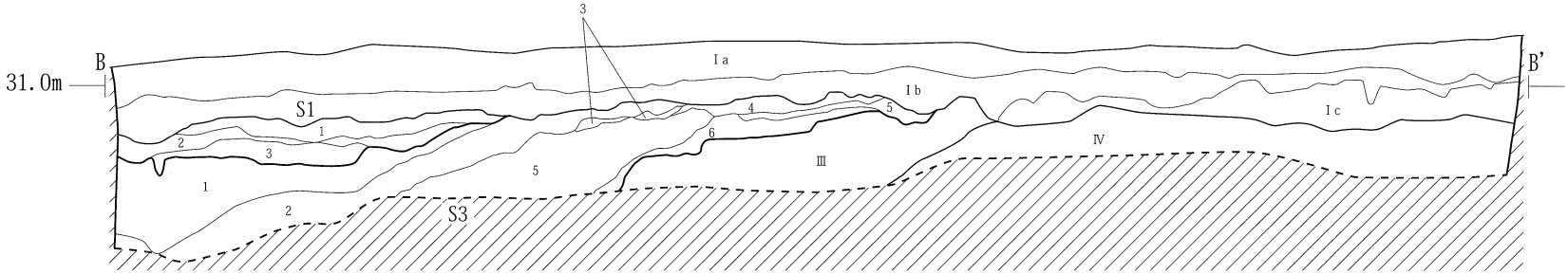
（１）基本層序

基本層序は 10 層に大別される。Ⅰ層は追廻住宅の建設や解体に伴う整地層である。Ⅱ層はトレンチ北側のみで確認し、礫と近現代の遺物を含む整地層である。Ⅲ・Ⅳ層は広瀬川の氾濫起源の可能性がある層で、トレンチ南側

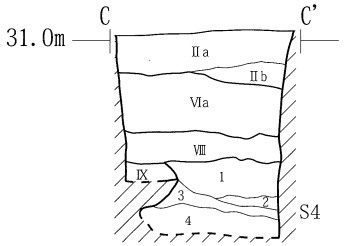
第４図　１号トレンチ平面図



北側サブトレンチ北壁



南側サブトレンチ南壁



北西サブトレンチ南壁

0　　2m

S=1/50

遺構番号	層位	土色	土質	備考
基本層序	Ⅰa	2.5Y6/6　明黄褐色	砂	山砂密に含む。追廻住宅解体に伴う盛土。
	Ⅰb	5Y4/1　灰色	粘土	円礫多量に含む。追廻住宅建設に伴う盛土。
	Ⅰc	10YR4/4　褐色	砂	汚れた山砂層。追廻住宅建設時に撹乱されたⅢ層か。
	Ⅱa	10YR3/3　暗褐色	砂質シルト	円礫まばら、灰色シルトブロック・炭化物粒子わずかに含む。
	Ⅱb	10YR4/7 にぶい黄褐色	砂質シルト	灰黄褐色シルトブロック多量、灰色シルトブロック少量、円礫まばらに含む。
	Ⅲ	10YR5/6　黄色褐色	砂	粒径の細かい砂と粗い砂が互層なし、水平に堆積している。自然堆積層か。
	Ⅳ	7.5YR3/3　暗褐色	砂	円礫多量に含む。広瀬川の氾濫に由来するものか。
	Ⅴa	10YR4/4　暗褐色	粘土質シルト	円礫まばら、炭化物粒子わずかに含む。
	Ⅴb	10YR3/3　暗褐色	砂質シルト	炭化物粒子層状まばらに含む。
	Ⅴc	10YR3/3　暗褐色	砂質シルト	
	Ⅵa	10YR3/4　暗褐色	粘土質シルト	
	Ⅵb	10YR3/4　暗褐色	砂質シルト	
	Ⅶ	10YR6/2　灰黄褐色	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロックが混入する。
	Ⅷ	10YR4/2　灰黄褐色	粘土	
	Ⅸ	10YR4/3　にぶい黄褐色	砂質シルト	

遺構番号	層位	土色	土質	備考
基本層序	Ⅹ	10YR3/3　暗褐色	砂	砂礫層
S1	1	10YR3/2　黒褐色	砂質シルト	黄褐色砂ブロック・礫少量、炭化物粒子・焼土粒子わずかにむ。
	2	7.5YR3/2　黒褐色	砂質シルト	焼土ブロックまばら、礫・炭化物粒子・焼土粒子少量含む。
	3	5YR3/2　暗赤褐色	砂質シルト	焼土ブロック密、炭化物粒子まばらに含む。
S3	1	10YR3/3　暗褐色	砂質シルト	炭化物・礫少量含む。
	2	10YR4/2　暗褐色	砂	黄褐色砂ブロック主体、灰白色粘土質シルトブロック・暗褐色砂質シルトブロックまばら、炭化物少量含む。
	3	10YR5/6　黄褐色	砂	混入物の無い純粋な砂層。
	4	10YR3/3　褐色	砂	暗褐色シルト粒子少量、炭化物粒子わずかに含む。
	5	10YR4/3　にぶい黄褐色	砂	混入物の無い純粋な砂層。3層に比べて砂の粒径が粗い。
	6	10YR3/3　暗褐色	砂	暗褐色シルトブロック多量含む。
S4	1	10YR3/3　暗褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック・礫少量含む。
	2	2.5Y3/4　オリーブ褐色	シルト	
	3	2.5Y3/3　オリーブ褐色	シルト	
	4	10YR2/2　黒褐色	粘土質シルト	

第５図　１号トレンチ土層断面図

のみで確認した。Ⅴ層は礫や炭化物を含むことから人為的堆積層と考えられ、Ⅲ・Ⅳ層の下層に入り込むように堆積している。Ⅵ～Ⅹ層は比較的安定した水平な堆積状況をみせ、自然堆積層と考えられる。Ⅶ～Ⅹ層はトレンチの北側のみで確認した。Ⅶ層中には火山灰と考えられる灰白色土が混入している。これに関しては分析の結果、十和田ａテフラの降下堆積物（915 年噴出）と判明している（第３章参照）。

（２）検出遺構

遺構は３面で確認しており、Ⅰ層下、Ⅲ層上面、Ⅸ層上面において土坑を各１基確認した。Ⅰ層下層のＳ１については、出土遺物から近代以降のものとみられる。

Ｓ３　土坑　トレンチの南端に位置し、Ⅲ層上面で確認した。Ｓ１よりも古い。平面形は南・東側がトレンチ外のため全体は明らかではないが、大型の土坑とみられる。確認した規模は東西方向の長軸が 5.7 m、南北方向の短軸が 2.0 m、深さは 1.0 mである。堆積土は６層に分けられ、東側に向かって傾斜し堆積している。出土遺物は近世陶磁器を主体とするが、その他に飾り金具がある。

Ｓ４　土坑　トレンチの北西端に位置し、Ⅸ層で確認した。平面形は北･西側がトレンチ外のため全体は不明だが、楕円形とみられる。北西サブトレンチ南壁の観察から、断面形はよりオーバーハングしていることがわかる。確認した規模は南北方向の長軸が 1.8 m、東西方向の短軸が 1.2 m、深さは 0.5 mである。堆積土は４層に分けられ、上層の１・２層はレンズ状、３・４層は水平堆積となる。出土遺物は無い。Ⅶ層より下層で検出しており、古代かそれ以前の遺構と考えられる。

（３）出土遺物

合計 123 点の遺物が出土した。遺物の点数比では瓦類が最も多く、全体の 49％を占める。出土層は大半が撹乱やⅠ～Ⅱ層であり、近現代のものとみられる。

陶　器

５点出土し、近世のものは２点あるが、いずれも小破片である。Ⅰ層から産地不明の蓋類、Ｓ３から 17 世紀前半の美濃織部の菊皿が出土した。

磁　器

30 点出土し、近世のものは３点あるが、いずれも小破片である。産地は肥前のほかに不明のものがあり、器種は皿類と瓶類がある。

土師質土器

４点出土した。器種はⅢ類と鉢類がある。Ⅲ類はⅢ層から１点出土したが､小破片のため全体形状は不明である。鉢類は撹乱とⅢ層より上層から出土しており、近世のものかは不明である。

瓦質土器

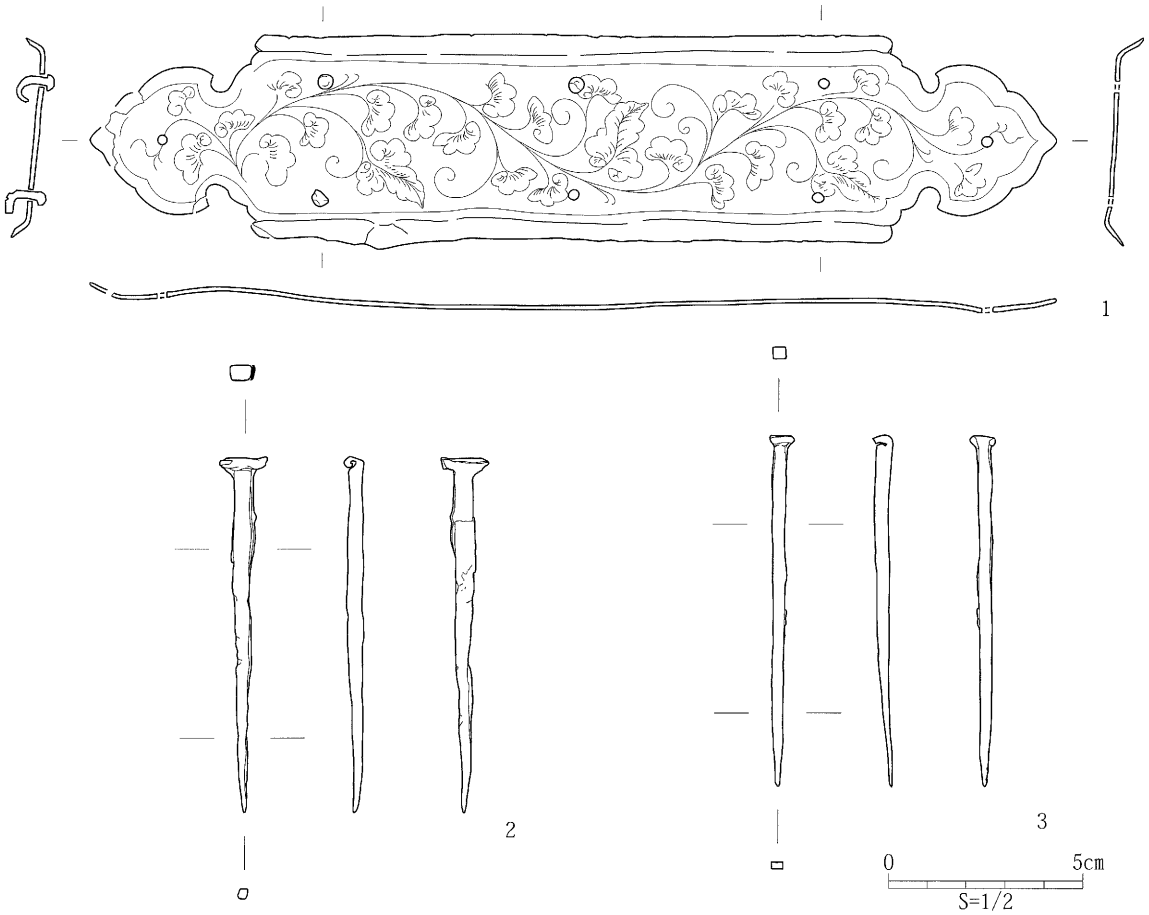
17 点出土し、いずれも小破片である。器種は火鉢などの鉢類のほかに焜炉などがある。これらは全て撹乱とⅡ層から出土しており、近世のものかは不明である。

瓦　類

60 点出土した。このうち丸瓦 15 点、平瓦 41 点が全体の 95% を占める。

金属製品

10 点出土しており、多くはⅠ層中と撹乱からのものである。近世のものとしてはⅠ層中の鉄釘１点、Ｓ１の鉄釘２点（第６図２、３）と、Ｓ３の飾り金具１点（第６図１）がある。飾り金具は銅製で、唐草文が彫られている。唐草文の葉は３枚から４枚に分かれる特徴があり、細工は丁寧といえる。唐草文の特徴に加え、本来このような金具は鍍金されているものが多いが、そのような痕跡が確認できない点や表面や端部が荒れている点などから被熱している可能性があり､近世後半のものと考えられる（注１）。この他にⅠ層中より戦時中のものとみられる銃弾が１点出土した。



図版番号	登録番号	種　類	器　種	遺構・層位	法　量(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	備　考	写真番号
1	N５	金属製品	飾り金具	S３－１層	(26.0)	5.7	1.1	109.0	銅製品　文様：唐草文 時期：近世後半　建物の金具か？ 被熱している可能性あり。	６－１
2	N３	金属製品	釘	S１－３層	9.4	0.6	0.3	8.0	鉄製品	６－２
3	N４	金属製品	釘	S１－３層	9.3	0.4	0.3	6.0	鉄製品	６－３

第６図　１号トレンチ出土遺物

３　２号トレンチ

トレンチは南北方向を軸に長さ 15.4 m、幅 3.9 mの規模で設定した。また基本層序を観察するため、西壁側、南東隅、トレンチ中央に東西方向のサブトレンチを設定した。

（１）基本層序

基本層序は８層に大別される。Ⅰ層は現代の整地層である。Ⅱ層はトレンチの全面で確認し、近現代の遺物を含む整地層である。Ⅲ～Ⅴ層は西側のサブトレンチでは南北双方から中心部に向かって緩やかに傾斜している。また東西サブトレンチでは東側への層の傾斜を確認し、全体としてはトレンチの東辺中央部に向かって擂鉢状の落ち込みを形成している。この落ち込みについては全体を把握できないため、遺構堆積土か整地層に相当するのかは判然としない。Ⅵ層以下はトレンチの北側と南側で様相が異なり、北側ではⅥ層が堆積し、下層には礫層が形成されている。Ⅵ層は砂層を主体とし、下層の状況から広瀬川起源の自然堆積層と考えられる。しかし細かな層状の堆積がみられないことから、人為的堆積の可能性も否定できない。トレンチ南側ではⅦ・Ⅷ層を確認したが、層全体としては顕著な傾斜は認められない。Ⅷ層からは近世の遺物が出土しており、人為的堆積と考えられる。

（２）検出遺構

遺構は２面で確認しており、Ⅳ層で礫群１基、Ⅴｃ層で土坑１基を確認した。

Ｓ７　礫群　トレンチの中央部分に位置し、Ⅳ層中で一部を確認した。南北方向に延び、プランは東側に向かって

落ち込んでいる。確認した規模は南北方向の長軸が8.0 mである。出土遺物は無く、落ち込みに伴う堆積土の一部か人為的に集積されたものかは不明である。

（3）出土遺物

合計370点の遺物が出土した。出土層のほとんどが近現代の撹乱とⅠ層からであり、その大半は瓦類で、全体の74％を占める。

陶　器

12点出土し、近世のものは10点ある。産地は大堀相馬、唐津、美濃、志野などがあり、器種は皿類や碗類、擂鉢などがある。層位の時期を示すものではないが、サブトレンチから17世紀前半の丹波の擂鉢、Ⅱ層から17世紀初めの志野皿が出土した。

磁　器

18点出土し、近世のものは1点ある。Ⅲ層から肥前の染付皿が出土しているが、小破片のため、時期は特定できない。

土師質土器

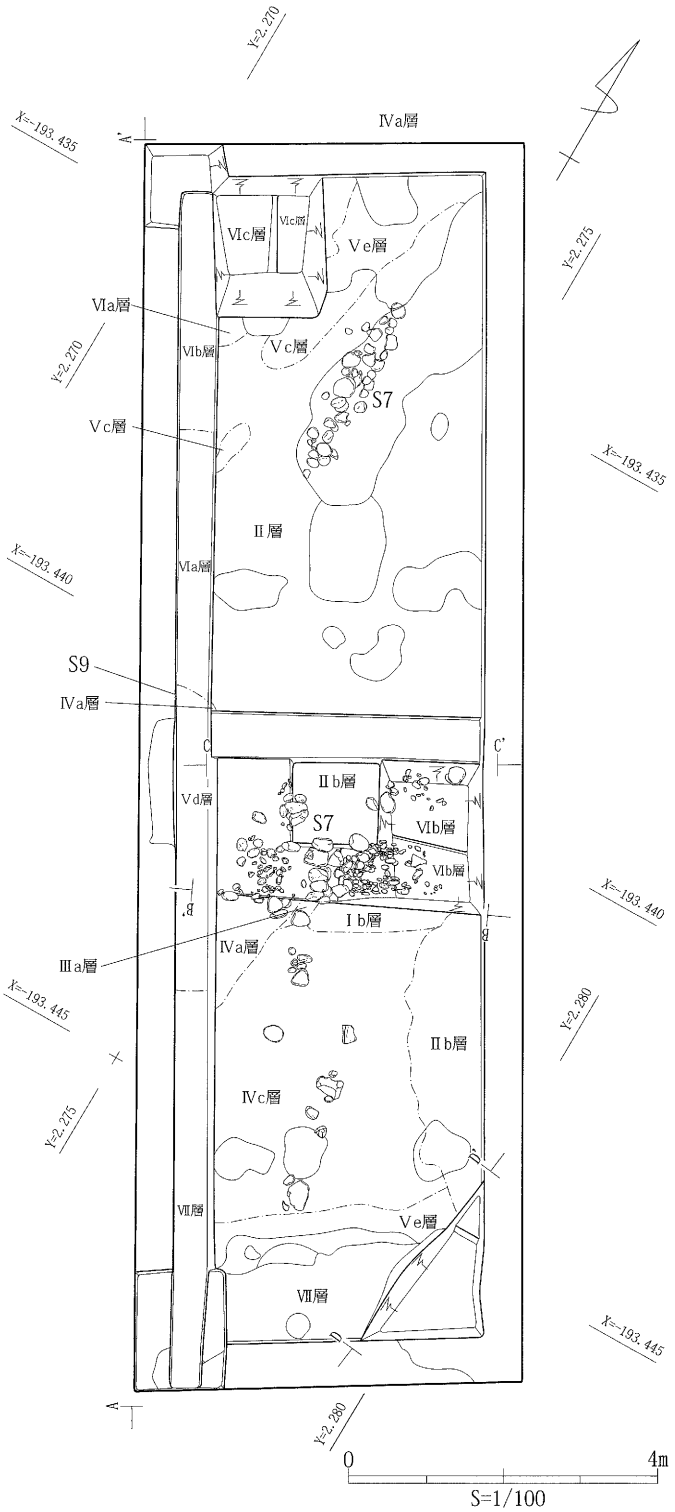
7点出土した。器種は皿類、鉢類、焼塩壺がある。皿類は破片が多く、全体を復元できるものはⅧb層から出土した1点のみである（第9図1）。焼塩壺はⅤe層から17世紀代の在地産とみられるものが出土している。鉢類は撹乱からの出土であり、近世のものかは不明である。

瓦質土器

10点出土し、いずれも小破片である。器種は鉢類がある。近現代の層と考えられるⅡ層より上層から出土したもので、時期は不明である。

瓦　類

274点出土し、丸瓦の70点と平瓦の175点が全体の89％を占める。瓦類の大半は撹乱と近代以降の層からの出土である。また軒丸瓦と軒平瓦が各1点ずつ出土しているが、いずれも瓦当面文様は不明である。



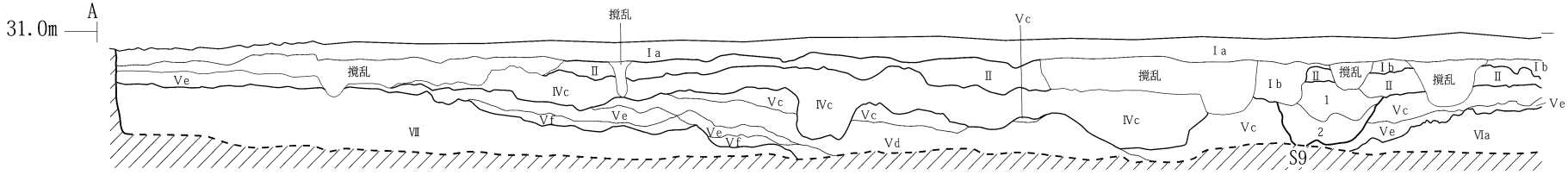
第7図　2号トレンチ平面図

金属製品

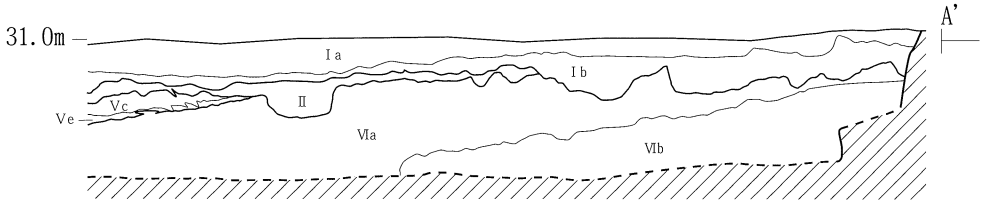
26点出土した。釘や銭貨がみられるがいずれも近現代のものである。

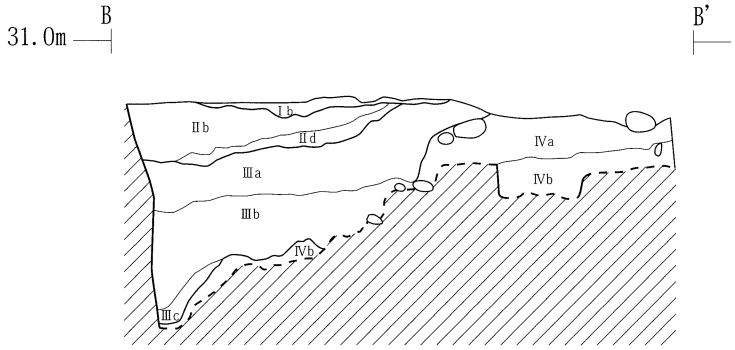
その他の遺物

土師器がⅣ層から8点、Ⅴ層から4点、撹乱から2点の計14点出土した。Ⅳ・Ⅴ層から出土したもののうち、

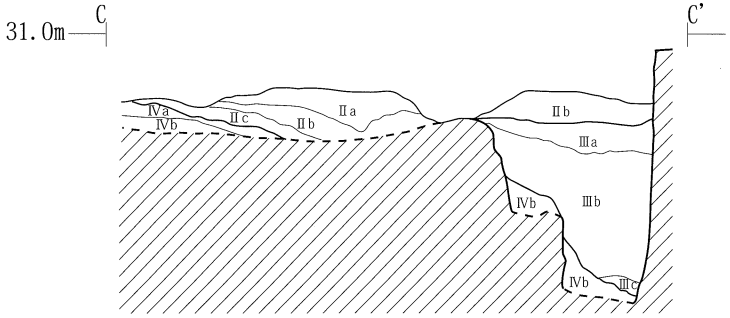


西側サブトレンチ西壁



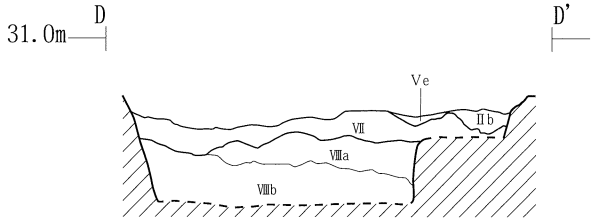


東西サブトレンチ南壁



東西サブトレンチ・撹乱北壁見通し合成図

0　2m
S=1/50



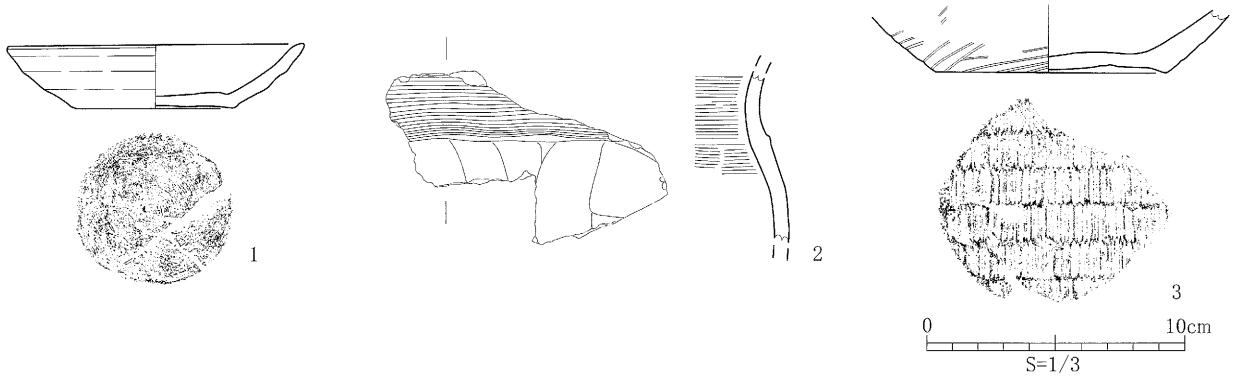
南東角サブトレンチ北西壁

遺構番号	層位	土色	土質	備考
基本層序	Ⅰa	2.5Y6/6　明黄褐色	砂	山砂密に含む。追廻住宅解体に伴う盛土。
	Ⅰb	10YR3/2　黒褐色	砂質シルト	円礫多量に含む。追廻住宅建設に伴う盛土。
	Ⅰc	2.5Y5/2　暗灰黄色	砂質シルト	円礫少量含む。
	Ⅱa	10YR3/3　暗褐色	砂質シルト	粗砂～小礫・礫多量に含む。
	Ⅱb	10YR3/4　暗褐色	シルト	礫多量に含む。瓦片含む。
	Ⅱc	10YR3/2　黒褐色	砂	粗砂～小礫密に含む。
	Ⅱd	10YR4/2　灰黄褐色	砂質シルト	暗灰色・灰色・黄褐色シルトブロックまばら、炭化物粒子わずかに含む。
	Ⅲa	10YR4/4　褐色	シルト	黄褐色砂ブロック・灰色シルトブロック・礫少量含む。
	Ⅲb	10YR3/2　黒褐色	砂質シルト	灰色砂質シルトブロックまばら、礫少量、炭化物粒子わずかに含む。
	Ⅲc	10YR4/2　灰黄褐色	砂質シルト	灰色砂質シルトブロック多量、炭化物粒子わずかに含む。

遺構番号	層位	土色	土質	備考
基本層序	Ⅳa	10YR4/3　にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色粘土質シルトブロック・黄褐色シルトブロックの混合土、礫まばらに含む。
	Ⅳb	10YR4/3　にぶい黄褐色	砂質シルト	基本的にⅣaに類似する。黄褐色土の上質が砂質シルトとなり、礫の混入量も多くなる。
	Ⅳc	10YR4/3　にぶい黄褐色	砂質シルト	基本的にⅣbに類似する。礫の量は少なく、部分的な混入となる。
	Va	10YR5/1　褐灰色	粘土質シルト	砂粒・礫少量含む。
	Vb	10YR5/8　黄褐色	砂	黒褐色粘土質シルトブロック少量含む。
	Vc	10YR5/6　黄褐色	砂	
	Vd	10YR5/4　にぶい黄褐色	砂	黄褐色砂主体。黒褐色粘土ブロックまばらに含む。
	Ve	2.5Y4/1　黄灰色	粘土質シルト	砂粒まばらに含む。
	Vf	10YR5/4　にぶい黄褐色	砂	Vb～Veの主体をなす砂質土とⅦの混合土。漸移層か。
	Ⅵa	10YR5/6　黄褐色	砂	暗褐色～暗灰色シルトブロックを含む

遺構番号	層位	土色	土質	備考
基本層序	Ⅵb	10YR6/6　明黄褐色	砂質	暗灰色粘土が層状に混入する。
	Ⅵc	10YR5/4　にぶい黄褐色	砂質	礫(拳大～人頭大)多量に含む。
	Ⅶ	10YR3/3　暗褐色	砂質シルト	灰色粘土質シルトブロック・礫少量、炭化物粒子わずかに含む。
	Ⅶa	10YR3/3　黒褐色	砂質シルト	灰黄褐色シルトブロック少量、礫・炭化物粒子わずかに含む。
	Ⅶb	10YR4/2　灰黄褐色	砂質シルト	灰黄褐色シルトブロックまばら、礫・炭化物粒子をわずかに含む。
S9	1	2.5Y5/3　黄褐色	砂質	汚れた山砂。
	2	2.5Y4/1　黄灰色	粘土質シルト	Ve層土主体。円礫まばらに含む。

第８図　２号トレンチ土層断面図



図版番号	登録番号	種　類	器　種	遺構・層位	法　量(cm) 口径	底径	器高	産　地	時　期	備　考	写真番号
1	Ⅰ134	土師質土器	皿	Ⅷb層	(11.5)	6.0	2.6	在地	近世	ロクロ調整　底部：右回転糸切痕	6－4

図版番号	登録番号	種　類	器　種	遺構・層位	法　量(cm) 口径	底径	器高	備　考	写真番号
2	C3	土師器	甕	Ⅳ層	—	—	—	頸部破片　栗囲式　外面調整：口縁部ヨコナデ　体部ヘラナデ　内面調整：口縁部ヨコナデ	6－5
3	C4	土師器	甕	Ⅳ層	—	9.0	—	底部片　外面調整：ハケメ　内面調整：ヘラナデ　底部：莚状の圧痕	6－6

第９図　２号トレンチ出土遺物

10点は甕の破片である。部位の内訳としては頸部１点、胴部８点、底部１点である。このうちⅣ層から出土したものを図示した（第９図２、３）。これらの底部には莚（むしろ）状の圧痕が認められる。また胴部破片の外面には全てハケメによる調整が施されている。Ⅳ・Ⅴ層出土の甕の破片10点の時期については古代の土師器と考えられるが、これ以外は小破片で摩滅が激しく、器種や時期を特定することはできない。

４　３号トレンチ

トレンチは南北方向を軸に長さ31.1ｍ、幅2.0mの規模で設定した。また基本層序確認のため、トレンチ西壁側にサブトレンチを設定した。

（１）基本層序

基本層序は10層に大別される。Ⅰ層は現代の整地層である。Ⅱ・Ⅲ層は整地層で、ほぼ水平に堆積しており、近現代の遺物を含んでいる。Ⅳ層は埋め戻し層とみられ、ａ・ｂ層に細分され、Ⅳａ層はＳ５上面、Ⅳｂ層はＳ２とＳ５上面にかけて堆積している。Ⅳ層からは19世紀前半の遺物が出土している。Ⅴ～Ⅹ層は自然堆積層とみられ、Ⅴ～Ⅷ層はトレンチの南側で、Ⅸ・Ⅹ層はトレンチの北端部分で確認した。

（２）検出遺構

遺構は６面で確認しており、Ⅱ層でピット１基、Ⅲ層で土坑１基、ピット12基、Ⅳ層で焼面１基、Ⅴ層で土坑１基、Ⅵ層で土坑１基、ピット１基、Ⅸ層でピット１基を確認した。ピットのうちⅡ層のＰ２、Ⅲ層のＰ３・６・７は底面に石が置かれており、礎盤石を伴う柱穴と考えられ、この地区に建物の存在が想定される。

Ｓ２　土坑　トレンチ中央より南側に位置し、Ⅴ層で確認した。サブトレンチで一部を確認したのみで、全体は明らかではない。確認できた規模は南北方向の長軸が12.0ｍ、深さは0.5ｍである。堆積土は７層に大別される。１層はａ・ｂ層に細分され、上層の１ａ層はシルトブロックや礫が混入する砂質土で、人為的な埋め戻し層と考えられる。その下層にはＳ５を覆う埋め戻し層であるⅣｂ層が入り込んでいる。下層の２～７層はレンズ状の堆積の自然堆積と考えられる。出土遺物は１層中から瓦類が多数ある。

Ｓ５　土坑　トレンチ中央より北側に位置し、Ⅵ層で確認した。サブトレンチで一部を確認したのみで、全体は明らかではない。確認できた規模は南北方向の長軸が14.6ｍ、深さは0.5ｍである。堆積土は４層に分けられる。４層は混入物を含まないにぶい黄褐色砂と小礫を含む暗褐色砂が、細い互層となり堆積している。出土遺物は瓦類を主体とし、ほかに19世紀前半の陶磁器類がある。

（3）出土遺物

合計 423 点の遺物が出土した。出土遺物の大半は瓦類で、全体の 79％を占める。Ⅳ層とＳ５からは 19 世紀前半代の遺物が多く出土している。

陶　器

26 点出土し、近世のものは 24 点とほとんどを占めるが小破片が多い。産地は大堀相馬が多く、全体の 37％を占め、この他には堤、肥前、唐津、美濃などがある。器種は碗類が多く、37％を占め、この他に鉢類、擂鉢、土瓶などある。Ⅳ層からは 19 世紀前半の堤の鉄釉擂鉢や大堀相馬の青釉土瓶があり、Ｓ５からは 19 世紀前半の大堀相馬の豆甕などが出土した。

磁　器

30 点出土し、近世のものは 25 点で小破片が多い。産地は肥前が圧倒的に多く、全体の 92％を占める。この他に瀬戸美濃、中国などがみられる。器種は皿類が 36％、碗類が 32％を占める。この他の器種には段重や猪口がみられる。Ⅳ層からは 19 世紀代の肥前の染付段重が、Ｓ５からは 19 世紀中葉の肥前の染付皿、瀬戸美濃の製品が出土した。この他にはＳ５から 16 世紀末から 17 世紀前半に位置づけられる中国の青花皿が出土している。

土師質土器

７点出土し、器種は皿類と鉢類がある。皿類は小破片が多く、全体を復元できたのはＳ５から出土した１点のみである（第 12 図 1）。鉢類は撹乱からの出土であり、時期は不明である。

瓦質土器

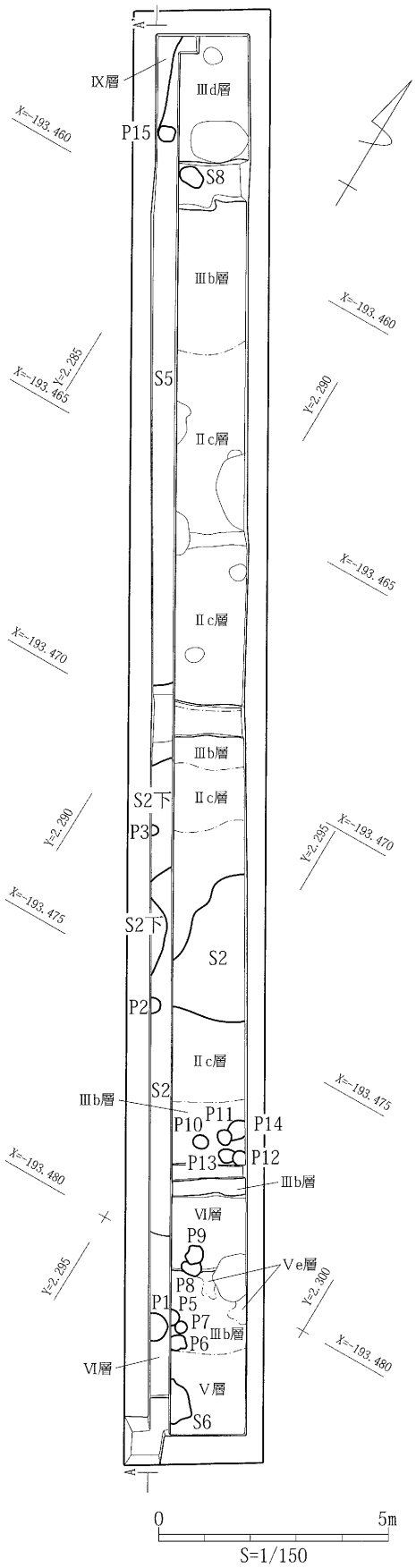
３点出土し、器種は鉢類がある。Ⅳ層から出土したもの以外は時期不明である。

瓦　類

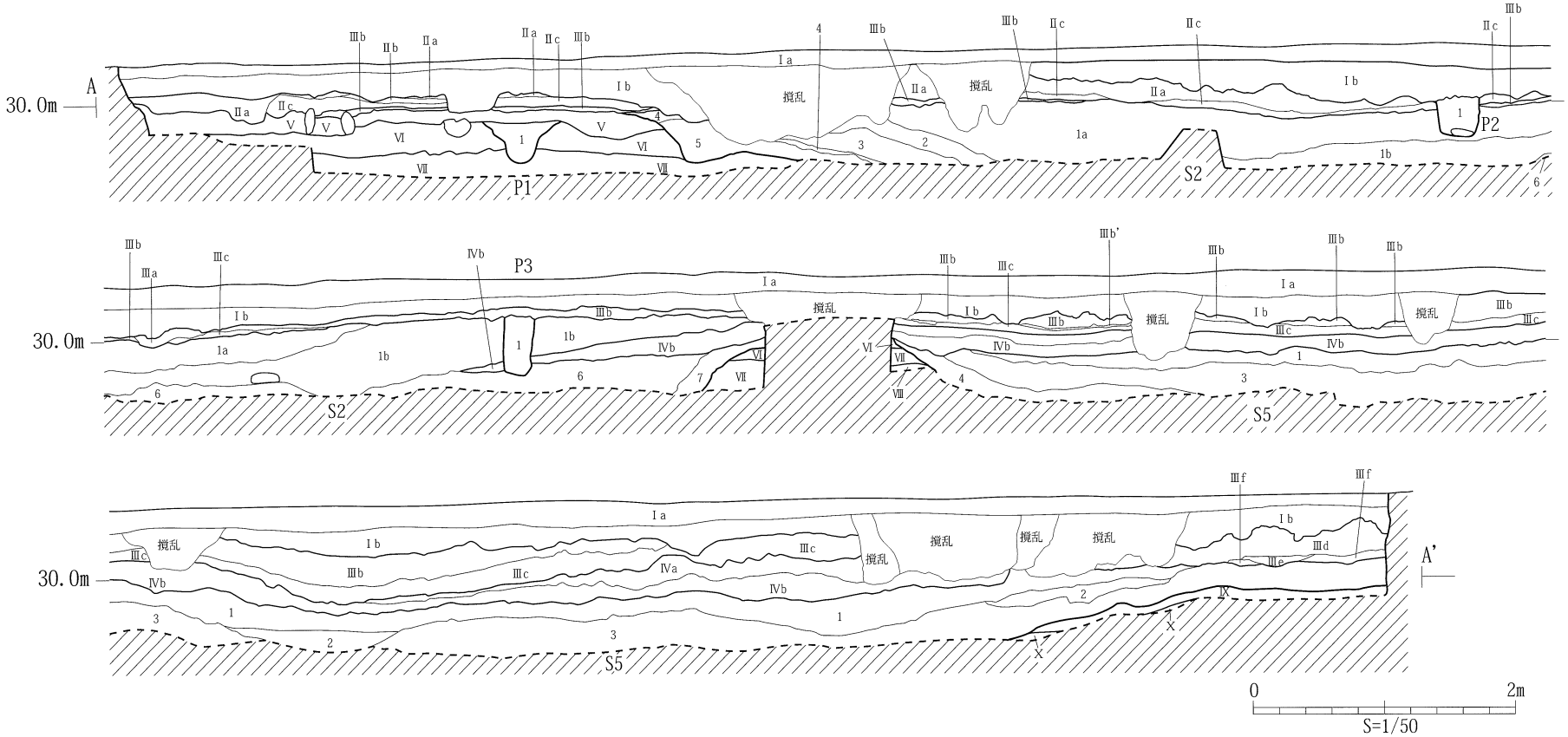
335 点出土した。出土地別にみると、Ⅳ層・Ｓ２・Ｓ５から多く出土している。種類別では丸瓦 87 点、平瓦 188 点が全体の 82％を占める。この他の種類としては軒丸瓦、軒平瓦、軒桟瓦、伏間瓦がみられる。軒丸瓦は７点出土し、瓦当文様の判別可能なものは４点あり、このうち２点を図示した。瓦当面文様は珠文三巴文３点、九曜文１点である。珠文三巴文には右巻と左巻のものがあり、右巻はⅠ層とＳ５（第 12 図２）から１点ずつ、左巻はＳ５から１点出土した（第 12 図３）。軒平瓦は２点出土したが、いずれも瓦当面文様は不明である。また軒桟瓦は１点出土しており、瓦当面文様は左巻の三巴文である。

金属製品

19 点出土した。種別は釘、銭貨がある。釘はⅧ層とＳ５から出



第 10 図　３号トレンチ平面図

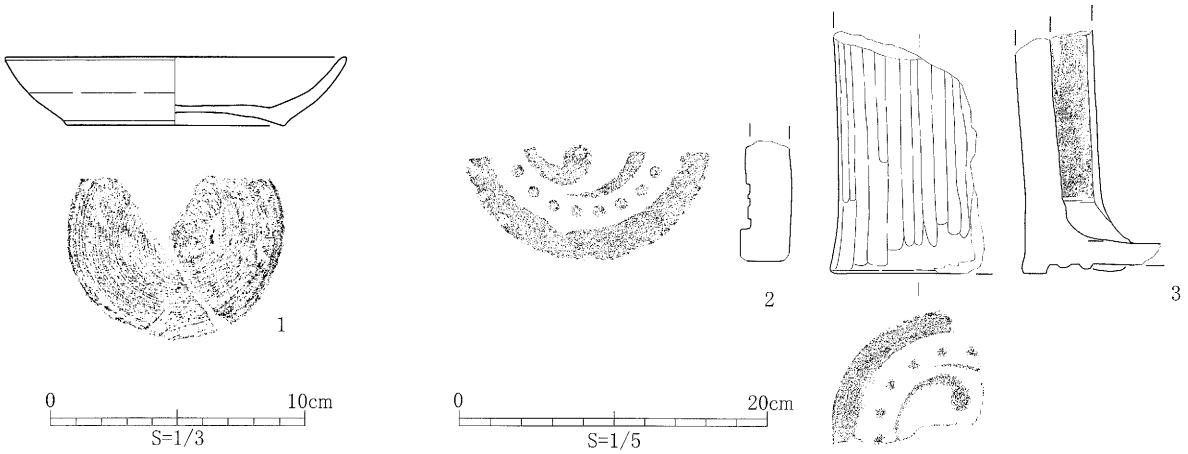


遺構番号	層位	土色	土質	備考
基本層序	Ⅰa	2.5Y6/6 明黄褐色	砂	山砂密に含む。追廻住宅解体に伴う盛土。
	Ⅰb	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	円礫を多量含む。追廻住宅建設に伴う盛土。
	Ⅱa	10YR5/2 灰黄褐色	砂	小礫を少量、炭化物粒子をわずかに含む。
	Ⅱb	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	黄褐色・灰黄褐色砂質シルトブロックの混合土。白色小礫・炭化物粒子をわずかに含む。
	Ⅱc	10YR4/2 灰黄褐色	砂	小礫・炭化物粒子をわずかに含む。
	Ⅲa	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂	暗褐色粘土質シルトブロック・灰色シルトブロックを少量、炭化物粒子わずかに含む。
	Ⅲb	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂	暗褐色シルトブロックを少量、炭化材粒子わずかに含む。
	Ⅲb'	10YR1.7/1 黒色	粘土質シルト	炭化物粒子層。Ⅲb・Ⅲcいずれに帰属するのかは不明。
	Ⅲc	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂	灰黄褐色シルトブロックを少量、炭化物粒子わずかに含む。
	Ⅲd	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黄褐色シルトブロック・小礫をまばら、礫を少量含む。
	Ⅲe	10YR2/1 黒色	砂	炭化物粒子を多量、炭化物をまばら、小礫を少量含む。
	Ⅲf	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	炭化物粒子を少量含む。
	Ⅳa	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂	暗灰色砂質シルト・灰黄褐色砂質シルト～砂ブロックをまばら、暗褐色粘土質シルトブロック・礫を少量、炭化物粒子をわずかに含む。

遺構番号	層位	土色	土質	備考
基本層序	Ⅳb	2.5Y 4/2 暗灰黄色	砂	礫少量、炭化物粒子わずかに含む。
	Ⅴ	10YR3/3 暗灰黄色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック(Ⅵ層土)少量含む。
	Ⅵ	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	
	Ⅶ	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	
	Ⅶ	10YR4/4 褐色	砂	
	Ⅸ	10YR4/1 褐灰色	粘土	暗灰色粘土主体。
	Ⅹ	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	暗灰色粘土ブロックまばら、礫少量含む。
S2	1a	10YR3/2 暗褐色	砂	黄褐色砂主体。暗褐色粘土質シルトブロック・暗灰色シルトブロック多量、礫少量、炭化物粒子わずかに含む。
	1b	10YR4/2 灰黄褐色	砂	黄褐色砂主体。暗褐色粘土質シルトブロック・暗灰色シルトブロックまばらに含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	砂まばら、炭化物粒子わずかに含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	暗褐色粘土質シルト・暗灰色シルト主体。炭化物粒子わずかに含む。
	4	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色粘土質シルトが層状にまばらに混入する。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	礫多量に含む。

遺構番号	層位	土色	土質	備考
S2	5	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	礫を多量含む。
	6	2.5Y4/3 褐色	砂	灰色シルトブロック・礫少量含む。
	7	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	炭化物少量含む。
S5	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂	礫まばらに含む。締まりは非常に弱い。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂	
	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	礫少量含む。瓦も含まれている。
	4	10YR4/2 にぶい黄褐色	砂	純粋な砂層。
		10YR3/4 暗褐色	砂	小礫多量、にぶい黄褐色シルトブロック少量、炭化物粒子・焼土粒子わずかに含む。
		※上記の2種類の土が細かく交互に堆積している。		
P1	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック少量含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	砂	灰黄褐色砂ブロック・炭化物粒子少量含む。
P3	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	暗褐色シルトブロック主体。にぶい黄褐色シルト(Ⅵ層)ブロックまばらに含む。

第11図　3号トレンチ西側サブトレンチ西壁土層断面図



図版番号	登録番号	種　類	器　種	遺構・層位	法　量(cm) 口径	底径	器高	産　地	時　期	備　考	写真番号
1	I 135	土師質土器	Ⅲ	S 5－3層	(13.3)	8.5	2.6	在地	近世	ロクロ調整　底部：右回転糸切痕→ナデ	6－7

図版番号	登録番号	種　類	遺構・層位	文　様	長さ(cm)	瓦当部(cm) 直径	内区径	周縁部幅	周縁高	重さ (kg)	備　考	写真番号
2	F 1	軒丸瓦	I 層	珠文三巴文	—	(16.0)	(11.8)	2.1	0.7	0.46	瓦当部：巴右巻・珠数不明・珠径0.8cm	6－8
3	F 3	軒丸瓦	S 5－4層	珠文三巴文		(14.4)	(11.4)	1.5	0.6	0.73	瓦当部：巴左巻・珠数不明・珠径0.8cm　凸面：ナデ　凹面：布目	6－9

第 12 図　3号トレンチ出土遺物

土しており、いずれも角釘である。銭貨はⅠ・Ⅱ層より近現代のものが出土した。

石製品

Ⅳ層から硯の破片が1点出土した。

その他の遺物

撹乱とⅢ層から土師器が1点ずつ出土した。撹乱出土のものは甕の胴部破片で、古代のものとみられ、Ⅲ層出土のものは摩滅が激しく時期、器種を特定できない。

（注1）　高橋あけみ氏による。

第2節　第2次調査

1　調査経過

第2次調査は追廻地区に試掘トレンチとして7か所のトレンチを設定して行った。調査は近年の整地層を重機で除去した後、これより下層は人力により掘り下げ、遺構確認面での精査や遺構確認を行った。基本層序の観察は遺構確認面の記録後に各トレンチにおいてサブトレンチを設定し行った。基本層序の設定に関しては、トレンチ間の距離が離れているため、各トレンチでは統一せず個別に設定している。

検出遺構には池跡や溝跡、石組遺構などがあり、基本的には確認にとどめたが、サブトレンチにかかるものについては遺構の性格を判断のため一部掘り込んだ。1号トレンチの弥生土器が出土したXV層、5号トレンチのS 88 溝跡については分析用の試料採取を行った。埋め戻しはトレンチ全体を保護するため、発生土のうち混入物の少ない土を厚さ 10cm ほど敷き詰めてから行った。また1号トレンチのS 18・S 19 については遺構保護のため、上面に山砂を敷き詰めた。

2　1号トレンチ

追廻地区の北側に位置する。トレンチは南北方向を軸にに長さ 20.0 m、幅 4.0 mの規模で設定した。またトレンチの西壁側に沿ってサブトレンチを設定し、またトレンチ北側と南側の撹乱を利用し、サブトレンチにより東西

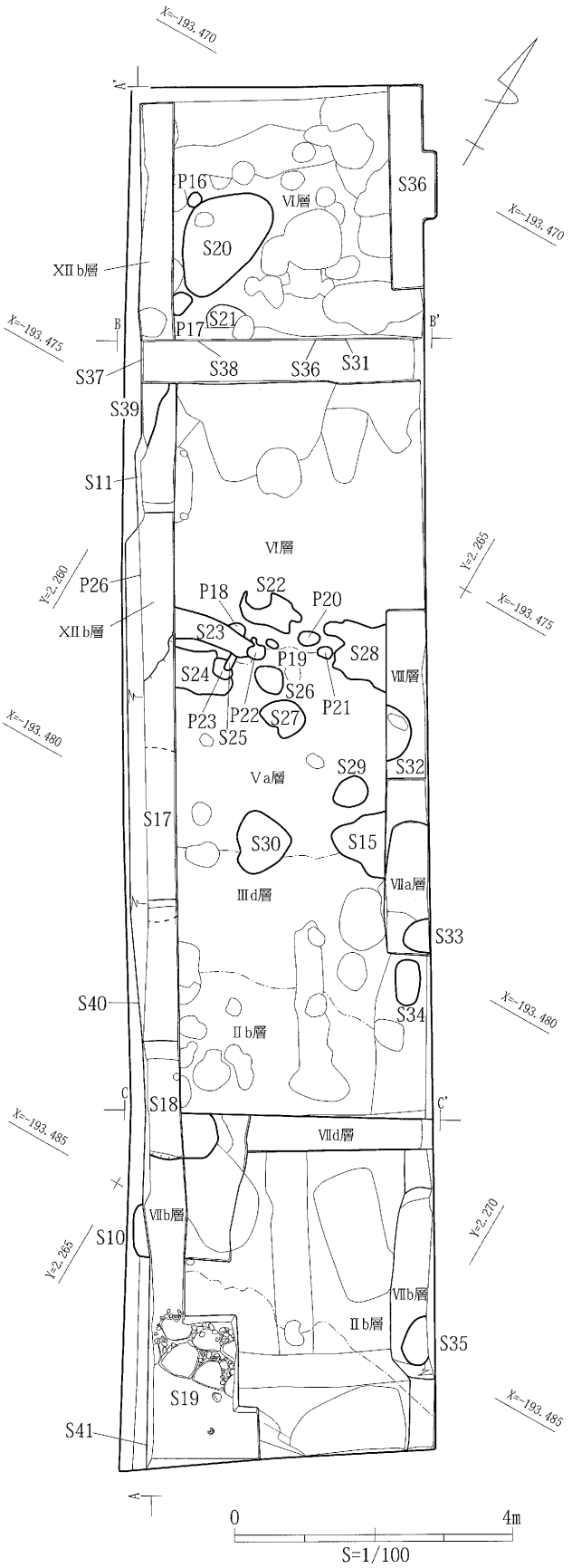
方向の堆積状況についても確認した。

（1）基本層序

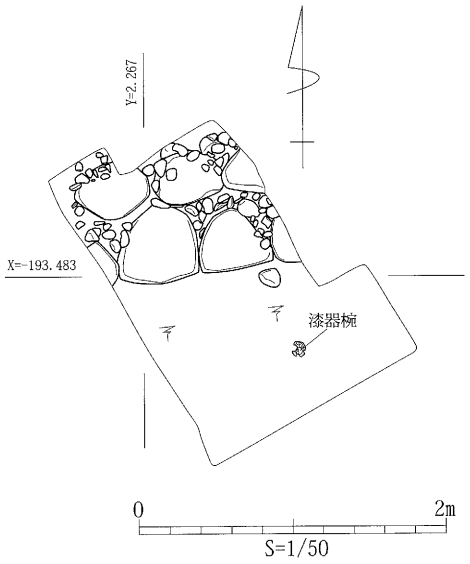
基本層序は17層に大別される。Ⅰ層は追廻住宅の建設や解体に伴う現代の整地層である。Ⅰ層以下は南側へ向かって傾斜する落ち込みを確認しており、これを境にトレンチ中央より北側と南側で堆積土の様相が異なる。南側では落ち込みを埋めた整地層であるⅡ～Ⅴ・Ⅶ・Ⅹ層を確認し、中でもⅡ層は近現代の遺物を含む層である。Ⅲ・Ⅴ・Ⅹ層は南側に傾斜している。北側ではⅥ・Ⅷ・Ⅸ・ⅩⅠ層のほぼ水平に堆積する整地層を確認した。Ⅸ層は層厚5㎝の薄い層で、炭化物を多量に含んでいる。ⅩⅡ～ⅩⅦ層は自然堆積層である。ⅩⅡ層は灰色シルトを主体とし、上面は南側へ緩く傾斜し、トレンチ中央付近から大きく落ち込むと考えられる。トレンチ南側ではこの層の堆積は認められない。ⅩⅤ層はa～cの3層に細分でき、ⅩⅤa層からは弥生時代中期の土器片が出土した。ⅩⅤ層については土壌の性質を探るため理化学分析を行っている（第3章参照）。

（2）検出遺構

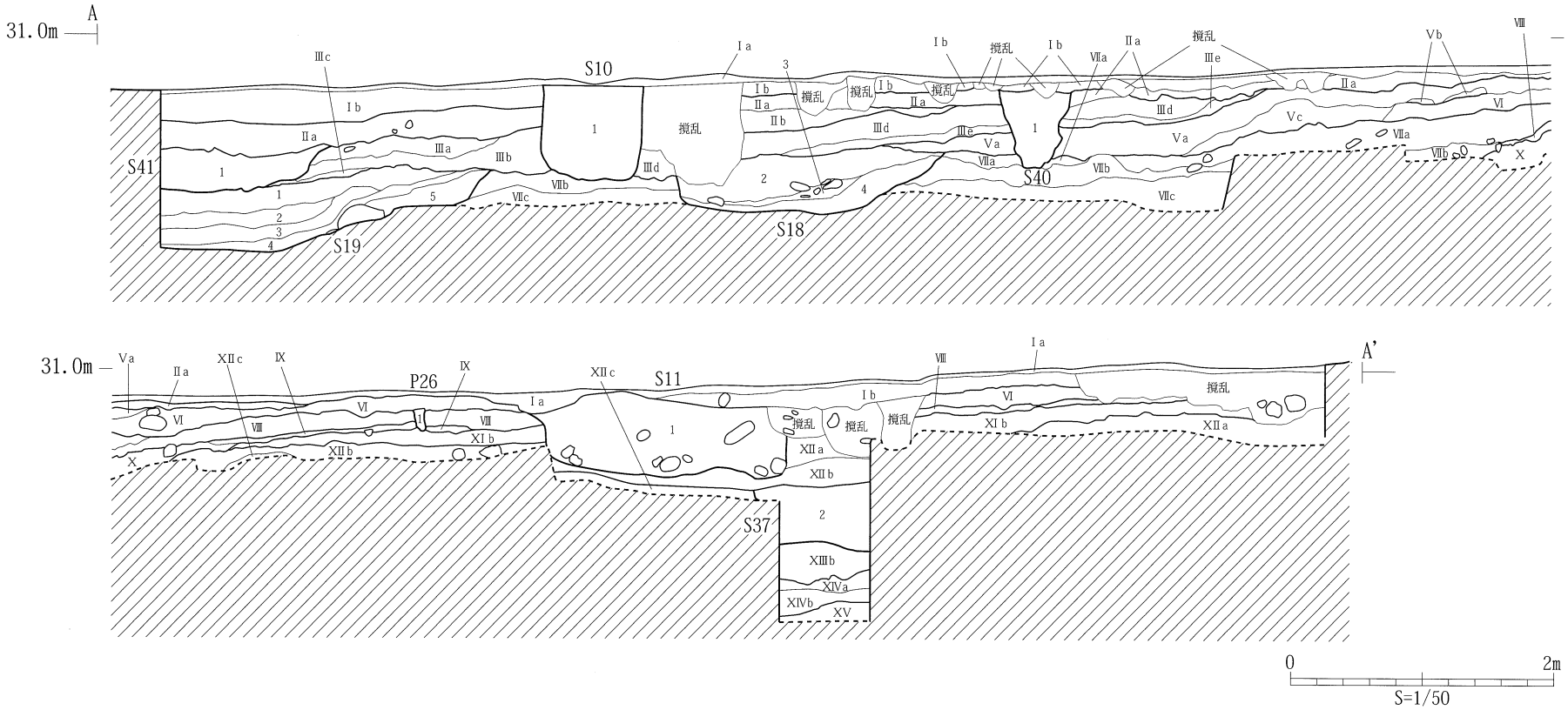
遺構は11面で確認しており、Ⅱa層で硬化面の広がりを5ヶ所、土坑2基、Ⅱb層上面で土坑1基、Ⅲa層上面で土坑1基、Ⅴa層上面で土坑7基、ピット9基、Ⅵ層上面で土坑5基、Ⅶa層上面で土坑5基、Ⅶb層上面で池跡1基、Ⅷ層上面で土坑1基、Ⅹ層上



第13図　1号トレンチ平面図



第14図　S 19平面図



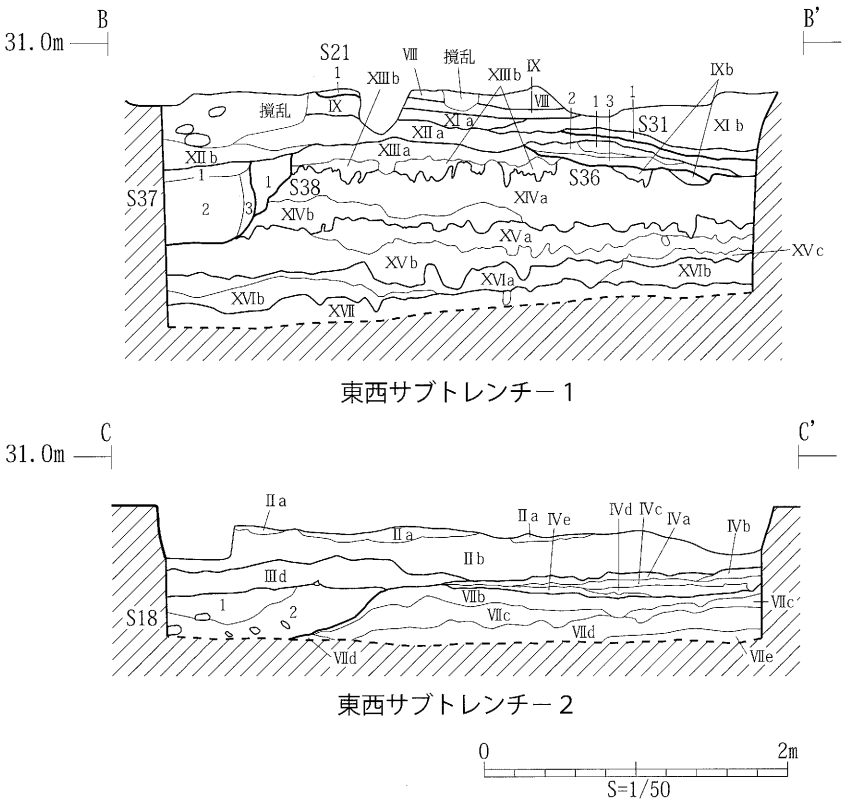
遺構番号	層位	土色	土質	備考
基本層序	Ⅰa	2.5Y6/6 明黄褐色	砂	山砂密に含む。追廻住宅解体に伴う盛土。
	Ⅰb	7.5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	追廻住宅建設に伴う盛土。
	Ⅱa	7.5YR5/1 褐灰色	粘土	礫をまばら、灰色・灰黄褐色シルトブロック少量含む。
	Ⅱb	7.5YR5/1 褐灰色	シルト	黄橙色シルトブロック・礫をまばら、炭化物粒子少量含む。
	Ⅲa	10BG5/1 青灰色	シルト	灰白色シルトブロック・礫をまばら、炭化物少量含む。
	Ⅲb	7.5YR6/1 褐灰色	シルト	灰色・灰白色シルトブロック・礫・炭化物粒子少量含む。
	Ⅲc	10YR7/1 灰白色	シルト	灰色・灰白色シルトブロック・炭化物粒子まばらに含む。
	Ⅲd	7.5YR5/2 褐灰色	シルト	灰白色シルトブロック・炭化物粒子少量含む。
	Ⅲe	7.5YR6/1 褐灰色	シルト	黄橙色シルトブロック・礫・炭化物粒子わずかに含む。
	Ⅳa	7.5YR7/2 明褐灰色	砂	灰白色シルトブロック多量、礫少量含む。
	Ⅳb	7.5YR6/2 灰褐色	砂質シルト	灰白色シルトブロック少量含む。
	Ⅳc	7.5YR6/1 褐灰色	シルト	灰白色シルトブロック少量、炭化物粒子わずかに含む。
	Ⅳd	7.5YR7/1 灰白色	砂質シルト	炭化物層。浅黄褐色シルトブロックわずかに含む。
	Ⅳe	7.5YR7/1 灰白色	砂質シルト	粗粒砂わずかに含む。
	Ⅴa	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	灰色シルトブロック・礫まばら、炭化物少量含む。
	Ⅴb	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子少量含む。

遺構番号	層位	土色	土質	備考
基本層序	Ⅴc	7.5YR6/1 褐灰色	シルト	灰色シルトブロック・礫まばら、炭化物少量含む。
	Ⅵ	10YR6/1 褐灰色	シルト	灰白色粘土ブロック・礫まばら、炭化物粒子少量含む。
	Ⅶa	10Y7/1 灰色	シルト	灰白色シルトブロックまばら、炭化物粒子少量含む。
	Ⅶb	10Y7/1 灰白色	粘土質シルト	灰白色シルトブロック・礫まばら、炭化物粒子少量含む。
	Ⅶc	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物粒子わずかに含む。
	Ⅶd	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	炭化物わずかに含む。
	Ⅶe	10Y7/1 灰白色	砂質シルト	灰白色シルトブロックわずかに含む。
	Ⅷ	10YR7/4 にぶい黄橙色	砂	灰色シルトブロック・灰色砂まばら、炭化物粒子わずかに含む。
	Ⅸ	7.5Y4/1 灰色	シルト	炭化物粒子・焼土粒多量、灰白色砂わずかに含む。
	Ⅹ	10Y3/1 オリーブ黒色	シルト	灰白色シルトブロック・礫まばらに含む。
	ⅩⅠa	10YR6/1 褐灰色	シルト	灰色シルト粒子・砂わずかに含む。
	ⅩⅠb	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰色・黄橙色シルト粒子・炭化物粒子まばらに含む。
	ⅩⅡa	10BG5/1 青灰色	シルト	灰白色シルト粒子・炭化物粒子まばらに含む。
	ⅩⅡb	10Y5/1 灰色	シルト	
	ⅩⅡc	10Y6/1 灰色	シルト	
	ⅩⅢa	10Y4/1 灰色	シルト	灰白色シルト粒子まばらに含む。

遺構番号	層位	土色	土質	備考
基本層序	ⅩⅢb	10Y6/1 灰色	シルト	ⅩⅢaとⅩⅣaの混合土。漸移層か。
	ⅩⅣa	10YR8/2 灰白色	粘土質シルト	灰色シルト粒子わずかに含む。
	ⅩⅣb	10YR8/3 浅黄橙色	粘土質シルト	灰色シルト粒子わずかに含む。
	ⅩⅤa	10YR6/1 褐灰色	砂質シルト	灰色色シルト粒子わずかに含む。ⅩⅣa・ⅩⅣbを主体を成す砂質シルトとⅩⅤbの混合土。漸移層か。
	ⅩⅤb	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	
	ⅩⅤc	10YR6/1 褐灰色	砂質シルト	
	ⅩⅥa	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	砂質シルト～砂への漸移層か。
	ⅩⅥb	10YR3/2 黒褐色	砂	
	ⅩⅦ	10YR4/2 灰黄褐色	砂	灰黄色シルト粒子わずかに含む。
S10	1	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	灰白色・橙色シルトブロック・礫まばら、炭化物粒子少量含む。
S11	1	7.5YR5/1 褐灰色	シルト	灰黄色シルトブロックまばら、炭化物粒子少量含む。
S18	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰黄色シルトブロックまばら、炭化物粒子・焼土粒・少量含む。
	2	10YR6/2 褐灰色	シルト	灰黄色・黒色シルトブロック・礫まばら、炭化物粒子・焼土粒少量含む。
	3	10YR5/1 褐灰色	シルト	礫を密、黄褐色シルトブロックまばらに含む。
	4	10Y6/1 灰色	シルト	灰黄色シルトブロックまばら、橙色シルトブロック・炭化物粒子少量含む。
S19	1	10Y5/1 灰色	シルト	炭化物粒子少量含む。

遺構番号	層位	土色	土質	備考
S19	2	10Y3/1 オリーブ黒色	シルト	灰黄色シルトブロック・礫まばら、炭化物粒子少量含む。瓦含む。
	3	10Y7/1 灰白色	粘土質シルト	灰黄色シルトブロック多量、炭化物粒子まばらに含む。瓦・炭・動植物遺存体含む。
	4	N2/1 黒色	粘土質シルト	灰黄色シルトブロック・炭化物粒子まばらに含む。植物遺存体含む。
	5	10Y6/1 灰色	シルト	灰黄色シルトブロックわずかに含む。
S21	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	灰白色シルトブロック・炭化物粒子わずかに含む。
S31	1	10BG6/1 青灰色	粘土質シルト	灰黄色シルトブロックまばらに含む。
S36	1	10Y6/1 青灰色	シルト	灰黄色シルトブロックまばらに含む。
	2	10Y7/1 灰白色	シルト	灰黄色シルトブロックまばら、小礫わずかに含む。
	3	10Y6/1 灰色	シルト	灰白色シルトブロックまばらに含む。
S37	1	7.5Y5/1 灰色	シルト	灰黄色シルトブロック・炭化物粒子わずかに含む。
	2	N4/1 灰色	シルト	灰黄色シルトブロック・炭化物わずかに含む。
	3	7.5Y4/2 灰オリーブ色	シルト	灰黄色シルトブロックわずかに含む。
S38	1	7.5Y4/1 灰色	シルト	灰黄色シルトブロックわずかに含む。
S40	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	灰黄色シルトブロック・炭化物まばらに含む。瓦含む。
S41	1	7.5YR5/1 褐灰色	シルト	灰白色シルトブロック・礫・炭化物まばらに含む。
P26	1	7.5Y6/1 明黄褐色	シルト	炭化物粒子わずかに含む。

第15図　1号トレンチ西側サブトレンチ西壁土層断面図



第16図　1号トレンチ東西サブトレンチ1・2北壁土層断面図

面で土坑1基、XⅠ層上面で土坑2基、XⅢ層上面で土坑1基を確認した。またXⅤ層中からは弥生時代中期の甕形土器片、石皿の破片が出土したが、この時期の遺構は確認できなかった。

S 17　礫群　トレンチの中央付近に位置し、X層上面が南側に傾斜する落ち込みに円礫が集積する状況を確認した。これらの礫群が自然堆積層の一部か、あるいは人為的に集積されたものかは不明である。出土遺物は無かった。

S 19　池跡　トレンチの南西隅に位置し、Ⅶb層上面で確認した。東・西・南側がトレンチ外のため、平面形は不明である。確認した規模は南北方向の長軸が2.2 m、東西方向の短軸が1.6 m、深さは0.5 mである。北側には石が階段状に2段組まれていた。石組みは長さ0.5 m、幅0.4 m程度の平坦な川原石で構築され、南側に小口面を向け、背面には径約5㎝の裏込石を充填している。堆積土は5層に分けられ、1～3層は池跡の埋土層である。4層は黒色シルトを主体とし、石組みの上面を覆っている。土質は締りが無いことから、水が澱んでいる状態で堆積したものと考えられる。5層は裏込めを覆う整地土で灰色シルトを主体とし、炭化物を含んでいる。出土遺物は17世紀後半から18世紀前半の陶磁器類や古銭、漆器椀がある。

S 36　土坑　トレンチの北東に位置し、XⅢa層上面で確認した。北西サブトレンチ－1の北面で断面のみを確認したが、平面形は不明である。確認した規模は東西方向に1.5 m、深さ0.3 mで、壁面は緩やかに立ち上がる。堆積土は3層に分けられ、最下層の3層は灰色シルトを主体とし、締りは弱い。出土遺物は近世陶磁器類の他に獣骨などがある。

（3）出土遺物

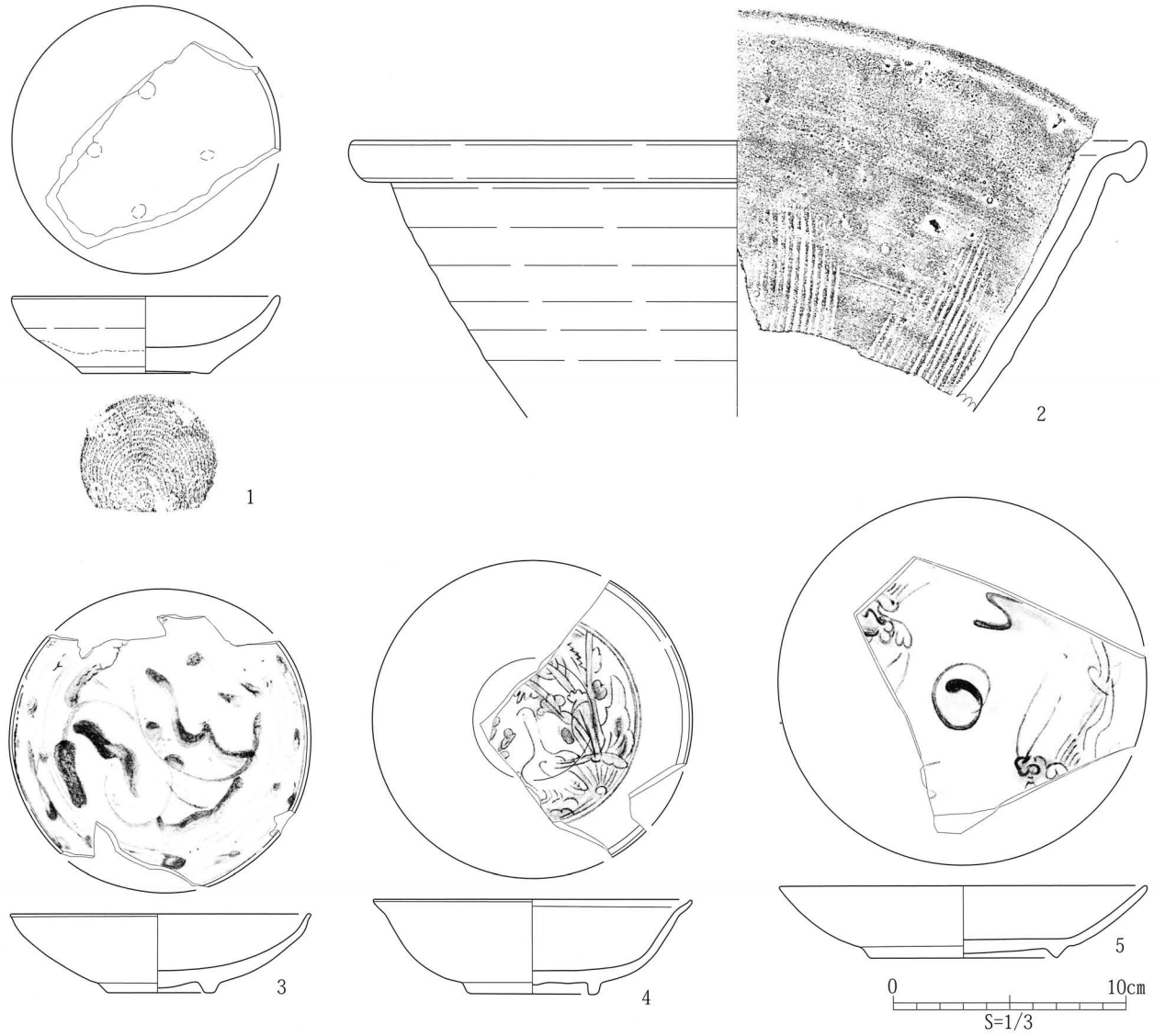
合計894点の遺物が出土した。瓦類の比率が高く全体の52％を占める。

陶　器

67点出土し、近世のものは40点ある。産地は瀬戸及び美濃が最も多く全体の55％を占める。この他には肥前、唐津、丹波、岸などがあるが、本地区においては大堀相馬、小野相馬の製品がみられない。器種は皿類が多く全体の38％を占め、この他に鉢類（擂鉢を含む）、碗類などがある。Ⅰb層から16世紀末から17世紀初頭の唐津の鉄釉皿（第17図1）、Ⅳ層から17世紀後半の瀬戸美濃の鉄釉擂鉢（第17図2）が出土した。

磁　器

111点出土し、近世のものは47点ある。産地は肥前が圧倒的に多く全体の85％を占める。この他に波佐見、瀬戸美濃、中国がある。器種は皿類が最も多く45％を占め、この他に碗類、鉢類などがある。S 19から17世紀中頃の肥前の染付唐草文端反皿（第17図3）、S 36から17世紀中頃の肥前の染付水禽文端反皿（第17図4）、



図版番号	登録番号	種　類	器　種	遺構・層位	法　量(cm)			産　地	時　期	備　考	写真番号
					口径	底径	器高				
1	I 20	陶器	皿	I b層	11.5	5.6	3.4	唐津	16c末～17c初	ロクロ調整　鉄釉　底部:右回転糸切痕　見込・底部:胎土目跡４箇所	7－1
2	I 25	陶器	擂鉢	Ⅵ層	(34.0)	—	—	瀬戸美濃	17ｃ後半	鉄釉　摺目13本(40mm)　第５小期	7－2
3	J 35	磁器	端反皿	S 19	13.1	4.7	3.4	肥前	17ｃ中頃	染付　高台内:兜巾状　内面:唐草文　初期伊万里	7－3
4	J 40	磁器	端反皿	S 36	(13.8)	5.1	4.1	肥前	17ｃ中頃	染付　見込:水禽文	7－4
5	J 41	磁器	皿	S 36	(15.8)	8.1	31	中国	17ｃ前半	青花　内面:龍文　漳州窯系	7－5

第17図　１号トレンチ出土遺物（１）

17世紀前半の中国漳州窯系の青花皿（第17図５）が出土した。

土師質土器

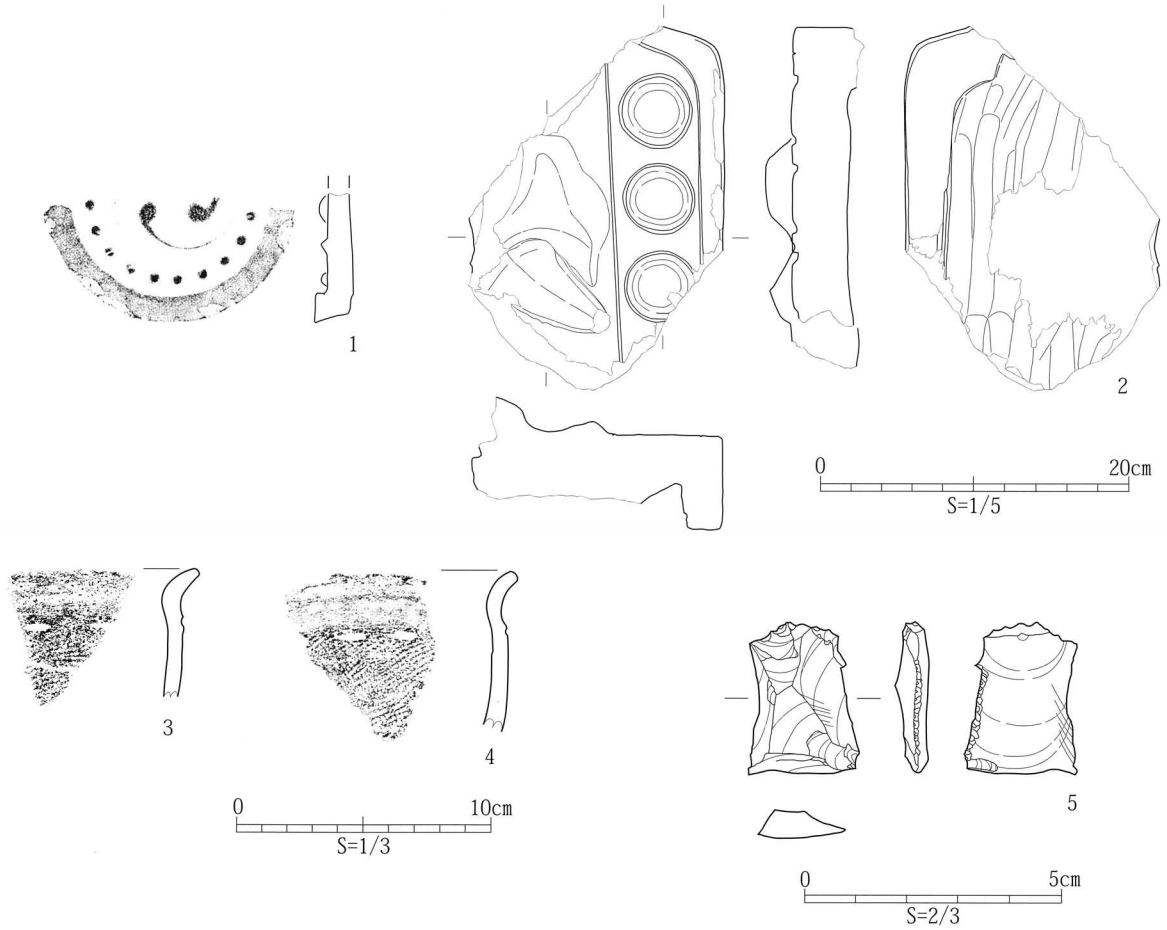
117点出土した。器種は皿類が多く53％を占める。この他に焼塩壺・鉢類がある。皿類は全て小破片で詳細は不明である。焼塩壺はⅡ層から１点、Ｓ 19から４点の計５点が出土した。Ｓ 19からは在地産の焼塩壺の他に、小破片だが手捏ねの焼塩壺とその蓋の可能性があるものが出土した。この製品については大坂方面からの搬入品の可能性がある（注２）。鉢類の多くは撹乱及びＩ層から出土しており時期は不明である。

瓦質土器

29点出土した。器種は鉢類、手焙り、香炉、焜炉などがある。

瓦　類

473点出土し、丸瓦63点、平瓦334点が全体の84％を占める。撹乱からは全体の25％、Ｖ層からは全体の



図版番号	登録番号	種　類	遺構・層位	文　様	長さ(cm)	瓦当部(cm)				重さ（kg）	備　考	写真番号
						直径	内区径	周縁部幅	周縁高			
1	F 5	軒丸瓦	Ⅲd層	珠文三巴文	—	(16.6)	(12.8)	1.9	0.7	0.4	瓦当部：巴左巻・珠数不明・珠径1.0cm	7－6

図版番号	登録番号	種　類	遺構・層位	法　量（cm）			重さ（kg）	備　考	写真番号
				長さ	幅	厚さ			
2	H 4	飾瓦	撹乱	—	—	4.4	1.86	鬼瓦　裏面：ナデ	7−7

図版番号	登録番号	種　類	器　種	遺構・層位	法　量(cm)			備　考	写真番号
					口径	底径	器高		
3	B 6	弥生土器	甕	XVa層	—	—	—	枡形囲式　外面調整：口縁部ヨコナデ、刺突文　体部LR縄文　内面調整：ナデ	7－8
4	B 7	弥生土器	甕	XVa層	—	—	—	枡形囲式　外面調整：口縁部ヨコナデ、刺突文　体部LR縄文　内面調整：ナデ	7－9

図版番号	登録番号	種　類	器　種	遺構・層位	法　量(cm)			重さ(g)	備　考	写真番号
					長さ	幅	厚さ			
5	K 1	剥片石器	不定形石器	S19	3.0	2.2	0.7	48	石材：珪質頁岩　二次加工あり	7−10

第18図　1号トレンチ出土遺物（2）

21％が出土した。軒丸瓦は２点出土し、Ⅰ層出土のものは文様が不明で、Ⅲｄ層出土のものは左巻の珠文三巴文である（第18図１）。その他には撹乱から鬼瓦が１点出土した（第18図２）。

金属製品

45点出土した。多くは撹乱とⅠ層からの出土である。種別は釘、古銭、煙管などがある。釘は27点出土した。このうちⅤ層から出土した２点は角釘で、これ以外は丸釘である。古銭はＳ19から３点出土し、２点は古寛永、１点は不明である。煙管はＳ19から雁首部が、撹乱からはほぼ完形のものが出土した。撹乱出土のものは近現代の製品と考えられる。

木製品

４点出土した。種別は漆器と木板がある。漆器はＳ19から出土しており、朱漆であるが塗膜部分が遺存しているのみである。器種は椀類で蓋の可能性がある。木板はＳ19と近現代の遺構であるＳ10から出土した。用途に関しては不明である。

石製品

S 19から碁石2点と硯の破片1点の計3点が出土した。

その他の遺物

弥生土器10点、土師器4点、石器1点、石皿1点が出土した。弥生土器は全てXVa層から出土している。器種は甕形土器で、口縁部片2点を図示した（第18図3、4）。時期は弥生中期で型式は桝形囲式とみられる。土師器はS 19出土の1点以外は時期、器種が不明である。S 19出土のものは栗囲式の甕の胴部破片である。石器はS 19から出土しており、二次加工のある剥片である（第18図5）。石皿はXVa層から出土した。

3　2号トレンチ

追廻地区の中央やや北寄りに位置する。トレンチは南北方向を軸に長さ18.4 m、幅4.0 mの規模で設定した。東壁側に沿ってサブトレンチを設定した他、トレンチ中央の撹乱を利用して下層の確認を行い、北側で自然堆積層である灰白色シルト層を確認した。

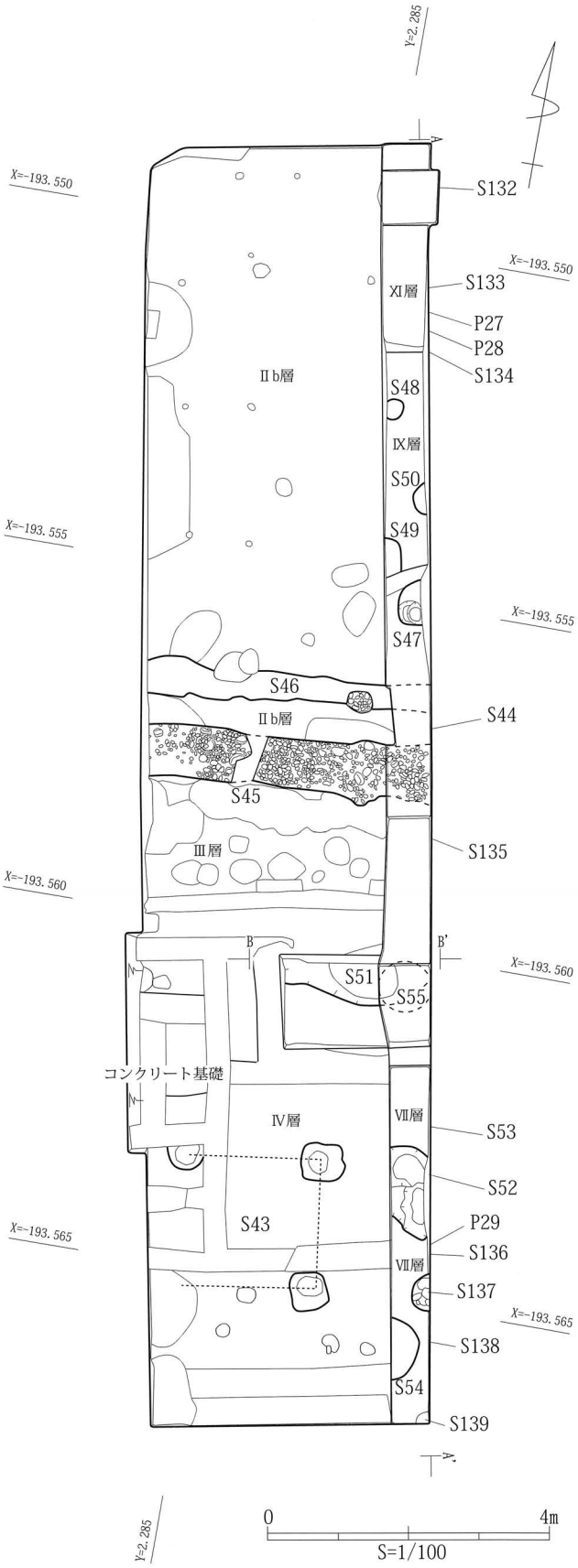
（1）基本層序

基本層序は11層に大別される。Ⅰ層は現代の整地層である。Ⅱ～Ⅸ層は遺物や炭化物を含むことから人為的な堆積と考えられる。Ⅱ層以下はトレンチの中央付近を境に北側と南側で様相が異なっており、北側ではⅢ・Ⅴ・Ⅷ・Ⅸ層を確認した。Ⅷ層は南側に向かって緩やかに傾斜しており、Ⅴ層はこの落ち込みの中に堆積している。トレンチ南側ではⅣ・Ⅵ・Ⅶ層を確認し、X層・XⅠ層がほぼ水平に堆積している。XⅠ層は灰色シルトを主体とし、1号トレンチのXⅡ層に類似しており、広範囲に堆積する自然堆積層と考えられる。

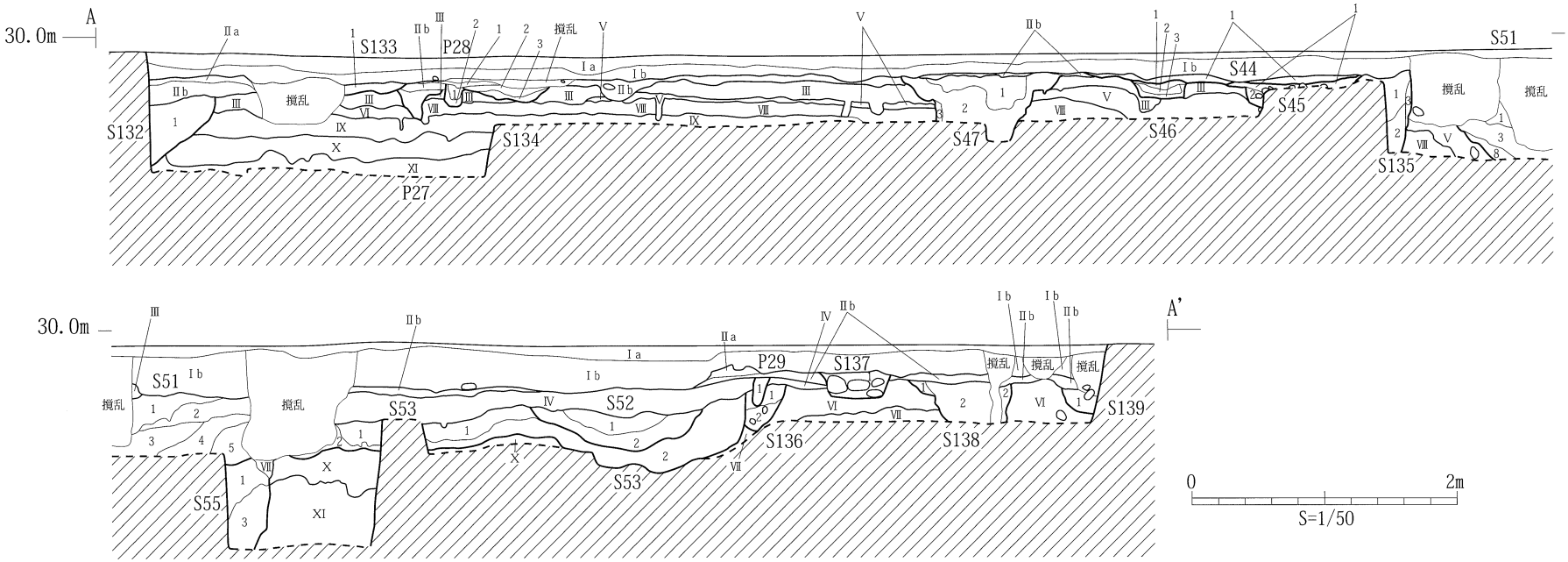
（2）検出遺構

遺構は7面で確認しており、Ⅱa層上面で硬化面の広がりを1か所、建物跡1棟、Ⅱb層上面で溝跡3条、土坑5基、Ⅲ層上面で土坑1基、ピット2基、Ⅳ層上面で土坑2基、ピット1基、Ⅵ層上面で土坑3基、井戸1基、Ⅶ層上面で土坑1基、ピット1基、Ⅸ層上面で土坑3基を確認した。

S 43　建物跡　トレンチの南側に位置し、Ⅱa層上



第19図　2号トレンチ平面図

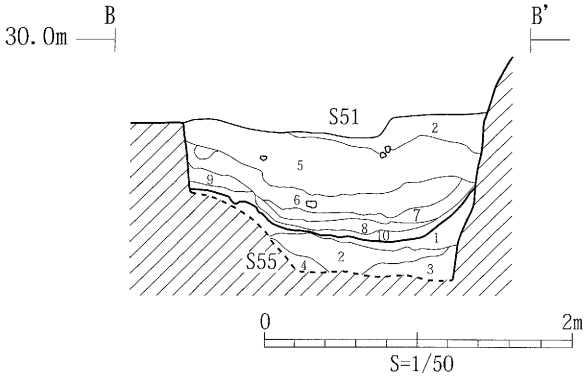


遺構番号	層位	土色	土質	備考
基本層序	Ⅰa	2.5Y6/6 明黄褐色	砂	山砂密に含む。住宅解体後の盛土。
	Ⅰb	7.5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	住宅に伴う盛土。
	Ⅱa	2.5Y6/2 灰黄色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック・粗粒砂・炭化物粒子わずかに含む。
	Ⅱb	2.5Y7/4 浅黄褐色	砂質シルト	灰白色粘土ブロック・小礫まばら、炭化物粒子わずかに含む。
	Ⅲ	7.5YR7/1 明褐灰色	砂質シルト	灰白色粘土ブロック・小礫・炭化物わずかに含む。
	Ⅳ	7.5YR6/3 にぶい褐色	砂質シルト	灰白色粘土ブロック・小礫少量、炭化物粒子わずかに含む。
	Ⅴ	2.5Y7/1 灰白色	砂質シルト	灰白色粘土ブロック・炭化物粒子少量含む。
	Ⅵ	7.5YR5/6 明褐色	砂質シルト	白色粘土ブロック・小礫まばらに含む。
	Ⅶ	5Y7/1 灰白色	砂質シルト	
	Ⅷ	7.5YR6/1 褐灰色	砂質シルト	灰白色粘土ブロック・小礫まばら、炭化物粒子少量含む。
	Ⅸ	7.5YR3/2 黒褐色	砂質シルト	灰白色粘土・橙色粘土ブロック・小礫まばら、炭化物粒子少量含む。
	Ⅹ	7.5YR2/1 黒色	シルト	淡黄色シルトブロックを含む。
	ⅩⅠ	7.5Y7/2 灰白色	シルト	
S44	1	7.5YR8/1 灰白色	砂	粗粒砂主体。小礫わずかに含む。
S45	1	7.5YR6/1 褐灰色	砂質シルト	下層に礫を充填。灰白色シルトブロックまばらに含む。
	2	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	黄褐色シルトブロック・炭化物粒子わずかに含む。
S46	1	7.5YR6/1 褐灰色	砂質シルト	灰白色シルトブロックまばらに含む。
	2	7.5YR6/3 にぶい褐色	粘土質シルト	黄褐色シルトブロックわずかに含む。
	3	7.5YR5/1 褐灰色	シルト	黄褐色シルトブロック少量含む。

遺構番号	層位	土色	土質	備考
S47	1	7.5YR5/6 明褐色	砂質シルト	礫・砂・炭化物粒子わずかに含む。
	2	7.5YR5/2 灰褐色	砂質シルト	褐灰色シルトブロック・灰白色シルトブロックまばらに含む。
	3	7.5YR6/2 灰褐色	シルト	灰白色シルトブロック少量含む。
S51	1	7.5YR6/3 にぶい褐色	シルト	小礫・炭化物粒子少量含む。
	2	7.5Y6/1 灰色	シルト	炭化物粒子わずかに含む。
	3	7.5YR6/1 褐灰色	シルト	灰白色シルト・小礫・炭化物粒子わずかに含む。
	4	7.5YR5/1 褐灰色	シルト	炭化物粒子わずかに含む。
	5	7.5Y6/1 灰色	砂質シルト	橙色シルトブロック・礫まばらに含む。
	6	7.5Y5/1 灰色	シルト	褐灰色シルトブロック・礫・炭化物まばらに含む。
	7	7.5Y7/ 灰白色	シルト	灰色シルトブロック・礫・炭化物まばらに含む。
	8	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	褐灰色シルトブロック・炭化物まばらに含む。
	9	7.5Y5/1 灰色	粘土質シルト	炭化物粒子少量含む。
	10	7.5YR2/1 黒色	粘土質シルト	橙色シルトブロックまばらに含む。
S52	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	小礫・炭化物粒子少量含む。
	2	7.5YR2/1 黒色	シルト	炭化物粒子まばらに含む。
S53	1	7.5YR5/3 にぶい褐色	シルト	褐灰色シルトブロック・炭化物粒子まばらに含む。
	2	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	灰色シルトブロック少量含む。
S55	1	10Y5/1 灰色	砂質シルト	橙色シルトブロック・炭化物まばらに含む。
	2	7.5Y6/1 灰色	砂質シルト	灰白色シルトブロック少量、炭化物まばらに含む。

遺構番号	層位	土色	土質	備考
S55	3	7.5Y6/1 灰色	砂質シルト	灰白色シルトブロック・礫・炭化物まばらに含む。
	4	N 黒色	粘土質シルト	橙色シルトブロックまばらに含む。
S132	1	7.5Y5/1 灰色	シルト	灰白色シルトブロック・小礫・炭化物粒子まばらに含む。
S133	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒子・小礫まばらに含む。
S134	1	5YR5/8 明赤褐色	シルト	灰白色シルトブロック・小礫わずかに含む。
	2	10YR5/1 褐灰色	シルト	黄褐色シルトブロック少量含む。
	3	10YR6/1 褐灰色	シルト	灰白色シルトブロックわずかに含む。
S135	1	7.5YR6/2 褐灰色	シルト	灰白色シルトブロック少量含む。
	2	7.5YR6/1 灰褐色	シルト	灰白色シルトブロックわずかに含む。
	3	7.5YR6/1 灰褐色	シルト	灰白色シルトブロックわずかに含む。
S136	1	7.5YR6/2 灰褐色	シルト	灰白色シルトブロックわずかに含む。
	2	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	礫まばら、炭化物粒子下層に多量に含む。
S137	1	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	礫礎石か。灰白色シルトブロックわずかに含む。
S138	1	7.5YR5/1 褐灰色	シルト	灰黄色シルトブロックまばら、炭化物粒子わずかに含む。
	2	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	灰黄色シルトブロック・礫まばら、炭化物粒子わずかに含む。
S139	1	7.5YR5/1 褐灰色	シルト	礫含む。礎盤石か。灰色シルトブロックまばらに含む。
P27	1	2.5Y6/1 黄灰色	シルト	灰白色シルトブロックわずかに含む。
P28	1	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	灰白色シルトブロックまばらに含む。
	2	2.5Y6/1 黄灰色	シルト	灰白色シルトブロックわずかに含む。

第20図　2号トレンチ東側サブトレンチ東壁土層断面図



第21図　2号トレンチ中央
サブトレンチ北壁土層断面図

面で確認した。3基の礎石を確認し、南北方向ではN－8°－Wの軸に並んでいる。東西方向に並ぶP1－P2間で1.8m、南北方向に並ぶP2－P3間で1.9mであり、ほぼ1間（約1.8m）の等間隔である。礎石の掘り方形状は方形で、規模は幅0.6m、深さ0.2mである。底面はほぼ平坦で、径約0.3mの礎盤石が設置されていた。堆積土は灰褐色シルトを主体とする。S43－P3東側の約1.7mに位置するS137については、底面に径約8cmの円礫が充填されており、構造は異なるが、同一の建物跡を構成する可能性がある。出土遺物は無かった。

S45　溝跡　トレンチの中央付近に位置し、Ⅱb層上面で確認した。S44より古い。主軸方向はE－5°－Nである。確認した規模は南北方向の長軸が3.8m、東西方向の短軸が上端幅0.7～0.9m、下端幅0.6m、深さは0.2mで、断面形は逆台形である。溝跡の内部には径5～20cmの円礫を充填している。堆積土は2層に分けられ、1層は褐灰色砂質シルト、2層は灰褐色シルトを主体とする掘り方の堆積土である。出土遺物は無かった。本遺構は仙台城二の丸で確認した土蔵の基礎との類似性があり、当初は暗渠として利用したものを、後に土蔵の基礎に転用した可能性がある（注3）。

S46　溝跡　トレンチの中央付近に位置し、Ⅱb層上面で確認した。S44よりも古く、S45の0.5m北側に平行して位置している。確認した規模は南北方向の長軸が3.8m、東西方向の短軸が上端幅0.6m、下端幅0.5m、深さ0.1mである。断面形は箱形で、厚さ0.5cmの木樋側板の痕跡が確認できた。堆積土は3層に分けられ、2層は木樋内部の堆積土で、褐色粘土を主体とする。3層は木樋の掘り方で、褐灰色シルトを主体とする。出土遺物は近世の陶磁器類が少量ある。検出状況からみてS45とほぼ同時期に存在していたと考えられる。

S51　土坑　トレンチの中央付近に位置し、Ⅳ層上面で確認した。S55より新しい。平面形は掘り込みの一部を確認したのみであるが本来は円形と考えられる。確認した規模は東西方向に2.0m、南北方向に2.0m、深さ0.9mである。断面形は逆台形で、底面はやや丸みを帯びている。堆積土は10層に分けられ、最下層の10層はマンガン化が進んだ黒色粘土質シルトを主体としている。出土遺物は無かった。

（3）出土遺物

合計664点の遺物が出土した。全体的に小破片が多く、遺存度は低い。

陶　器

134点出土し、近世のものは91点ある。産地は大堀相馬が多く全体の36％を占める。この他に肥前、小野相馬、瀬戸美濃などがある。器種は碗類が全体の35％を占め、この他に皿類、鉢類などがある。S52より18世紀後半の大堀相馬の白濁釉飴釉流し碗（第22図1）が出土しており、口縁部には打ち欠いたような痕跡がみられる。

軟質施釉陶器

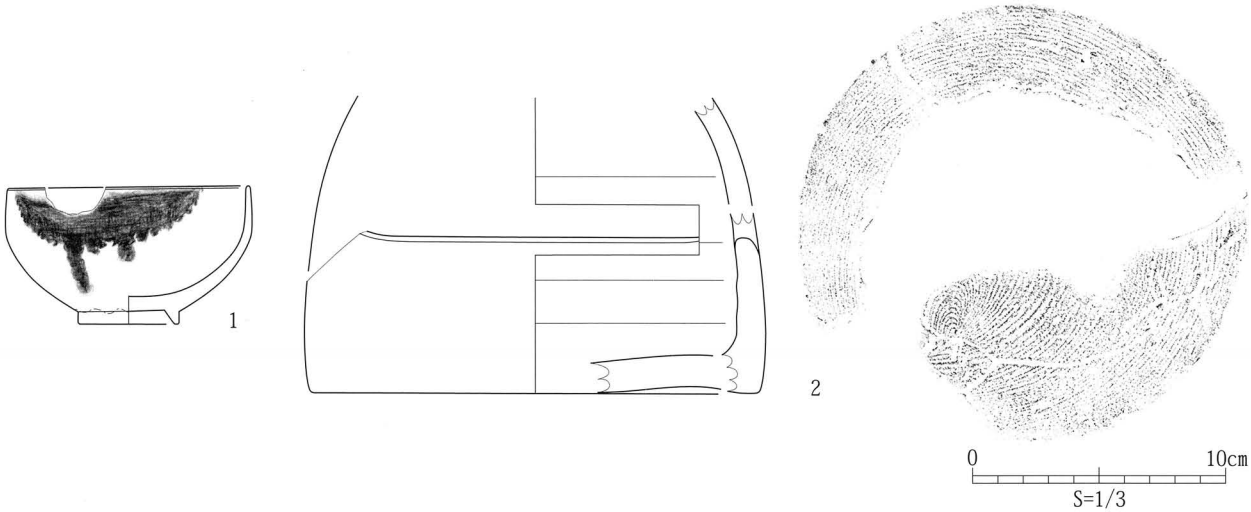
4点出土した。全て近現代の遺物を含むⅡ層と撹乱から出土している。堤の焙烙がある。

磁　器

286点出土し、近世のものが66点ある。産地は肥前が圧倒的に多く全体の91％を占める。この他には波佐見、瀬戸美濃がある。器種では碗類と皿類が多くそれぞれ27％を占め、この他には鉢類、瓶類などがある。

土師質土器

43点出土した。器種は皿類が多く47％を占め、この他には鉢類がある。皿類の多くは小破片で、全体を復元できたものはS52出土の1点のみで、小型の製品で口径は5.5cmである。鉢類には近現代の植木鉢も含まれる。



図版番号	登録番号	種　類	器　種	遺構・層位	法　量(cm)			産　地	時　期	備　考	写真番号
					口径	底径	器高				
1	I 39	陶器	碗	S 52	9.6	4.	5.5	大堀相馬	18ｃ後半	釉薬：白濁釉・飴釉流し　口縁部：打ち欠？	8－1
2	I 129	瓦質土器	手焙り	S 55	—	18.0	—	在地	近世	底部：右回転糸切痕　窓の縁：敲打痕？	8－2

第 22 図　2号トレンチ出土遺物

瓦質土器

38 点出土した。器種は鉢類、手焙りがある。S 55 から出土した手焙りを図示した（第 22 図２）。

瓦　類

42 点出土し、丸瓦８点、平瓦 23 点が全体の 73％を占める。撹乱から軒丸瓦１点が出土したが、瓦当部分の小破片のため文様は不明である。

土製品

２点出土した。Ⅱ層、Ⅳ層から出土しており、共に型押し人形の破片である。

金属製品

60 点出土した。多くは撹乱とⅠ～Ⅲ層からの出土である。種別は釘・煙管がある。釘は 39 点出土している。このうちⅧ層とS 44・S 46・S 53 から出土した 18 点は全て角釘で、これ以外は近現代の丸釘である。煙管は撹乱から１点出土し、吸口部分の遺存である。

石製品

３点出土した。種別は硯、砥石である。硯は撹乱とⅠ層から、砥石はS 55 から出土している。

その他の遺物

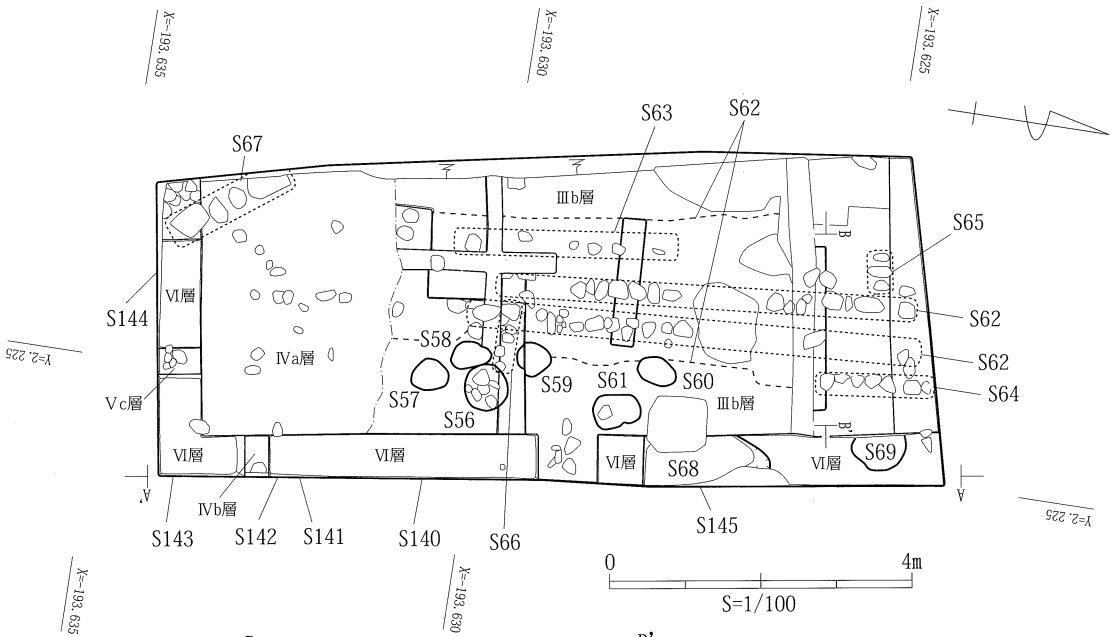
土師器 15 点、須恵器２点、中世陶器２点が出土した。土師器はⅢ層から古代とみられる甕と底部に糸切痕のある坏が出土した。これ以外、時期や器種を特定できるものは無かった。須恵器はⅢ層より平安時代の瓶類が出土した。中世陶器はⅢ層より 13 世紀後半から 14 世紀前半の白石窯系の壺ないし瓶の体部破片と産地・器種不明の破片が出土した。

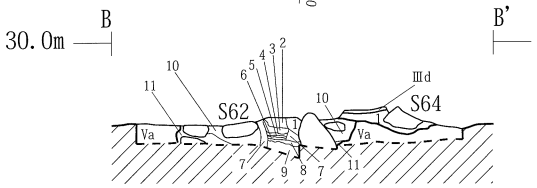
4　3号トレンチ

追廻地区の中央付近で、現在の長沼から約 40 m東側に位置する。トレンチは南北方向を軸に長さ 10.0 m、幅 4.0 mの規模で設定した。またトレンチの東壁側に沿ってサブトレンチを設定した。

（1）基本層序

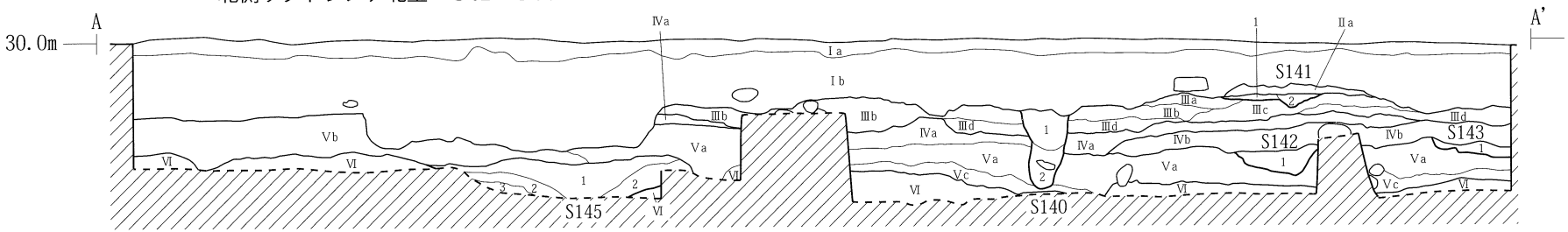
基本層序は６層に大別される。Ⅰ層は現代の整地層である。トレンチの北側は撹乱によりⅢｂ層上面からⅤｂ層中まで撹乱されている。Ⅱ～Ⅴ層は出土遺物や混入物から人為的堆積と考えられる。最下層のⅥ層は、灰白色砂を





北側サブトレンチ北壁　S62・S64

遺構番号	層位	土色	土質	備考
基本層序	Ⅰa	2.5Y6/6　明黄褐色	砂	山砂密に含む。住宅解体後の盛土。
	Ⅰb	7.5Y3/1　オリーブ黒色	シルト	住宅に伴う盛土。
	Ⅱ	5Y5/1　灰色	シルト	小礫まばら、炭化物粒子少量含む。
	Ⅲa	5Y6/2　灰オリーブ色	シルト	小礫まばら、炭化物粒子少量含む。
	Ⅲb	5Y7/1　灰白色	砂質シルト	粗粒砂多量、礫まばら、炭化物粒子わずかに含む。
	Ⅲc	5Y7/2　灰白色	シルト	小礫・炭化物粒子少量含む。
	Ⅲd	5Y7/2　灰白色	砂質シルト	粗粒砂多量、小礫まばら、炭化物粒子少量含む。
	Ⅳa	7.5Y5/1　灰色	砂質シルト	黄褐色シルトブロック・小礫・砂まばら、炭化物粒子少量含む。
	Ⅳb	7.5Y5/1　灰色	砂質シルト	礫少量、炭化物粒子わずかに含む。
	Ⅴa	N5/1　灰色	砂質シルト	礫・炭化物まばらに含む。瓦含む。
	Ⅴb	N3/1　暗灰色	砂質シルト	小礫・炭化物まばらに含む。
	Ⅴc	N3/1　暗灰色	砂質シルト	礫まばら、炭化物多量に含む。
	Ⅵ	5Y7/2　灰白色	砂	
S62	1	10Y4/1 灰色	砂質シルト	灰白色シルトブロック・炭化物粒子わずかに含む。
	2	5Y7/3　浅黄色	砂質シルト	灰白色シルトブロックまばら、粗粒砂・炭化物粒子わずかに含む。
	3	10Y5/1　灰色	砂質シルト	灰白色シルトブロックまばら、炭化物粒子わずかに含む。
	4	5Y7/1　灰白色	砂質シルト	粗粒砂少量含む。
	5	5Y7/1　灰白色	シルト	粗粒砂少量含む。
	6	10Y5/1　灰色	シルト	炭化物わずかに含む。
	7	5Y7/3　浅黄色	砂質シルト	粗粒砂・炭化物粒子少量含む。
	8	5Y7/3　浅黄色	砂質シルト	炭化物粒子わずかに含む。
	9	10Y4/1　灰色	砂質シルト	灰白色シルトブロック・炭化物粒子わずかに含む。
	10	10YR5/1　褐灰色	砂質シルト	小礫・粗粒砂わずか、炭化物粒子少量含む。
	11	10YR4/1　褐灰色	シルト	炭化物粒子わずかに含む。
S64	1	10YR4/1　褐灰色	シルト	炭化物粒子わずかに含む。
S140	1	5Y7/2　灰白色	砂質シルト	礫含む。礎石か。小礫少量、砂わずかに含む。瓦含む。
	2	5Y7/1　灰白色	砂質シルト	礫まばら、灰色シルトブロック・砂少量含む。
S141	1	7.5Y5/1　灰色	砂質シルト	褐灰色シルトブロック少量含む。
	2	7.5Y4/1　灰色	砂質シルト	褐灰色シルトブロック・小礫まばら、炭化物粒子少量含む。
S142	1	5Y7/1　灰白色	シルト	炭化物粒子少量含む。
S143	1	10Y4/1　灰色	砂	褐灰色シルトブロック下層に多量。炭化物粒子わずかに含む。
S145	1	5Y5/1　灰色	シルト	小礫・砂わずかに含む。
	2	10Y4/1　灰色	シルト	灰色シルトブロックわずかに含む。
	3	10Y3/1　灰オリーブ色	シルト	灰色シルトブロックまばら、炭化物粒子少量含む。



東側サブトレンチ東壁

0　2m
S=1/50

第23図　3号トレンチ平・断面図

主体とする自然堆積層で、南側に向かって傾斜し落ち込みを形成している。

（2）検出遺構

調査段階では撹乱内のⅢｂ層上面から遺構を確認したが、この面で確認した遺構は本来帰属する層位がⅡ層上面あるいはⅢａ層上面であったと考えられる。遺構は６面で確認しており、Ⅱ層上面あるいはⅢａ層上面で石組溝跡１基、石組遺構５基、土坑７基、Ⅲｃ層上面で土坑１基、Ⅴｂ層上面で土坑２基、Ⅴｃ層上面で土坑１基、Ⅵ層上面で土坑３基を確認した。

Ｓ 62　石組溝跡　トレンチの中央に位置し、Ⅱ層上面あるいはⅢａ層上面から掘り込んでいる。主軸方向はＮ－４°－Ｗである。石組みの遺存状態は悪く、トレンチの南側では確認できなかった。確認できた規模は南北方向の長軸が 6.0 m、東西方向の溝幅が 0.2 m、掘り方の幅が 2.3 m、深さ 0.2 mである。石組みは径約 20 ～ 30 ㎝の円礫で構築され、底面には径約８cm の円礫が敷設されている。底面はわずかではあるが、北から南へ４㎝程度傾斜している。堆積土は 10 層で、１～３層は溝の堆積層で、シルトブロックや粗粒砂を含んでいる。４～６層は層厚約１㎝の砂質シルト・シルト層が水平に堆積しており、これは水性堆積とみられる。７～９層は溝の掘り方、10 層は石組みの掘り方に相当する。出土遺物は無かった。

Ｓ 63　石組遺構　トレンチの中央に位置し、Ⅱ層上面あるいはⅢａ層上面から掘り込んでいる。Ｓ 62 の 0.3 m 西側を、同じ主軸方向に平行して並ぶ石組みである。確認できた規模は南北方向の長軸が 2.7 m、東西方向の短軸が 0.4 mである。石組みは径約 20 ～ 30 ㎝の円礫で構築されており、性格は不明である。出土遺物は無かった。

Ｓ 64　石組遺構　トレンチの北側に位置し、Ⅱ層上面あるいはⅢａ層上面から掘り込んでいる。Ｓ 62 の 0.3 m 東側を平行して並ぶ石組みで、北側がトレンチ外へ延びると推定される。Ｓ 62 よりも古い。確認できた規模は南北方向の長軸が 1.5 m、東西方向の短軸が 0.4 mである。径約 20 ～ 30 ㎝の円礫・角礫で構築され、石組みの小口面を西側に揃えている。出土遺物は無かった。

Ｓ 65　石組遺構　トレンチの北側に位置し、Ⅱ層上面あるいはⅢａ層上面から掘り込んでいる。Ｓ 62 の西側石列に接して直交する石組列で、主軸方向はＥ－６°－Ｎである。撹乱により壊されているが、西方向に延びると考えられる。確認できた規模は南北方向の長軸が 0.6 m、東西方向の短軸が 0.4 mである。径約 20 ～ 30 ㎝の円礫で構築されている。

Ｓ 66　石組遺構　トレンチの中央に位置し、Ⅱ層上面あるいはⅢａ層上面から掘り込んでいる。Ｓ 62 の石組みに接して直交する石組みで、主軸方向はＥ－２°－Ｓである。Ｓ 56 よりも新しい。確認できた規模は東西方向の長軸が 0.8 m、南北方向の短軸が 0.3 mである。径約 20 ㎝の円礫で構築されている。出土遺物は無かった。

Ｓ 67　石組遺構　トレンチの南東に位置し、Ⅱ層上面あるいはⅢａ層上面から掘り込んでいる。主軸方向はＮ－36°－Ｗで、他の石組遺構と軸方向が異なっている。確認できた規模は東西方向の長軸が 1.7 m、南北方向の短軸が 0.4 mである。石組みの上面は平坦に揃えられ、長さ 0.6 m、幅 0.4 mの板状の石材２枚が 0.6 m間隔で配置され、その間に径約 30 ㎝の円礫が配されている。出土遺物は無かった。

（3）出土遺物

合計 329 点の遺物が出土した。全体的に小破片が多く遺存度は低い。

陶　器

72 点出土し、近世のものは 67 点ある。産地は肥前が多く全体の 38％を占める。この他に美濃、大堀相馬、岸ほか少量だが現川、九州系、京・信楽などがある。器種は碗類が多く 44％を占め、この他にⅢ類、鉢類、瓶類などがある。碗類は 32 点のうち 16 点が肥前のいわゆる呉器手の碗であり、他のトレンチに比べ出土量が多い。層位的には各層から均等に出土している。このうち最も遺存度の高いⅠ層から出土したものを図示した（第 24 図１）。Ⅲ層から出土した 17 世紀前半の美濃の菊皿（第 24 図２）は煤が付着しており、灯明皿として再利用された可能

性がある。この他にもⅢ層から18世紀代の美濃の灰釉徳利(第24図3)や、薄く鉄釉のかかった擂鉢が出土した(第24図4)。この擂鉢については瀬戸美濃や信楽の擂鉢とは釉薬や形状が異なっており、産地は明確でなく、在地産の可能性がある(注4)。

磁　器

101点出土し、近世のものは72点ある。産地は肥前が多く全体の88%を占める。この他に波佐見がある。器種は碗類が多く39%を占め、他にⅢ類、鉢類などがある。Ⅴc層から17世紀中頃の肥前の染付Ⅲが出土した。

土師質土器

44点出土した。器種はⅢ類が多く93%を占め、この他に焼塩壷と鉢類などがある。Ⅲ類の多くは小破片である。全体を復元できるものはⅢ層とⅣ層から出土した2点だけで、共に口径7cm程度の小型の製品である。焼塩壷は小破片だが、Ⅲ層とS 62から在地産の製品が1点ずつ出土した。

瓦質土器

3点出土した。Ⅰ層出土のものは七輪などに用いられる五徳の破片であるが、時期は不明である。この他に撹乱とⅣ層から香炉が1点ずつ出土した。

瓦　類

97点出土し、丸瓦25点、平瓦49点が全体の76%を占める。Ⅲ層から軒丸瓦が1点出土したが、瓦当の周縁部のみで文様は不明である。

土製品

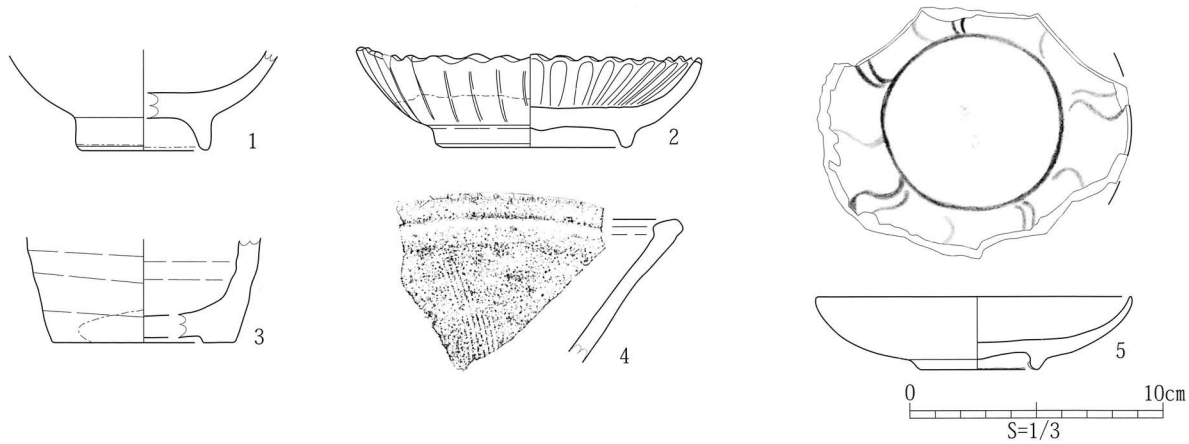
Ⅰ層から碁石形の製品が1点出土した。

金属製品

6点出土した。種別は古銭、近現代の標語看板などがある。古銭はⅠ層から古寛永が、Ⅲ層からは新寛永が1点ずつ出土した。

木製品

3点出土した。種別は漆器と木板がある。Ⅲ層とS 67からは漆器が1点ずつ出土し、いずれも赤漆が用いられているが、塗膜部分のみの残存で器種は不明である。木板は撹乱から出土した。用途は不明である。



図版番号	登録番号	種　類	器　種	遺構・層位	法　量(cm)			産　地	時　期	備　考	写真番号
					口径	底径	器高				
1	Ⅰ53	陶器	碗	Ⅰ層	—	(5.0)	—	肥前	17c後半	灰釉　呉器手	8－3
2	Ⅰ58	陶器	菊皿	Ⅲ層	13.7	7.3	4.0	美濃	17c前半	灰釉・緑釉流し　スス付着　2枚重ねで灯明皿として再利用したものか。	8－4
3	Ⅰ67	陶器	徳利	Ⅲ層	—	(7.2)	—	美濃	18c代	灰釉　底部：釉拭取り　連房式登窯Ⅲ期b・c	8－5
4	Ⅰ63	陶器	擂鉢	Ⅲ層	—	—	—	不明	近世	うすい鉄釉　摺目7本（13mm）胎土：灰白色　在地産の可能性あり。	8－6
5	J61	磁器	Ⅲ	Ⅴc層	(12.5)	4.6	2.9	肥前	17c中頃	染付　見込：「寿」字文　内面：ねじ文　高台内：兜巾状　畳付：砂付着　初期伊万里	8－7

第24図　3号トレンチ出土遺物

石製品

石製品はⅣ層から硯の破片が１点出土した。

５　４号トレンチ

追廻地区のほぼ中央付近に位置する。トレンチは南北方向を軸に長さ 10.0 m、幅 4.0 mの規模で設定した。トレンチの西壁側に沿ってサブトレンチを設定した他、トレンチ中央の撹乱を利用して下層の確認を行い、自然堆積層である砂層を確認している。

（１）基本層序

基本層序は 10 層に大別される。Ⅰ層は現代の整地層である。トレンチの北側はⅤ層上面まで撹乱されており、このためⅠ層直下に堆積するⅡ・Ⅲ・Ⅳ層はトレンチの中央から南側のみの確認である。Ⅱ～Ⅸ層は整地層で、Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅷａ・Ⅸｂ層は硬く締っており、各上面は生活面である可能性が高い。Ⅱ～Ⅵ層は約５㎝の均一な層厚で堆積している。Ⅸ層は西側サブトレンチの北側で確認し、ａ・ｂの２層に細分される。Ⅸａ層は炭化物を多量に含む。Ⅹ層はにぶい黄褐色砂を主体とする自然堆積層である。

（２）検出遺構

遺構は６面で確認しており、Ⅱ層上面で柱穴４基、Ⅲ層上面で土坑４基、ピット１基、Ⅴ層上面で石敷遺構１基、Ⅷａ層上面で不明遺構１基、Ⅷｃ層上面で土坑１基、Ⅸｂ層上面で土坑８基を確認した。

Ｓ 70・Ｓ 71・Ｓ 72・Ｓ 73　柱穴　トレンチの南東に位置し、Ⅱ層上面で確認した。４基の柱穴はＮ－９°－Ｗの軸に並んでおり、いずれも掘り方の一部が東側のトレンチ外へ延びている。各々の平面形は円形と推定され、確認できた掘り方の規模は南北方向の長軸が 0.6 ～ 0.7 m、東西方向の短軸が 0.4 ～ 0.5 m、深さ 0.2 mである。礎盤石はみられず、掘り方内に根固め石に相当する径約 10 ～ 25 ㎝大の円礫が充填されていた。堆積土は２層で、１・２層ともに褐灰色シルトを主体とし、１層は灰白色粘土ブロックを多量に含んでいる。出土遺物は無かった。

Ｓ 74　石敷遺構　トレンチの南側に位置し、Ⅴ層上面で一部を確認した。西側サブトレンチの壁面で径約５㎝の円礫を多量に含む層を確認した。この東側の一部をⅤ層上面まで掘り下げた結果、円礫が充填されている状況がみられ、礫を敷設した遺構であることが判明した。遺構の全体形は不明だが、東西方向に延びると推定される。確認できた規模は東西方向に幅 2.0 m、深さは 0.1 mである。

Ｓ 80　土坑　トレンチの北西に位置し、Ⅸｂ層上面で確認した。平面形は西側の一部がトレンチ外へ延びているが、隅丸方形とみられる。確認できた規模は南北方向の長軸が 0.9 m、東西方向の短軸が 0.4 m、深さ 0.2 mである。底面は平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は単層で、黒褐色シルトを主体とし、灰白色粘土ブロックや炭化物を多量に含んでいる。堆積土はⅧｃ層と類似しており、Ⅷｃ層の堆積とほぼ同時期に埋没したものと考えられる。出土遺物は無かった。

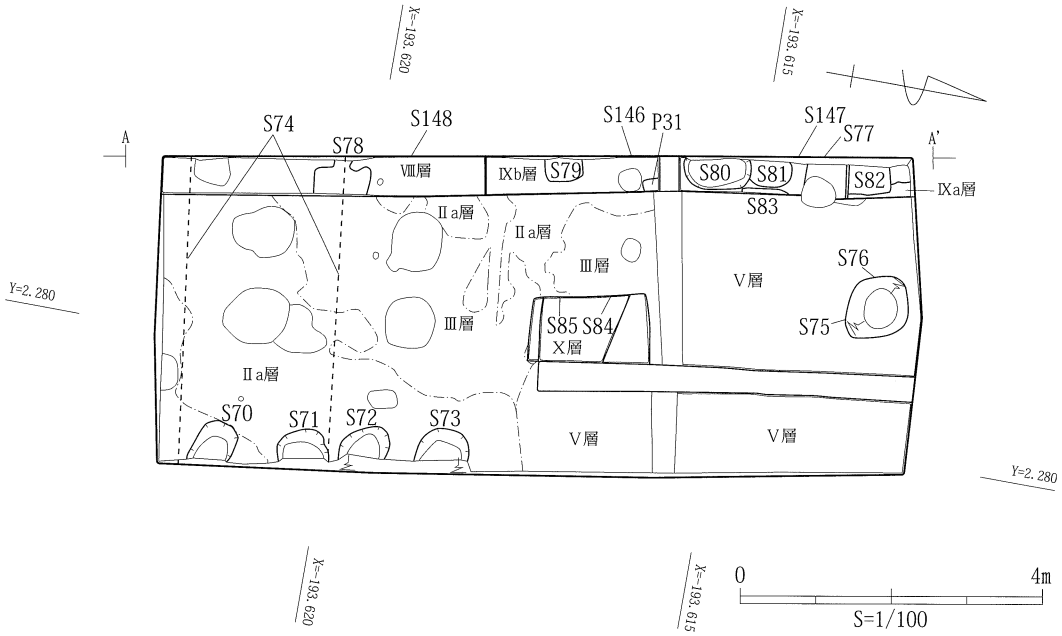
この他にⅨｂ層上面からはＳ 76・Ｓ 77・Ｓ 79・Ｓ 81・Ｓ 83・Ｓ 84 を確認したが、これらの堆積土もⅧｃ層と類似している。

（３）出土遺物

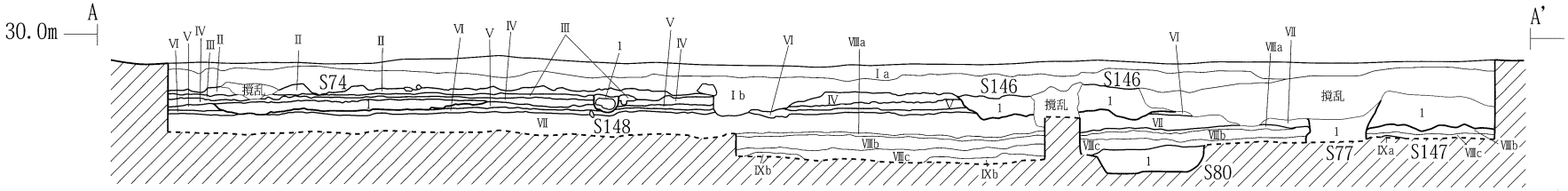
409 点の遺物が出土した。遺物の多くは撹乱とⅠ層中からのものである。全体的に小破片が多く、遺存度は低い。

陶　器

97 点出土し、近世のものは 72 点ある。産地は大堀相馬が多く全体の 38％を占め、この他に唐津、肥前、美濃、小野相馬、堤などがある。器種は碗類が 32％と多く、他に鉢類、瓶類、皿類などある。Ⅷ層から 19 世紀前半に位置づけられる大堀相馬の鉄絵の土瓶や美濃のいわゆる「ぺこかん徳利」の底部破片が出土した。

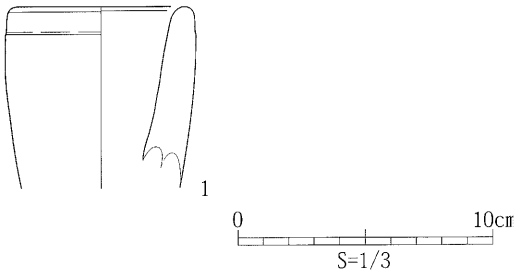


遺構番号	層位	土色	土質	備考
基本層序	Ⅰa	2.5Y6/6 明黄褐色	砂	山砂密に含む。住宅解体後の盛土。
	Ⅰb	7.5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	住宅に伴う盛土。
	Ⅱ	10YR8/3 浅黄橙色	粘土質シルト	
	Ⅲ	10YR6/1 褐灰色	シルト	小礫をまばら、炭化物粒子少量含む。
	Ⅳ	10YR7/4 にぶい黄橙色	シルト	小礫・炭化物粒子少量含む。
	Ⅴ	N3/1 暗灰色	シルト	円礫をまばらに含む。
	Ⅵ	5Y7/1 灰白色	砂質シルト	小礫・粗粒砂わずかを含む。
	Ⅶ	10YR7/6 明黄褐色	シルト	小礫・砂・炭化物粒子わずかを含む。
	Ⅶa	10Y7/1 灰白色	砂質シルト	灰白色シルトブロック・炭化物粒子を少量含む。
	Ⅶb	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	灰白色シルトブロック・炭化物粒子をまばらに含む。
	Ⅶc	10YR5/1 褐灰色	シルト	灰白色粘土ブロックをまばら、砂・炭化物粒子少量含む。
	Ⅶd	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒子少量含む。
	Ⅸa	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	粘土ブロックを含む。
	Ⅸb	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	粘土ブロックを含む。
	Ⅹ	10YR7/4 にぶい黄橙色	砂	
S74	1	N3/1 暗灰色	シルト	円礫を多量、灰色シルトブロックをわずかに含む。
S77	1	10Y4/1 灰色	シルト	褐灰色シルトブロック・小礫を少量含む。
S80	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	灰白色粘土ブロック・炭化物を少量含む。下層に礫含む。
S146	1	7.5Y5/1 灰色	シルト	小礫・炭化物粒子をわずかに含む。
S147	1	7.5Y6/1 灰色	シルト	灰褐色シルトブロックを少量、炭化物をわずかに含む。
S148	1	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	礫を含む。礎盤石か。



西側サブトレンチ西壁

第25図　4号トレンチ平・断面図



図版番号	登録番号	種　類	器　種	遺構・層位	法　量(cm)			産　地	時　期	備　考	写真番号
					口径	底径	器高				
1	Ⅰ145	土師質土器	焼塩壺	Ⅳ層	(6.6)	—	—	在地	17ｃ代	ロクロ調整	8－8

第26図　4号トレンチ出土遺物

軟質施釉陶器

3点出土し、近世のものは2点ある。ともに堤の焙烙である。

磁　器

146点出土し、近世のものは76点ある。産地は肥前が圧倒的に多く全体の86％を占める。この他に瀬戸美濃がある。器種は碗類が全体の39％、皿類が30％を占め、この他に鉢類や瓶類がある。

土師質土器

33点出土した。器種は皿類、焼塩壺、鉢類がある。皿類は全て小破片で詳細は不明である。焼塩壺はⅣ層から出土した在地の製品で、17世紀代に位置付けられるものである（第26図1）。鉢類は撹乱、Ⅰ層から出土しており、近現代の植木鉢などが含まれる。

瓦質土器

13点出土し、全て小破片である。器種は壺類がみられる他は、小破片のため判別できない。撹乱とⅠ層出土のものの時期は不明である。Ⅳ・Ⅷ層からは近世陶磁器が出土しており、同層から出土した瓦質土器についても近世の製品と考えられる。

瓦　類

76点出土した。33点は小破片であり、種別の判別可能なものとしては丸瓦9点、平瓦30点の他、桟瓦、板塀瓦、伏間瓦がある。

土製品

Ⅰ層から型押し中空の土人形の破片が1点出土した。堤人形の可能性がある。

金属製品

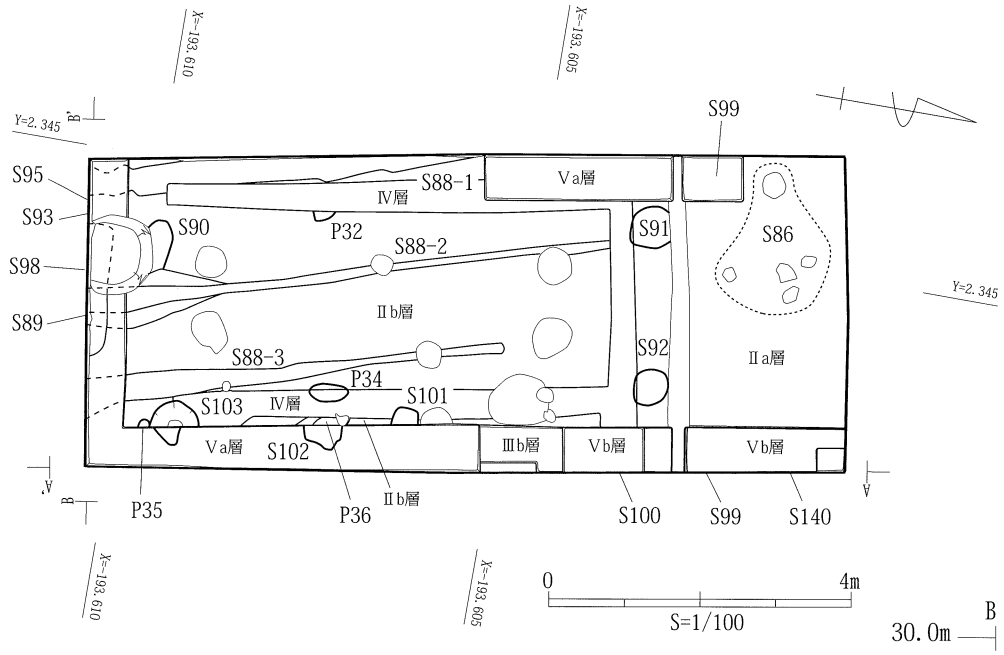
36点出土した。多くは撹乱とⅠ層中からのものである。種別は釘・煙管・銃弾などがある。釘は全て丸釘で、近現代のものである。煙管はⅠ層から火皿部分が出土した。

6　5号トレンチ

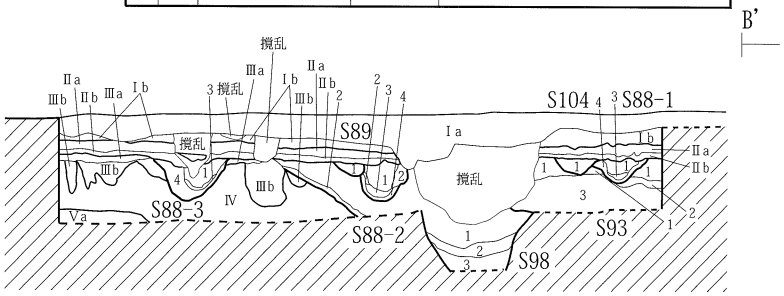
追廻地区の中央付近で現存する護岸石垣から約25ｍ西側に位置する。トレンチは南北方向を軸に長さ10.0ｍ、幅4.0ｍの規模で設定した。またトレンチの東壁側・南壁側・西壁側に沿ってサブトレンチを設定した。

（1）基本層序

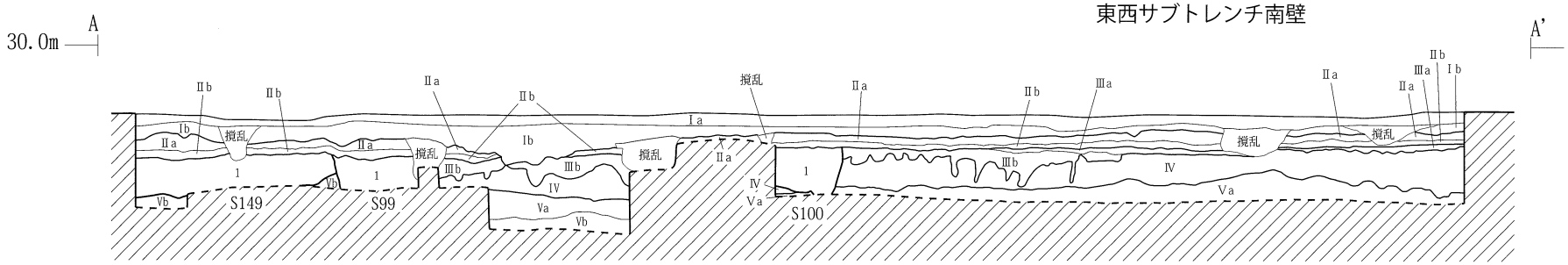
基本層序は5層に大別される。Ⅰ層は現代の整地層である。Ⅱ・Ⅲ層は混入物からみて人為的堆積と考えられる。Ⅱ層はａ・ｂの2層に細分され、Ⅱｂ層は層厚約5㎝で硬く締っている。Ⅳ・Ⅴ層は浅黄褐色砂を主体とし、その色調や土質から4号トレンチのＸ層と対応する自然堆積層と考えられる。



遺構番号	層位	土色	土質	備考
基本層序	Ⅰa	2.5Y6/6 明黄褐色	砂	山砂密に含む。住宅解体後の盛土。
	Ⅰb	10Y4/1 灰色	シルト	住宅に伴う盛土。
	Ⅱa	10Y7/1 灰白色	粘土質シルト	砂・炭化物粒子わずかに含む。
	Ⅱb	N7/1 灰白色	粘土	灰白色粘土ブロック・焼土粒・炭化物粒子わずかに含む。
	Ⅲa	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	褐灰色シルトブロック・砂・炭化物粒子わずかに含む。
	Ⅲb	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	褐灰色シルトブロックわずかに含む。
	Ⅳ	2.5Y7/4 淺黄褐色	砂	
	Ⅴ	2.5Y8/4 淡黄褐色	砂	
S88-1～3	1	5BG6/1 青灰色	粘土質シルト	灰白色シルト縞状に混じる。
	2	5BG6/1 青灰色	粘土質シルト	灰白色シルト縞状に混じる。
	3	5BG7/1 青灰色	粘土質シルト	灰白色シルトブロックわずかに含む。
	4	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰白色シルト縞状に混じる。
S89	1	5BG6/1 青灰色	粘土質シルト	灰白色シルト縞状に混じる。
S93	1	10YR7/2 にぶい黄橙色	砂質シルト	褐灰色シルトブロックをまばらに含む。
	2	10YR7/2 にぶい黄橙色	砂質シルト	灰白色シルトブロックをまばらに含む。
	3	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰白色・黄褐色シルトブロックまばら、炭化物少量含む。
S98	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	灰黄色シルトブロック多量、炭化物少量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰黄色シルトブロックまばら、炭化物粒子わずかに含む。
	3	10Y4/1 灰色	シルト	灰白色シルトブロック・炭化物粒子まばらに含む。
S99	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰黄色シルトブロックわずかに含む。
S100	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	灰黄色シルトブロック少量、礫含む。
S104	1	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	灰黄色シルトブロックまばら、炭化物粒子少量含む。
S149	1	10YR5/2 褐灰色	シルト	灰黄色シルトブロック・炭化物粒子を少量含む。



東西サブトレンチ南壁



東側サブトレンチ東壁

0 2m
S=1/50

第27図　5号トレンチ平・断面図

（2）検出遺構

遺構は４面で確認しており、Ⅱａ層上面で礎石１基、土坑１基、ピット３基、Ⅱｂ層上面で溝跡４条、土坑３基、ピット４基、Ⅲａ層上面で柱穴１基、土坑７基、Ⅳ層上面で柱穴３基を確認した。

Ｓ 88 － 1 ～ 3　溝跡　トレンチの中央から西側に位置し、Ⅱｂ層上面で確認した。各溝はＮ－ 16°－Ｗを主軸とし並行している。確認した規模は南北方向に長軸がＳ 88 － 1 は 5.2 m、Ｓ 88 － 2 は 6.9 m、Ｓ 88 － 3 は 5.5 mとなり、Ｓ 88 － 2 が最も遺存状態が良好である。断面形はＵ字形である。S88 － 2 は上端幅 0.1 ～ 0.3 m、下端幅 0.2 m、深さ 0.3 mである。底面はわずかではあるが、北から南へ４㎝程度傾斜している。各溝間の幅は S88 － 1 ～ 2 が 1.2 m、Ｓ 88 － 2 ～ 3 が 1.0 mである。これらの溝はその形態から、畑の耕作痕跡の可能性が高い。堆積土はＳ 88 － 1 で３層、Ｓ 88 － 2 で４層、Ｓ 88 － 3 で３層に分けられ、１層・３層・４層が各溝に共通している。１層は青灰色粘土質シルトを主体とし、灰白色シルトがラミナ状に堆積する。２層はＳ 88 － 2 にのみ存在しており、１層と同質の堆積層に細分される。３層は青灰色粘土質シルトを主体とする。４層は灰黄褐色砂質シルトを主体とし、１層同様に灰白色シルトがラミナ状に堆積している。全層とも硬く締っている。堆積土については土壌分析を行ったが（第３章参照）、栽培に関わる種群は１個体も検出されなかった。花粉分析の結果では、本木花粉ではマツ属・スギ属の多産が顕著で、その他では湖畔や低湿地に林分を形成するハンノキ属などが認められた。草木類ではイネ科をはじめ、カヤツリグサ科、アカザ科などが認められており、溝周辺には草地が存在し、これらの草木類が生育していたと推測されている。出土遺物は無かった。

Ｓ 98　土坑　トレンチの南側に位置し、Ⅲａ層上面で確認した。平面形は南側がトレンチ外へ延びているが、隅丸方形と推定される。規模は東西方向の長軸が 1.8 m、南北方向の短軸が 0.3 m、深さ 0.7 mである。断面形は逆台型で底面は平坦である。堆積土は３層で、１層は褐灰色シルトを主体とし、灰黄色シルトブロック・炭化物を多量に含んでいる。出土遺物は無かった。

Ｓ 103　柱穴　トレンチの南東に位置し、Ⅳ層上面で確認した。平面形は円形で、壁面は急に立ち上がる。規模は径 0.6 mで、深さ 0.3 mである。堆積土は２層に分けられ、１層は柱の抜き取り痕跡で、褐灰色砂質シルトが堆積する。２層は掘り方で、褐灰色シルトが主体で締りが強い。出土遺物は無かった。

またⅣ層上面からＳ 103 柱穴の北側に、ほぼ同等の規模をもつ柱穴のＳ 101 とＳ 102 を確認した。これらはＮ－ 11°－Ｗの軸に並んでおり、掘り方規模がほぼ同じであることから、柱穴列と考えられる。

（3）出土遺物

合計 15 点の遺物が出土した。遺物量は少なく大半が撹乱とＩ層からの出土である。小破片が多く、図示できる遺物は無い。

陶　器

２点出土したが、全て近現代のものである。

磁　器

４点出土し、近世のものは２点ある。産地は肥前で器種は鉢類である。

瓦質土器

３点出土した。器種は鉢類である。瓦質土器は全てＩ層から出土しており、時期は不明である。

瓦　類

６点出土した。全てＩ層出土である。軒平瓦が１点出土したが、瓦当部が欠落し、文様は不明である。

金属製品

撹乱とＩ層から３点出土した。種別は近現代の銭貨などがある。

木製品

Ⅰ層から木板が１点出土した。用途は不明である。

石製品

撹乱から碁石が１点出土した。

その他の遺物

Ⅴ層より古代の土師器が１点出土した。小破片のため器種は不明である。

7　６号トレンチ

追廻地区の中央からやや南側に位置する。トレンチは南北方向に長さ 10.0 m、幅 4.0 m規模で設定した。またトレンチの西壁側に沿ってサブトレンチを設定した。

（1）基本層序

基本層序は８層に大別される。Ⅰ層は現代の整地層である。Ⅱ～Ⅳ層はほぼ水平に堆積し、粘土ブロック・炭化物の他に遺物を少量含む整地層である。Ⅴ層は砂を主体とする自然堆積層で、ａ・ｂの２層に細分される。Ⅴｂ層は粗粒砂がラミナ状に堆積し、河川起源の堆積層である（注５）。Ⅵ層は砂を主体とし、ａ～ｃの３層に細分される。Ⅵａ・Ⅵｃ層は炭化物を含み、特にⅥｃ層には多量に含んでいる。このことからⅥ層は人為的な堆積層とみられ、Ⅴ層の堆積以前にも生活面が形成されていたと考えられる。Ⅶ層は灰色砂、Ⅷ層は暗灰黄色砂を主体とする自然堆積層であるが、同じく砂質の自然堆積層である４号トレンチのＸ層、５号トレンチのⅤ層と比べると色調は暗い。

（2）検出遺構

遺構は５面で確認しており、Ⅱ層上面で柱穴４基、溝跡５条、土坑９基、Ⅲ層上面でピット１基、Ⅳ層上面で土坑２基、ピット２基、Ⅵａ層上面で土坑２基、Ⅷ層で土坑１基を確認した。

Ｓ 106　土坑　トレンチの北西に位置し、Ⅱ層上面で確認した。平面形は北側と西側がトレンチ外へ延びているが、隅丸方形と推定される。確認した規模は東西方向の長軸が 1.7 m、南北方向の短軸が 1.4 m、深さ 0.3 mである。底面は平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。堆積土は３層で１層は黄灰色シルトを主体とし、灰白色シルトブロックを密に含んでいる。２・３層はオリーブ黒色シルトを主体とする。出土遺物は近世陶磁器類、瓦類などが少量ある。

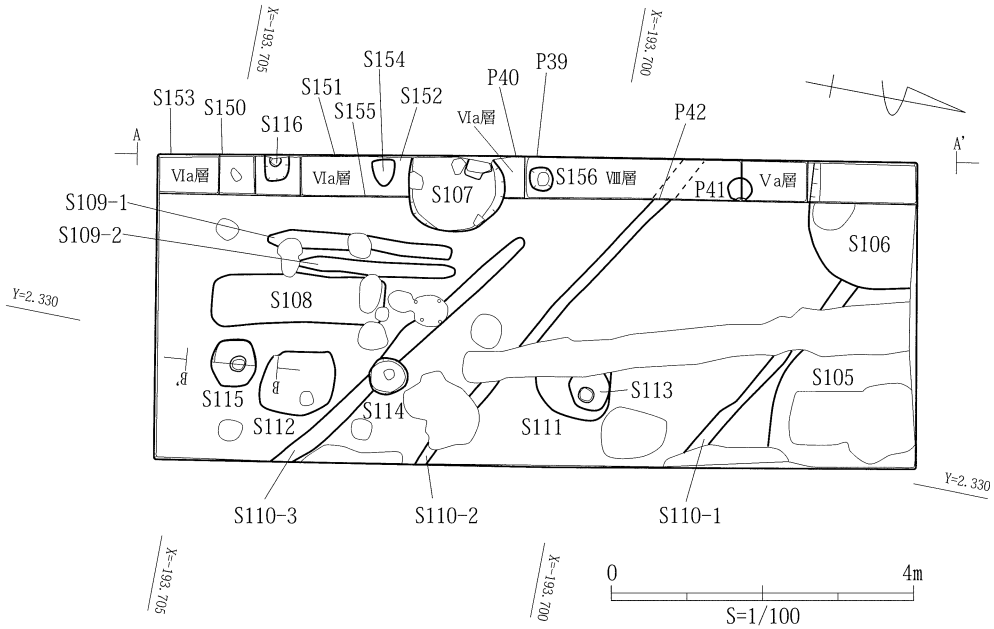
Ｓ 113・Ｓ 114・Ｓ 115　柱穴　トレンチの南東に位置し、Ⅱ層上面で確認した。３基の柱穴はＮ－５°－Ｗの同軸線上に並んでいる。平面形は不整円形で、径は 0.5 ～ 0.6 mである。各柱穴からは径 15 ～ 20 ㎝の柱痕跡が確認でき、柱間寸法はＳ 113 －Ｓ 114 間で 2.7 m、Ｓ 114 －Ｓ 115 間で 2.1 mである。Ｓ 115 については半裁しており、深さ 0.4 mで、底面は平坦、壁面は垂直に立ち上がるものである。Ｓ 115 の堆積土は３層で、１層は柱の抜き取り痕跡、２・３層は掘り方である。出土遺物は無かった。

（3）出土遺物

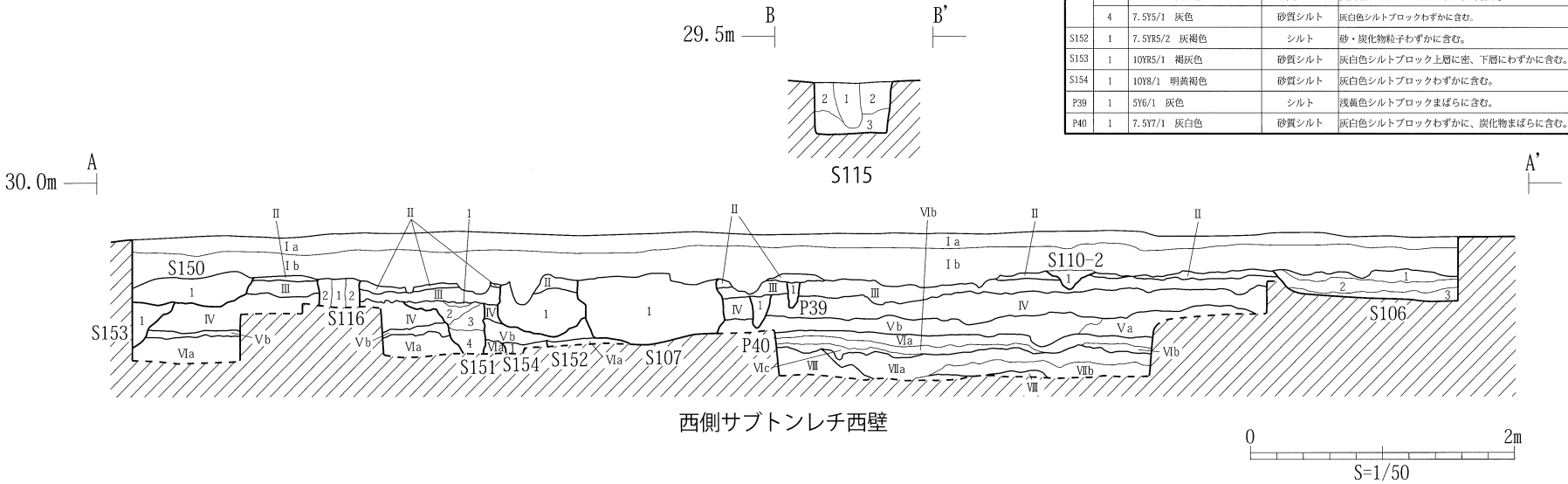
合計 122 点の遺物が出土し、多くは撹乱とⅠ層からのものである。その他Ｓ 106・107 からも少量出土した。点数比では近現代の陶磁器類が最も多く、全体の 29％を占める。点数は少ないがⅢ層からは 17 世紀後半代の遺物のみが出土した。

陶　器

32 点出土し、近世のものは 20 点ある。産地は大堀相馬、唐津、波佐見が多く、点数比的には各々 15％を占める。この他に肥前、小野相馬、岸などがある。器種は碗類が 29％と多く、この他にⅢ類、鉢類、擂鉢などある。Ⅱ層からは層の時期を示すものでは無いが、17 世紀後半から 18 世紀前半の波佐見の陶胎染付碗（第 29 図１）、Ⅲ層からは 17 世紀後半の肥前の呉器手の碗が出土した。

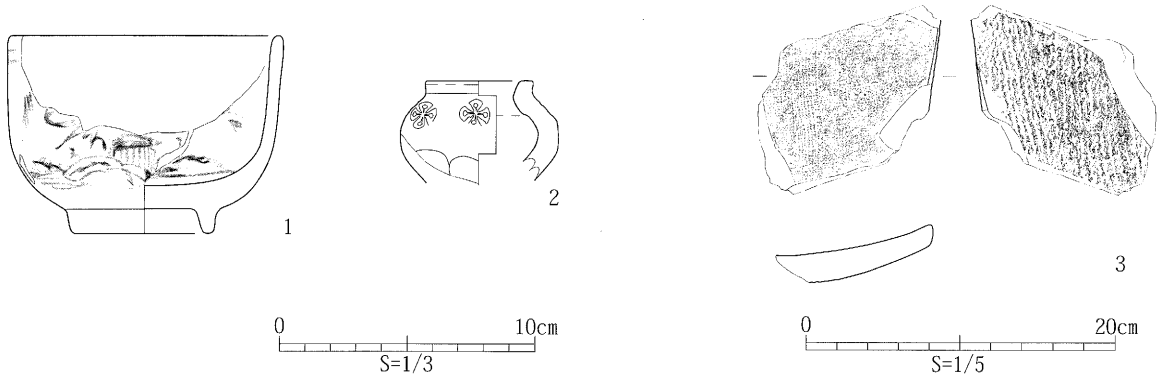


遺構番号	層位	土色	土質	備考
基本層序	Ⅰa	2.5Y6/6 明黄褐色	砂	山砂密に含む。住宅解体後の盛土。
	Ⅰb	10Y5/1 灰色	シルト	住宅に伴う盛土。
	Ⅱ	5Y7/2 灰白色	粘土質シルト	
	Ⅲ	5Y6/1 灰色	砂質シルト	灰白色粘土ブロック・炭化物わずかに含む。
	Ⅳ	5Y7/3 浅黄褐色	砂質シルト	灰白色粘土ブロック・炭化物粒子わずかに含む。
	Va	5Y8/3 淡黄褐色	砂	灰白色粘土ブロックわずか、下層に粗砂少量含む。
	Vb	2.5Y8/2 灰白色	砂	砂・粗砂が層状に堆積する。
	VIa	2.5Y6/1 黄灰色	砂	灰白色シルトブロック・砂まばら、炭化物粒子わずかに含む。
	VIb	7.5Y5/1 灰色	砂	灰白色シルトブロック・砂まばらに含む。
	VIc	2.5Y5/1 黄灰色	砂	灰白色シルトブロック・小礫・砂わずか、炭化物粒子少量含む。
	VIIa	5Y5/1 灰色	砂	
	VIIb	7.5Y5/1 灰色	砂	
	VIII	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂	
S106	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	灰白色シルトブロック密、炭化物粒子わずかに含む。
	2	5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	灰黄色シルトブロック・炭化物粒子まばらに含む。瓦含む。
	3	5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	灰黄色シルトブロック下層に密、炭化物まばらに含む。
S107	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	橙色粘土ブロック・炭化物密、灰色粘土下層に密含む。円礫・瓦含む。焼失物を混入した廃土か。
S110-2	1	7.5Y6/1 灰色	砂質シルト	浅黄色シルトブロックまばら。下層に円礫を含む。
S115	1	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	浅黄橙色シルトブロック・炭化物粒子わずかに含む。柱の抜き取り痕か。
	2	7.5YR6/2 灰褐色	シルト	浅黄橙色シルトブロック多量、炭化物粒子まばらに含む。
	3	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	浅黄橙色シルトブロック・炭化物粒子まばらに含む。
S116	1	7.5YR6/1 褐灰色	シルト	灰白色シルトブロックわずかに含む。柱の抜き取り痕か。
	2	7.5YR5/1 褐灰色	シルト	黄橙色粘土ブロックまばら、灰白色シルトブロックわずかに含む。
S150	1	7.5Y5/1 明黄褐色	シルト	灰白色シルトブロックまばら。砂・炭化物粒子をわずかに含む。
S151	1	5Y7/2 灰白色	粘土質シルト	山砂密に含む。
	2	7.5Y6/1 灰色	砂質シルト	灰白色シルトブロックわずかに含む。
	3	7.5Y7/1 灰白色	砂質シルト	灰白色シルトブロックわずか、礫含む。
	4	7.5Y5/1 灰色	砂質シルト	灰白色シルトブロックわずかに含む。
S152	1	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	砂・炭化物粒子わずかに含む。
S153	1	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	灰白色シルトブロック上層に密、下層にわずかに含む。
S154	1	10Y8/1 明黄褐色	砂質シルト	灰白色シルトブロックわずかに含む。
P39	1	5Y6/1 灰色	シルト	浅黄色シルトブロックまばらに含む。
P40	1	7.5Y7/1 灰白色	砂質シルト	灰白色シルトブロックわずかに、炭化物まばらに含む。



西側サブトンレチ西壁

第28図　6号トレンチ平・断面図



図版番号	登録番号	種　類	器　種	遺構・層位	法　量(cm) 口径	底径	器高	産　地	時　期	備　考	写真番号
1	I 96	陶器	碗	II層	13 5	7.9	5.3	波佐見	18ｃ前半	陶胎染付　外面：山水文　被熱	8－9
2	I 130	瓦質土器	小壺	VIa層	(4.3)	—	—	在地？	近世？	外面：印花文	8－10

図版番号	登録番号	種　類	遺構・層位	法　量 (cm) 長さ	幅	厚さ	重さ (kg)	備　考	写真番号
3	G 3	平瓦	撹乱	—	—	1.9	0.34	古代瓦　凸面：縄叩き　凹面：布目	8－11

第29図　6号トレンチ出土遺物

磁　器

37点出土し、近世に属するものは7点ある。小破片が多く遺存度は低い。産地は肥前と波佐見、瀬戸美濃があり、器種は碗類、皿類などがある。Ⅲ層中からは17世紀後半の波佐見の青磁印刻文皿、S 106からは18世紀後半の肥前の染付唐草文皿が出土した。

土師質土器

14点出土した。器種は皿類、鉢類、小型容器がある。皿類は小破片のため詳細は不明である。鉢類、小型容器は撹乱及びⅠ層から出土しており、時期は不明である。

瓦質土器

6点出土した。器種は鉢類と小壺がある。VIａ層から出土した小壺は外面に印花文が施されている(第29図2)。

瓦　類

16点出土した。種別は丸瓦3点、平瓦8点の他にS 107からは板塀瓦2点、伏間瓦が1点出土した。

土製品

撹乱から碁石形の製品が1点出土した。

金属製品

12点出土した。種別は釘でS 106・S 107から出土したものは近世の角釘と考えられるが、これ以外は丸釘である。

その他の遺物

撹乱から古代の瓦が1点出土した。平瓦で、凸面に縄叩きがみられる（第29図3）。

8　7号トレンチ

追廻地区の南側に位置する。トレンチは南北方向を軸に長さ10.0 m、幅4.0 m規模で設定した。またトレンチの東壁側に沿ってサブトレンチを設定した他、トレンチ中央の撹乱を利用して、下層の確認を行い、自然堆積層である砂礫層を確認した。

(1) 基本層序

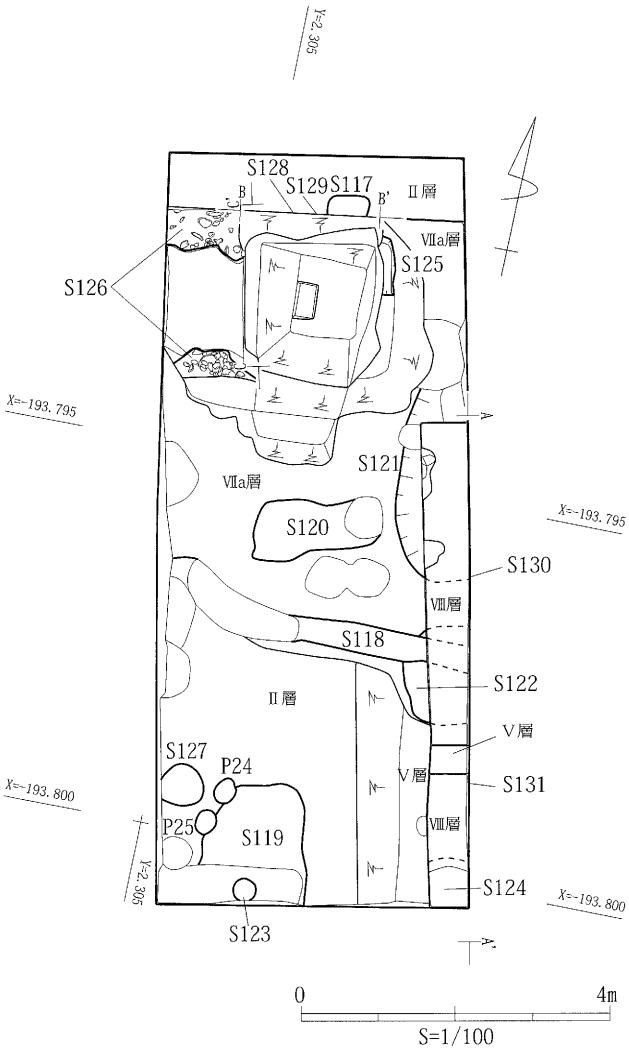
基本層序は12層に大別される。Ⅰ層は現代の整地層である。Ⅱ～Ⅶ層は均一な層厚で水平に堆積する整地層である。Ⅱ～Ⅳ層はトレンチ中央の撹乱のため、北壁付近と南側のみで確認できた。Ⅱ・Ⅳａ・Ⅴ層は硬く締ってお

り、各上面は生活面である可能性が高い。Ⅵ層は浅黄色シルトブロックを主体としており、小礫・粗粒砂をわずかに含んでいる。この層はⅦａ層上面で確認した遺構の堆積土に類似しており、遺構の埋没と層の堆積がほぼ同時期であったと考えられる。Ⅷ～ⅩⅡ層は河川起源の自然堆積の砂層である。Ⅸ層はａ～ｂの２層に細分される。Ⅸａ層は黄灰色砂、Ⅸｂ層はオリーブ黒色砂を主体とし、第２次調査で確認した砂層の中では最も暗い色調となる。ⅩⅠ層はａ・ｂの２層に細分され、ⅩⅠｂ層の下層には円礫が堆積し、円礫の間には粗粒砂がみられる。ⅩⅡ層は灰黄色砂を主体とし、円礫が堆積している。ⅩⅠｂ・ⅩⅡ層は河床の堆積層である（注６）。

（２）検出遺構

遺構は４面で確認しており、Ⅱ層上面で溝跡１条、土坑４基、小穴２基、Ⅴ層上面で土坑３基、Ⅵ層上面で柱穴１基、土坑３基、Ⅶａ層上面で土坑３基を確認した。なおⅡ層上面で確認したＳ 118 溝跡は溝中に拳大の円礫が充填されており、第二師団時代の暗渠の可能性がある（注７）。

Ｓ 129　柱穴　トレンチの北側に位置し、Ⅳ層上面で確認した。トレンチ中央に位置する撹乱の北側で遺構断面を確認できただけであり、平面形は不明である。確認できた規模は東西方向に 0.7 m、深さ 0.4 mである。断面形は逆台形で底面の中央が窪んでおり、径約 20cm の礎盤石が据えられている。堆積土は５層に分けられ、１層は灰色シルトを主体とし、下面には平坦面を持つ径約 15 ㎝の礫がみられる。３～５層は掘り方である。出土遺物は無い。１層下面に位置する礫は礎盤石と考えられ、掘り込み底面の礎盤石のほぼ垂直上に位置している。このことからこの柱穴は造り変えが行われたと考えられる。



第 30 図　７号トレンチ平面図

（３）出土遺物

合計 65 点の遺物が出土した。遺物はいずれも小破片で図示できるものは無い。

陶　器

陶器は５点出土し、近世のものは２点ある。Ⅳ層からは 17 世紀代の肥前の灰釉碗、Ⅶ層から 19 世紀前半に位置づけられる大堀相馬の白濁釉の土瓶が出土した。

磁　器

７点出土し、近世のものは２点ある。近世磁器はⅣ層から出土しており、19 世紀代の肥前の端反碗がある。

土師質土器

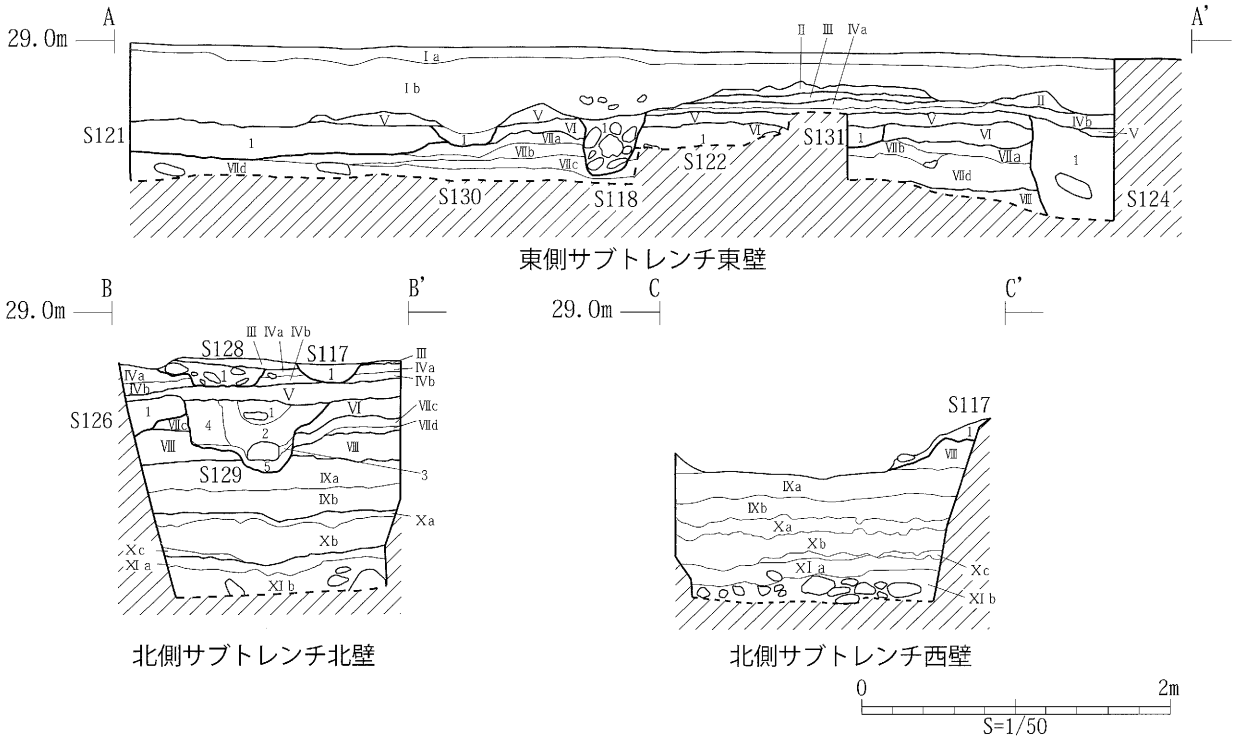
２点出土した。器種は皿類と鉢類がある。皿類は小破片のため詳細は不明である。鉢類はⅠ層から出土しており、時期は不明である。

瓦　類

50 点出土し、丸瓦 10 点、平瓦 30 点の他に、小破片のため種別の判別が不可能なものが 10 点ある。

金属製品

Ｓ 124 より鉄製品が１点出土した。腐食が激しく、種別は不明である。



遺構番号	層位	土色	土質	備考
基本層序	Ⅰa	2.5Y6/6 明黄褐色	砂	山砂密に含む。住宅解体後の盛土。
	Ⅰb	10Y4/1 灰色	シルト	住宅に伴う盛土。
	Ⅱ	2.5Y7/1 灰白色	シルト	黄褐色粘土ブロック・礫まばらに含む。
	Ⅲ	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	黄褐色・灰白色シルトブロック・砂まばら、小礫・炭化物粒子わずかに含む。
	Ⅳa	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	礫・灰白色シルトブロックまばら、炭化物少量含む。
	Ⅳb	2.5Y5/2 黄暗灰色	シルト	灰白色シルトブロックを少量、炭化物粒わずかに含む。
	Ⅴ	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	黄褐色シルトブロックまばら、灰白色シルトブロック・炭化物粒子少量含む。
	Ⅵ	2.5Y7/3 浅黄色	シルト	黄褐色シルトブロック主体。灰白色シルトブロック少量、小礫・粗砂わずかに含む。
	Ⅶa	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	灰黄色砂・灰白色シルトブロック少量、炭化物粒子わずかに含む。
	Ⅶb	2.5Y6/2 灰黄色	砂質シルト	灰白色シルトブロックをわずかに含む。
	Ⅶc	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	
	Ⅶd	5Y5/1 灰色	砂質シルト	
	Ⅷ	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂	灰白色砂質シルトブロックをまばらに含む。
	Ⅸa	2.5Y5/1 黄灰色	砂	灰白色シルトブロックをまばらに含む。
	Ⅸb	7.5Y3/1 オリーブ黒色	砂	
	Ⅹa	10Y7/1 灰白色	砂	灰白色シルトブロックまばらに含む。
	Ⅹb	5Y7/1 灰色	砂	

遺構番号	層位	土色	土質	備考
基本層序	Ⅹc	5Y6/1 灰色	砂	Ⅹa～Ⅹbの主体を成す砂とⅩⅠaの混合土。漸移層か。
	ⅩⅠa	7.5Y5/1 灰色	砂	灰色シルトブロックわずかに含む。
	ⅩⅠb	10Y3/1 オリーブ黒色	砂	円礫の堆積層。下層に粗砂含む。河床面か。
	ⅩⅡ	2.5Y7/2 灰黄色	砂	円礫含む。河床面か。
S117	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒子多量、灰黄褐色シルトブロックまばらに含む。
S118	1	5Y5/1 灰色	シルト	レンガ含む。円礫多量、灰白色シルトブロック少量含む。
S122	1	2.5Y7/3 浅黄色	シルト	黄褐色シルトブロック主体。灰白色粘土ブロック・小礫をわずかに含む。
S124	1	2.5Y7/3 浅黄色	シルト	黄褐色シルトブロック主体。灰白色粘土ブロック・小礫わずかに含む。
S126	1	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	礫を含む。礫石か。灰白色シルトブロック・灰白色砂まばらに含む。
S128	1	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	礫含む。灰白色シルトブロック・灰白色砂まばらに含む。
S129	1	7.5Y5/1 灰色	シルト	下層に礫含む。礫盛石か。白色粘土ブロック下層に密。炭化物粒子少量含む。
	2	7.5Y4/1 灰色	シルト	下層に礫含む。礫盛石か。白色粘土ブロック多量に含む。
	3	7.5Y5/1 灰色	シルト	灰白色シルトブロック・炭化物粒子わずかに含む。
	4	7.5Y5/1 灰色	シルト	橙色・灰白色シルトブロックを少量、炭化物粒子わずかに含む。
	5	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	灰白色シルトブロックわずかに含む。
S131	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	灰白色シルトブロック・小礫少量、炭化物粒子わずかに含む。
S132	1	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	橙色・灰白色シルトブロックまばら、炭化物少量含む。下層に粗砂密に含む。

第31図　7号トレンチ土層断面図

（注２）　佐藤　洋氏による。

（注３、７）　藤澤　敦氏による。

（注４）　鈴木裕子氏による。

（注５、６）　松本秀明氏による。

第３節　第３次調査

１　調査経過

第３次調査地点は追廻地区の南東端に位置しており、調査は近代に入り埋められた近世期に造られた広瀬川護岸石垣の位置と構造の確認を目的として行った。トレンチは各種絵図から石垣のラインを推定し、これに直交するように長さ30ｍ、幅４～６ｍの規模で設定した。

調査は近年の整地層であるⅠ層を重機により除去し、出土遺物に留意しながら近代の整地土を順次掘り下げてい

った。トレンチの中央から東側については河川側への傾斜が認められ、掘削深度が増すため段掘りを行った。Ⅰ層より下層を人力により掘り下げ、遺構確認面での精査や遺構確認を行った。確認した遺構は基本的に掘り込みを行わなかったが構造解明上また下層に別の遺構面が存在することが判明した場合はこれを掘り込み、下層遺構を確認した。調査の進行に伴い数基の石組遺構を確認しており、これらの性格を解明することと基本層序の確認のため、再度重機による下層への掘削を行った。またこの地区には一連の遺構とは別に、大正10年（1921）、下流の愛宕下発電所の発電用水を送るために開削された隧道の存在が想定されており、この隧道に関連する導水トンネルの存否確認も当面の調査目的となった。トレンチの西側に導水トンネルの掘り込みを確認し、その堆積土についても重機による掘削を行い導水トンネルに相当するコンクリート管を確認した。

10月10日、仙台城跡指導委員会の視察が行れた。同日、高所作業車を使用してトレンチの全景撮影を行った。10月21日からトレンチの埋め戻しを行った。埋め戻しに先行して、掘り込みを行った遺構や石組遺構については土嚢で覆い、その後調査面を保護するためブルーシートを敷き詰め養生した。埋め戻しは発生土のうち礫等の混入物が少ない土を厚さ10㎝程度敷き詰め、その後重機による埋め戻しを行った。

2　基本層序

基本層序は7層に大別される。ただしトレンチの西端部で確認した堆積層については、主たる層序との間に導水トンネルによる断絶があることから、別の層序を付した。

Ⅰ層は追廻住宅の建設や解体に伴う整地層である。Ⅱ層はトレンチ全域にみられる黒褐色シルトを主体とした層で、出土遺物に近代以降の陶磁器類を含むことから、近代以降の整地層とみられる。

Ⅲ～Ⅵ層は近世以降の整地層である。Ⅲ層は東部の石組遺構（S 179）の東側のみにみられ、かつての傾斜地を平坦にするために盛られた整地層である。Ⅳ層は西半部の限られた地区にのみ確認され、砂層と小円礫を含む砂礫層が互層を成す版築状の整地層である。全体に北西側から南東側へ下る傾斜が認められ、a・bの2層に細分される。Ⅳa層は層厚があり版築状に5層、Ⅳb層は2層にさらに細分される。Ⅳa1層はS 165石敷に相当し、径約10～30㎝大の円礫を含んでいる。Ⅴ層はⅣ層の河川側にあり、S 175～S 178の一連の遺構の上部や内部に確認でき、a～dの4層に細分される。Ⅴa層は淡黄褐色粘土を主体とし、S 175石組の上面を覆うように堆積する。Ⅴc層は炭化物層と砂層が互層を成し、さらに5層に細分される。Ⅴc層は東南に向かって傾斜し、S 175に流入することから、S 175の堆積土の一部とみられる。Ⅴc層からは18世紀前半の遺物がややまとまって出土した。Ⅵ層は砂質シルトを主体とし、層中には小礫や粘土ブロックを含むことから、当地区における早い段階の人為的整地層と考えられ、河川側に緩やかに傾斜している。

Ⅶ層は河川起源の自然堆積層で、a～eの5層に細分される。Ⅶa～Ⅶd層は砂質シルト層で洪水堆積層、Ⅶe層は砂礫層で河床堆積層とみられる（注8）。

トレンチ西端部はⅠ層以下を西Ⅱ～西Ⅴ層に大別した。西Ⅱ層は砂質シルトを主体とする。西Ⅲ層は灰黄褐色シルトを主体とし、洪水起源の自然堆積層とみられる。西Ⅳ層は灰黄褐色砂質シルトを主体とし、a～dの4層に細分され、炭化物やシルト粒、拳大の円礫をわずかに含むことから人為的整地層と推定される。西Ⅴ層は砂を主体とする自然堆積層で、a～cの3層に細分される。中でも西Ⅴc層は黒褐色砂を主体とし、円礫を多量に含み、円礫間に粗粒砂が認められる。この層については、西側に近接する第2次調査7号トレンチのⅩⅠb層と類似しており、河床の堆積と判断される（注9）。

3　検出遺構

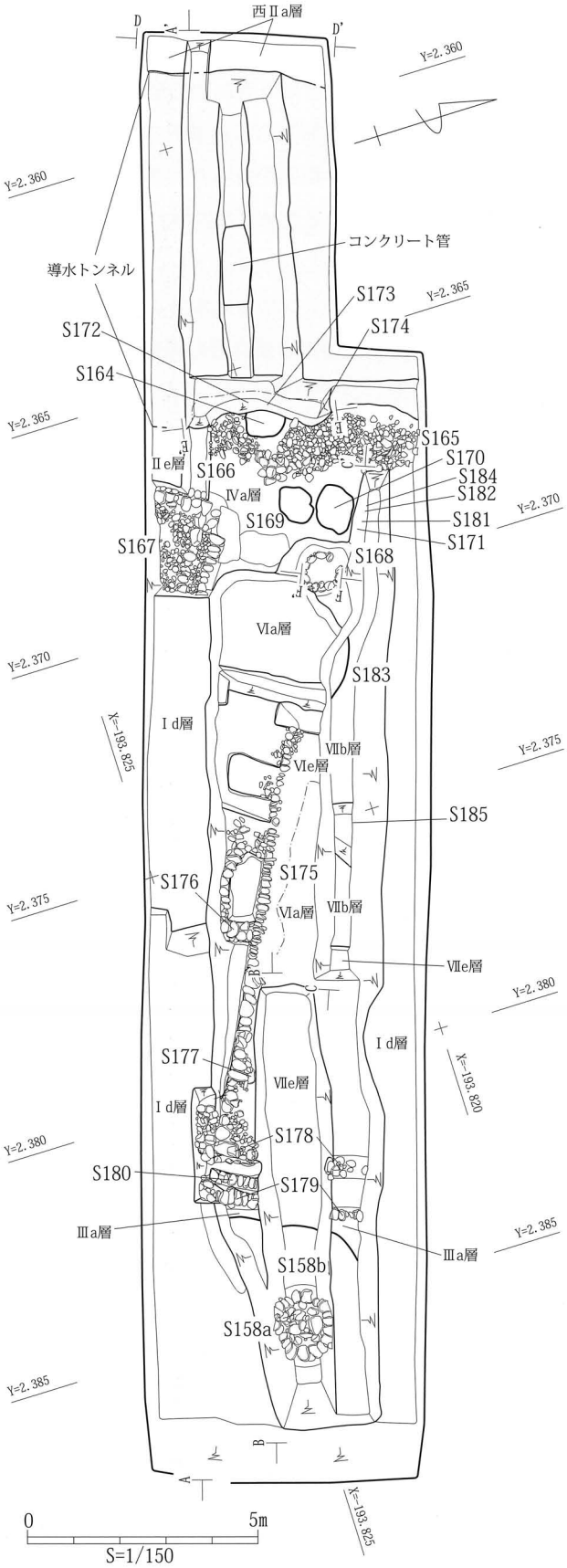
Ⅰ層中から石組遺構1基、Ⅱ層上面からは導水トンネルを確認したが、これらは近代のものである。遺構は8面で確認しており、Ⅲa層上面では井戸跡1基、Ⅳa層中では石組遺構2基、石敷遺構2基、土坑3基、Ⅳb層上面では土坑4基、Ⅴa層上面では石組遺構1基、溝跡1条、土坑3基、Ⅴ層中からは石組遺構3基、礫群2基、Ⅵ

e層上面では土坑１基、Ⅵｆ層上面では土坑２基、Ⅶｂ層上面では土坑２基を確認した。

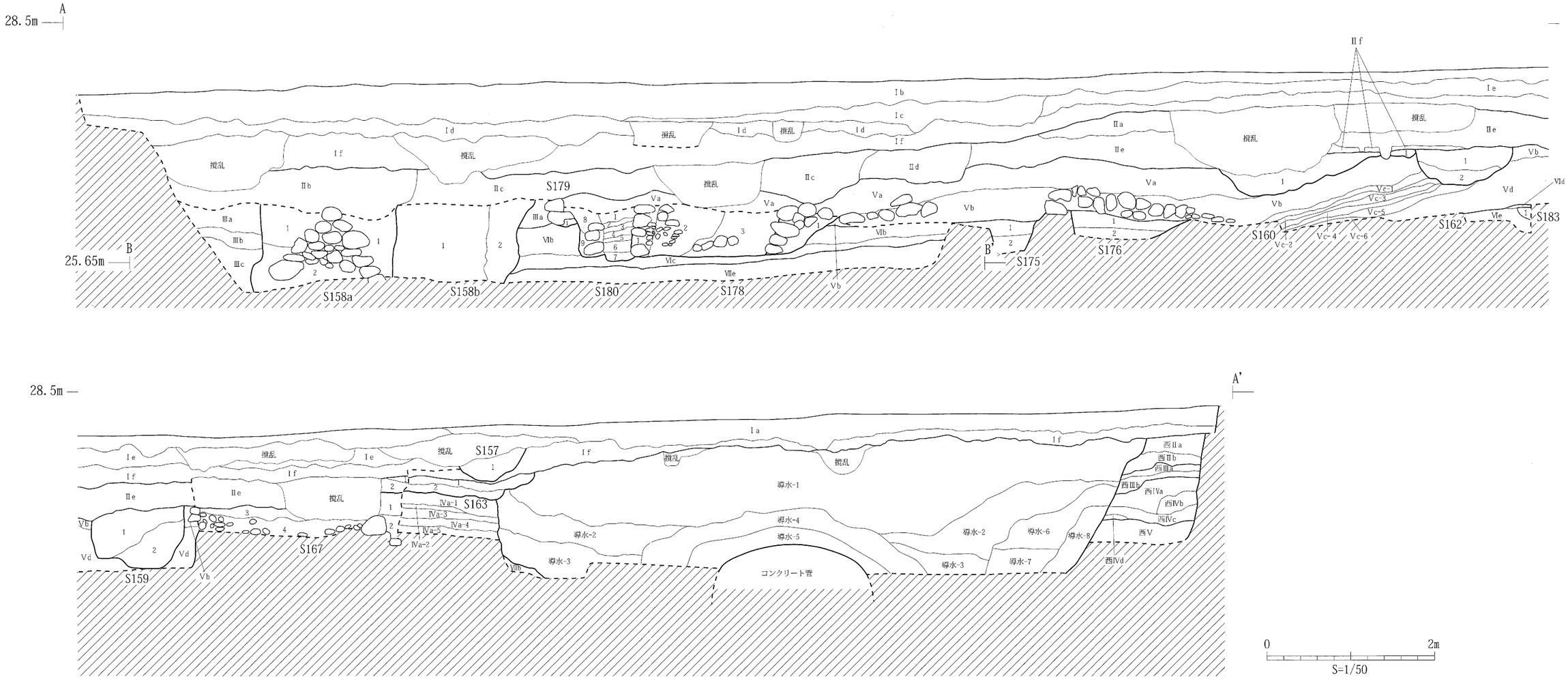
Ｓ 158　井戸跡　トレンチの東端に位置し、Ⅲａ層上面で確認した石組みの井戸である。造り替えにより２時期に分けられる。井戸上部は失われおり、内部に崩落した円礫がみられる。断面観察から、西側のＳ 158 ｂが古く、石組みを外した後、東側にＳ 158 ａを造り直している。Ｓ 158 ａの平面形は円形で、壁には径約 30 ～ 40 ㎝の円礫が組まれている。井戸の内径は 0.8 ｍ程度で、深さは不明である。掘り方径は 1.6 ｍである。掘り方の埋土は暗灰黄色砂質シルトを主体とする。Ｓ 158 ｂはＳ 158 ａの西側に幅 1.0 ｍの掘り込みを確認し、その壁面は垂直に立ち上がる。堆積土はオリーブ褐色砂質シルトを主体とする埋め戻し土とみられる。Ｓ 158 ａ及びＳ 158 ｂからの出土遺物は無かった。

Ｓ 165・Ｓ 166　石敷遺構　トレンチの中央に位置し、版築状の整地層であるⅣ層により構成されているとみられる。石敷き状となる層はＳ 165 がⅣａ－１層、Ｓ 166 がⅣａ－４層である。導水トンネルやＳ 172 より古い。確認できた範囲は南北方向に 1.7 ｍ、東西方向に 1.2 ～ 1.4 ｍで、西及び東側への石敷きの広がりは不明である。円礫の大きさは径約 10 ～ 30 ㎝である。石敷き上面の高さは北側が高く、南側へ傾斜している。出土遺物は各々近世陶磁器が少量ある。Ｓ 165 はⅣ層上面に敷設されたものであるが、Ｓ 166 はⅣ層中のものであり、相互の性格には違いがある可能性もある。

Ｓ 167　石組遺構　トレンチの南側に位置し、Ⅳ層中で確認した。主軸がＥ－ 25°－Ｓとなる北側の並行する２列の石組みと、これと直交する西側の１列の石組みにより構成される。本来の全体形は不明である。北側の石列は径約 20 ～ 30 ㎝の楕円礫が１段確認でき、２列は相互に向き合い、小口面を揃えることで、溝を形成しているものと考えられる。溝幅は 0.2 ｍで、底面には円礫が敷設されている。西側の石列には径約 30 ㎝大の円礫が１段確認でき、小口面を西側に揃えている。また石列西側の外側下面には径約 20 ㎝の小円礫による石列が平行して並んでいる。これらの石列により囲まれた南東側底面には全体に小円礫が敷設され、北側の溝部分と一体となり面的な広がりをもつ遺構とみられる。出土遺物は



第 32 図　第３次調査区平面図



遺構番号	層位	土色	土質	備考
基本層序	Ⅰa	5Y7/4 浅黄色	砂	近現住宅解体に伴う整地土。
	Ⅰb	7.5Y7/1 灰白色	粘土質シルト	近現住宅建設に伴う整地土。
	Ⅰc	5Y5/1 灰色	シルト	礫まばら、炭色シルトブロック・炭化物わずかに含む。
	Ⅰd	10YR5/1 褐灰色	シルト	礫・炭化物わずかに含む。
	Ⅰe	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	粗砂多量、礫・炭化物わずかに含む。
	Ⅰf	2.5Y3/3 暗灰黄色	砂質シルト	黄褐色シルトブロック・礫少量、炭化わずかに含む。
	Ⅱa	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	礫・炭化物まばらに含む。
	Ⅱb	2.5Y5/4 黄褐色	砂	礫・粗砂多量に含む。
	Ⅱc	5Y2/1 黒色	砂質シルト	礫・炭化物まばらに含む。
	Ⅱd	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	礫・細粒砂多量に含む。
	Ⅱe	5Y5/1 灰色	シルト	灰白色粘土ブロックまばら、礫・炭化物少量含む。
	Ⅲa	2.5Y5/4 黄褐色	砂	灰色粘土質シルトブロック・砂ブロックまばら、炭化物わずかに含む。
	Ⅲb	2.5Y6/4 にぶい黄色	砂	炭化物わずかに含む。
	Ⅲc	5Y3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	灰色粘土ブロック・炭化物まばらに含む。
	Ⅳa-1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	多大の円礫を多量、炭化物わずかに含む。S165の埋土。
	Ⅳa-2	10YR6/1 褐灰色	砂	浅黄橙色砂多量含む。
	Ⅳa-3	10Y5/1 灰色	粘土質シルト	礫まばら、浅黄橙色砂少量、炭化物わずかに含む。
	Ⅳa-4	10Y6/1 灰色	砂質シルト	礫まばら、マンガン少量含む。
	Ⅳa-5	10YR6/1 灰色	砂質シルト	淡黄橙色砂まばらに含む。S166の埋土。
	Ⅳb-1	7.5Y7/1 灰白色	砂質シルト	マンガンまばらに含む。
	Ⅳb-2	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	炭化物わずかに含む。
	Ⅴa	10YR7/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	炭化物・マンガンまばら、礫わずかに含む。
	Ⅴb	5Y5/1 灰色	砂	東側に砂礫多量、マンガンまばらに含む。
	Ⅴc-1	5Y7/1 灰白色	砂	砂多量、礫まばらに含む。
	Ⅴc-2	7.5Y3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	炭化物密、礫まばらに含む。
	Ⅴc-3	5Y7/1 灰白色	砂	砂多量、礫まばらに含む。
	Ⅴc-4	7.5Y3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	炭化物密、礫まばらに含む。
	Ⅴc-5	5Y7/1 灰白色	砂	礫まばらに含む。
	Ⅴc-6	2.5Y6/1 黄灰色	砂質シルト	炭化物まばら、礫・炭黄色砂ブロックわずかに含む。
	Ⅴd	2.5Y6/1 黄灰色	砂	礫まばらに含む。
	Ⅵa	2.5Y6/2 灰黄色	砂質シルト	礫・粗粒砂多量に含む。
	Ⅵb	2.5Y6/1 黄灰色	砂	礫・粗粒砂多量に含む。
	Ⅵc	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	マンガン少量、炭化物痕手わずかに含む。
	Ⅵd	2.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト	マンガン・灰白色シルトブロックまばら、礫わずかに含む。
	Ⅵe	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	炭化物わずかに含む。
	Ⅵf	7.5Y6/1 灰色	砂質シルト	オリーブ色砂多量、炭化物わずかに含む。
	Ⅵg	10YR4/3 にぶい黄色	砂質シルト	炭化物まばら、灰色シルトブロック少量含む。
	Ⅶa	2.5Y6/4 にぶい黄色	砂質シルト	
	Ⅶb	2.5Y5/4 黄褐色	砂質シルト	
	Ⅶc	2.5Y4/1 黄灰色	砂	ラミナ層。
	Ⅶd	2.5Y5/4 黄褐色	砂質シルト	
	Ⅶe	2.5Y4/ 黄灰色	砂	円礫多量に含む。砂礫層、河床堆積。
	西Ⅱa	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	黄灰色シルトブロック多量、礫・炭化物わずかに含む。
	西Ⅱb	5Y4/2 灰オリーブ色	砂質シルト	灰黄色シルトブロックまばら、礫・炭化物わずかに含む。
	西Ⅲa	2.5YR4/2 灰褐色	シルト	褐灰色シルトブロック、マンガンまばらに含む。出水堆積。
	西Ⅲb	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック、マンガンまばらに含む。出水堆積。

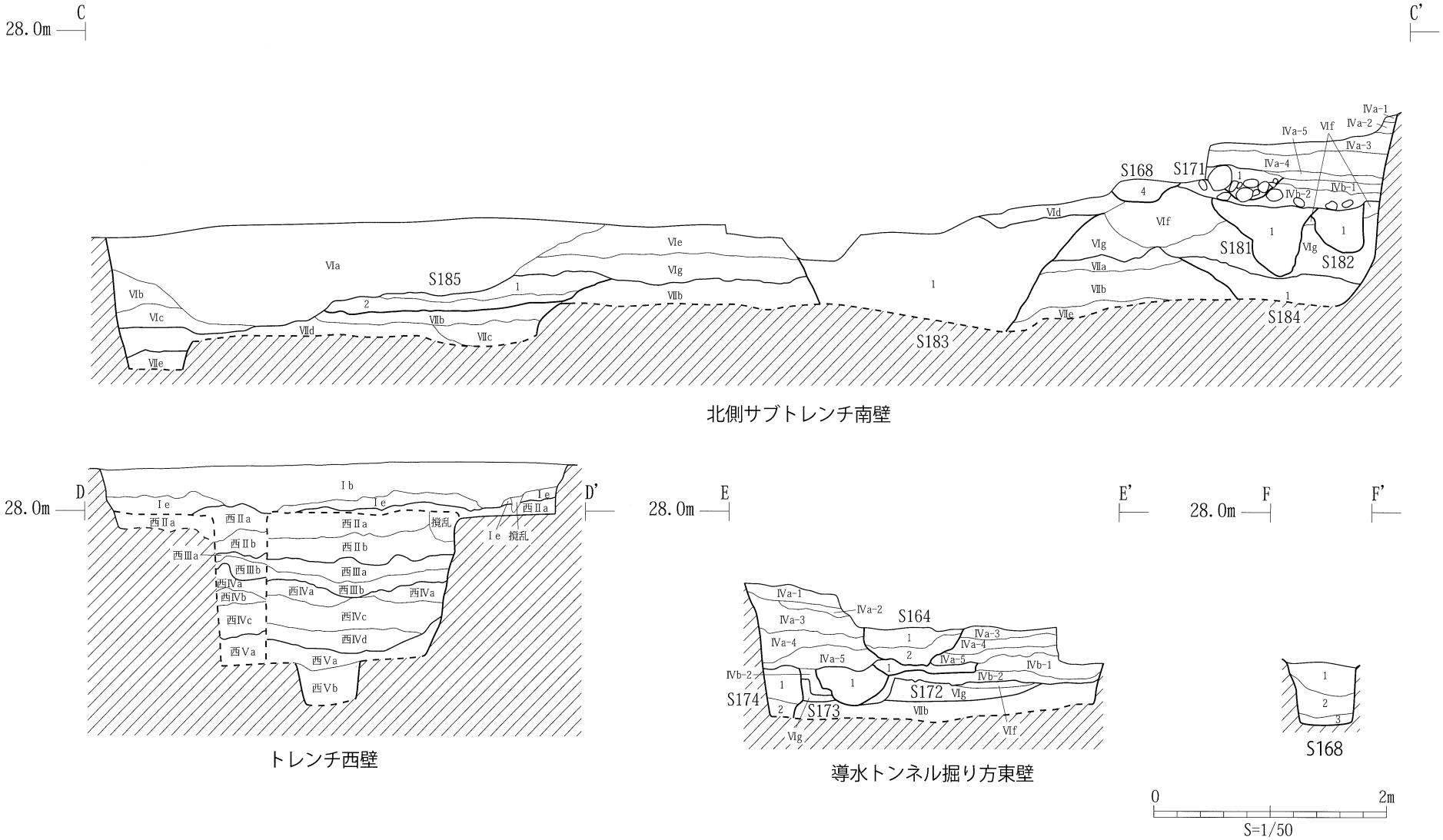
遺構番号	層位	土色	土質	備考
基本層序	西Ⅳa	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰色砂質シルトブロック・礫・炭化物わずかに含む。
	西Ⅳb	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰色砂質シルトブロック密、炭化物わずかに含む。
	西Ⅳc	10Y4/1 褐灰色	砂質シルト	褐灰色砂質シルトブロック・礫・砂少量、炭化物わずかに含む。
	西Ⅳd	10YR6/2 オリーブ黒色	砂質シルト	褐灰色砂質シルトブロックまばら、礫・炭化物わずかに含む。
	西Ⅴ	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂	褐灰色砂質シルトブロックわずかに含む。
	西Ⅵ	10YR3/2 黒褐色	砂	多大の円礫を多量に含む砂層。河床堆積。
S157	1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	砂質シルト	礫少量、炭化物わずかに含む。
S138a	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	炭化物多量、礫まばらに含む。
	2	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	炭化物多量、礫まばらに含む。
	3	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	炭化物多量、礫まばらに含む。
S138b	1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	礫まばらに含む。
	2	2.5Y4/4 オリーブ褐色	砂質シルト	礫まばらに含む。
S159	1	2.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト	礫まばらに含む。
	2	2.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト	礫多量、炭化物わずかに含む。
S160	1	2.5Y4/1 暗黄褐色	砂質シルト	礫少量、炭化物わずかに含む。
S162	1	10YR4/4 黄灰色	砂質シルト	浅黄色砂ブロック多量、礫まばらに含む。
	2	10YR4/4 黄灰色	砂質シルト	浅黄色砂ブロック・礫少量、炭化物わずかに含む。
S163	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	明黄褐色砂質シルトブロック・礫まばら、炭化物少量含む。
	2	7.5YR6/1 褐灰色	砂質シルト	明黄褐色砂質シルトブロック多量、礫・炭化物わずかに含む。
S184	1	N4/0 灰色	砂質シルト	炭化物まばら、礫少量含む。
	2	2.5Y5/1 黄灰色	砂質シルト	礫まばら、炭化物わずかに含む。
S137	1	5Y5/1 灰色	シルト	灰白色粘土ブロック・礫まばら、炭化物わずかに含む。
	2	2.5Y5/1 黄灰色	砂質シルト	礫・炭化物わずかに含む。

遺構番号	層位	土色	土質	備考
S167	3	10Y4/1 灰色	砂質シルト	礫まばら、炭化物わずかに含む。
	4	10YR3/2 黄灰色	シルト	礫少量含む。
S168	1	2.5Y6/2 暗灰黄色	砂質シルト	炭化物多量・礫まばらに含む。
	2	2.5Y5/1 黄灰色	砂質シルト	炭砂質砂質シルトブロック多量含む。
	3	7.5Y2/1 黒色	砂質シルト	炭化物多量、灰褐色シルトブロックまばらに含む。
	4	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	礫まばら、炭化物わずかに含む。
S171	1	N3/0 暗灰色	粘土質シルト	礫多量、炭化物まばらに含む。
S172	1	N4/0 灰色	粘土質シルト	炭化物まばら、礫わずかに含む。
S173	1	N4/0 灰色	粘土	礫まばらに含む。
S174	1	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	灰色砂質シルトブロックまばらに含む。
	2	7.5Y5/1 灰色	砂質シルト	砂密に含む。
S175	1	5Y7/1 灰白色	砂質シルト	砂多量、礫まばら、炭化物わずかに含む。
	2	5Y6/1 灰色	砂質シルト	礫まばら、砂・炭化物少量に含む。
S176	1	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	暗砂多量、礫・炭化物まばらに含む。
S177	1	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	礫まばらに含む。
S178	1	7.5Y3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	礫多量、砂まばらに含む。
	2	7.5Y3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	礫・粗砂まばら、炭化物わずかに含む。
S179	1	7.5Y3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	礫・粗砂まばら、炭化物わずかに含む。
S180	1	7.5Y4/1 淡黄褐色	粘土質シルト	灰白色シルトブロック・炭化物わずかに含む。
	2	10YR5/1 褐灰色	シルト	礫少量、灰白色シルトブロック・炭化物まばらに含む。
	3	7.5YR5/1 淡黄褐	粘土質シルト	礫・灰白色シルトブロック・炭化物わずかに含む。
	4	7.5Y6/1 明黄褐色	シルト	礫・灰白色シルトブロック・炭化物少量含む。

遺構番号	層位	土色	土質	備考
S180	5	7.5Y4/1 淡黄褐色	シルト	灰白色シルトブロックわずかに含む。
	6	10YR5/1 褐灰色	シルト	灰白色シルトブロック・礫・炭化物少量含む。
	7	7.5YR5/1 淡黄褐色	シルト	灰白色シルトブロック・炭化物・マンガン粒わずかに含む。
	8	5YR5/1 褐灰色	シルト	礫・灰白色シルトブロック・炭化物少量含む。
	9	5YR5/2 灰褐色	シルト	礫まばら・炭化物少量含む。
S181	1	2.5Y4/4 オリーブ褐色	砂質シルト	礫密、粗粒砂多量に含む。
S182	1	5Y6/2 灰オリーブ色	砂	礫少量含む。
S183	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂	礫密、粗粒砂多量に含む。砂礫層。
S184	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	炭化物わずかに含む。
S185	1	2.5Y6/4 にぶい黄色	砂	粗粒砂・炭化物わずかに含む。
	2	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	浅黄色砂ブロック・礫少量、炭化物わずかに含む。
導水トンネル	1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂	礫少量、にぶい黄色シルトブロック・炭化物わずかに含む。
	2	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂	黒褐色シルトブロック・礫少量含む。
	3	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂	黒褐色シルトブロック密、礫少量含む。
	4	2.5Y4/4 灰白色	砂質シルト	礫わずかに含む。
	5	2.5Y3/2 黒褐色	砂	砂礫まばらに含む。
	6	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂	にぶい黄色・暗オリーブ褐色シルトブロックわずかに含む。
	7	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂	にぶい黄色・暗オリーブ褐色シルトブロック多量含む。
	8	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂	礫わずか、暗オリーブ褐色シルトブロックまばらに含む。

※　B―B’の破線以下の下層部分は確認断面位置が異なるが、A―A’に投影し、合成したものである。

第33図　第3次調査区　南壁土層断面図



第 34 図　第 3 次調査区土層断面図

近世の陶磁器類が少量ある。

S 168　石組遺構　トレンチの中央に位置し、Ⅳ層中で確認したが、Ⅳａ－１層上面からの掘り込みとみられる。平面形は円形で、壁には径約 20 ～ 30 ㎝の円礫が６段程度に組まれている。石組みの内径は 0.7 m、深さ 0.7 mで、底面は平坦である。掘り方は径 1.0 mの不整円形である。堆積土は４層に分けられ、３層は黒色シルトを主体とし、炭化物を多量に含む。４層は掘り方に相当し、灰褐色砂質シルトを主体とする。出土遺物は近世陶磁器類が少量ある。

S 175　石組遺構　トレンチの中央に位置し、Ⅵｅ層上面で確認したが、遺構内にＶｃ層が傾斜して堆積することから、本来はⅥｅ層上面より上からの掘り込みと判断される。石列の主軸方向はＥ－ 24°－Ｓである。この遺構は北側を東西石組列による壁とし、南側に面的に広がりをもったものと推定され、確認した規模は東西方向の長軸が 9.1 m、南北がトレンチ南壁までの 1.5 mで、残存する深さは 0.2 ～ 0.4 mである。石組みの南側面は南東方向へ緩やかに傾斜している。壁には３段程度に円礫が積まれ、小口面を南側に揃えている。石の積み方は西側に 20 ～ 30 ㎝のやや小振りの楕円礫を３段程度積んでいるのに対し、東側は最下段は西側と同様だが、その上に 40 ㎝大の大きめの円礫や角礫を不規則に積んでおり、場所により異なった構築状況が窺える。この状況から東側の石組みは後に積み直されている可能性もある。堆積土は遺構内全体にみられるＶｂ層と炭化物層と砂層が互層となる西側のＶｃ層である。出土遺物はＶｃ層から 17 世紀後半から 18 世紀前半にかけての陶磁器類のほか、多くの土師質土器皿片がある。また遺構中央及びトレンチ南壁にＳ 176 とした円礫がまとまって確認できた部分があるが、これは同溝の一部の石組みかそれらが崩落したものの可能性がある。

S 178・S 180　石組遺構　トレンチの東側に位置し、確認できた規模は南北方向の長軸はＳ 178 が 2.4 m、Ｓ 180 が 1.0 mである。この２列の石組みは相互に向き合い、小口面を揃えることで、１条の溝を形成しているものと考えられる。溝幅は 0.3 m、深さは 0.7 mである。Ｓ 178 は西側の護岸石組であり、主として径約 20 ～ 30 ㎝の円礫を不規則に４～５段程度、東側に小口面を揃えやや傾斜するように積まれている。この石組みには 40 ㎝程度の切石もみられ、これは石垣から転用されたものと推測される。石組みの背面には裏込石がみられる。掘り方は深さ 0.6 mであり、掘り方の堆積土は黒色シルトを主体とする。Ｓ 180 は溝内部と東側の護岸石組であり、石組みは崩落がみられるが径約 20 ～ 30 ㎝の円礫が３段程度積まれている。堆積土は９層に分けられる。このうち溝の堆積土は７層に分けられ、粘土質シルトとシルト層が互層をなし水平に堆積している。２・４・６層は灰褐色シルトを主体とし礫・粗砂を含み、７層は淡黄褐色粘土質シルトを主体としマンガン化した砂粒を含む。８・９層は石組みの掘り方で黒色シルトを主体としている。溝跡の西側にはＳ 175 が接している。この地点の南及び東側への両遺構の延びはトレンチ外のため確認できなかったが、両遺構には重複関係があるのか、あるいは接続部分でＳ 178 の石組みが途切れる状況などから、両者は同時に機能していた可能性もある。出土遺物はＳ 178 掘り方及び溝内より近世陶磁器類が少量ある。

S 179　石組遺構　トレンチの東側に位置し、Ｖａ層上面で確認した。Ｓ 175 に直行しＳ 178・Ｓ 180 と平行してみられる。石列の主軸方向はＮ－ 26°－Ｅであり、確認できた規模は南北方向の長軸が 2.4 m、掘り方の深さは 0.4 mである。石組みは径約 20 ～ 30 ㎝の楕円礫を２段積んでおり、礫の長軸は東西方向を示す。掘り方の堆積土はオリーブ黒色砂質シルトを主体とする。この石組みを境として、その東側のみにⅢ層の堆積が確認されていることから、河川側の東方向へ盛土を行う際に、土留めとして積まれた可能性が考えられる（注 10）。

4　出土遺物

合計 906 点の遺物が出土した。出土傾向としては、Ⅱ層から 19 世紀前半、Ⅳ層からは 18 世紀、Ｖｃ層からは 17 世紀末から 18 世紀前半にかけての遺物がややまとまって出土している。またＶｃ層からは土師質土器が多く、陶磁器類が少ない特異な傾向をみせている。出土遺物はⅡ層からが最も多く、全体の 31％を占める。

陶　器

248点出土し、近世のものは216点ある。産地は大堀相馬が最も多く、全体の40％を占める。この他に肥前、小野相馬、瀬戸美濃、岸、堤のほか、少量ながら京・信楽、丹波、志戸呂などがある。器種は碗類が最も多く50％を占め、この他に皿類、鉢類、擂鉢などがある。Ⅱ層からは18世紀代の大堀相馬の掛け分け碗（第35図1）、灰釉皿（第35図2）、19世紀前半に位置づけられる堤の鉄釉擂鉢（第35図5）などがある。その他には17世紀後半の常滑大甕の口縁部が出土している（第35図4）。Ｖｃ層からは産地不明であるが、陶器の丸碗が出土している（第35図3）。高台に特徴があり、しっかりとした逆凸状である。器形は瀬戸美濃の丸碗、京焼の半球碗に近いが該当産地がなく、在地産の製品の可能性もある（注11）。

軟質施釉陶器

9点出土し、全てⅡ層より上層からである。堤の焙烙のほか、産地不明の碗類、皿類がある。

磁　器

369点出土し、近世のものは214点ある。産地は肥前が圧倒的に多く、全体の80％を占める。この他に波佐見、瀬戸美濃、切込、中国がある。瀬戸美濃、切込はⅡ層より上層から出土している。器種は碗類が多く、54％を占め、他に皿類、鉢類がある。Ⅱ層出土のものでは19世紀中葉の瀬戸美濃の端反碗（第35図10）、19世紀前半の切込の端反碗がある（第35図6）。Ｖｃ層では18世紀前半の肥前の型紙摺絵の猪口（第35図9）、白磁の小坏（第35図7）、雪輪草木文の皿（第35図8）がある。白磁の小坏はＶｃ層より法量は不明であるが接合関係のない破片が6点出土している。

土師質土器

128点出土し、64％はＶ層中からのものである。器種は皿類がほとんどで97％を占めるほか、焼塩壺がわずかにある。皿類は破片が多く全体を復元できるものは少ないが、Ｖｃ層から出土した3点（第36図1～3）は、12.3cm、15.0cm、11.4cmの口径があり、大きく2種類の大きさに分けられる。2と3の口縁部には煤が付着しており、灯明具として使用されたとみられる。Ｖｃ層出土の焼塩壺は外面に斜格子状のタタキが施されている在地産の製品で、時期は17世紀後半から18世紀前半のものとみられる（第36図4）。

瓦質土器

22点出土し、小破片が多い。器種は鉢類、蚊遣り、擂鉢などがある。擂鉢は撹乱出土のもので、17世紀前半とみられる。瓦質土器についてはⅡ層よりも上層及び撹乱出土のものはこの擂鉢のみが近世のものとされる以外、他は全てⅡ層以下及び遺構内から出土したものに限られる。

瓦　類

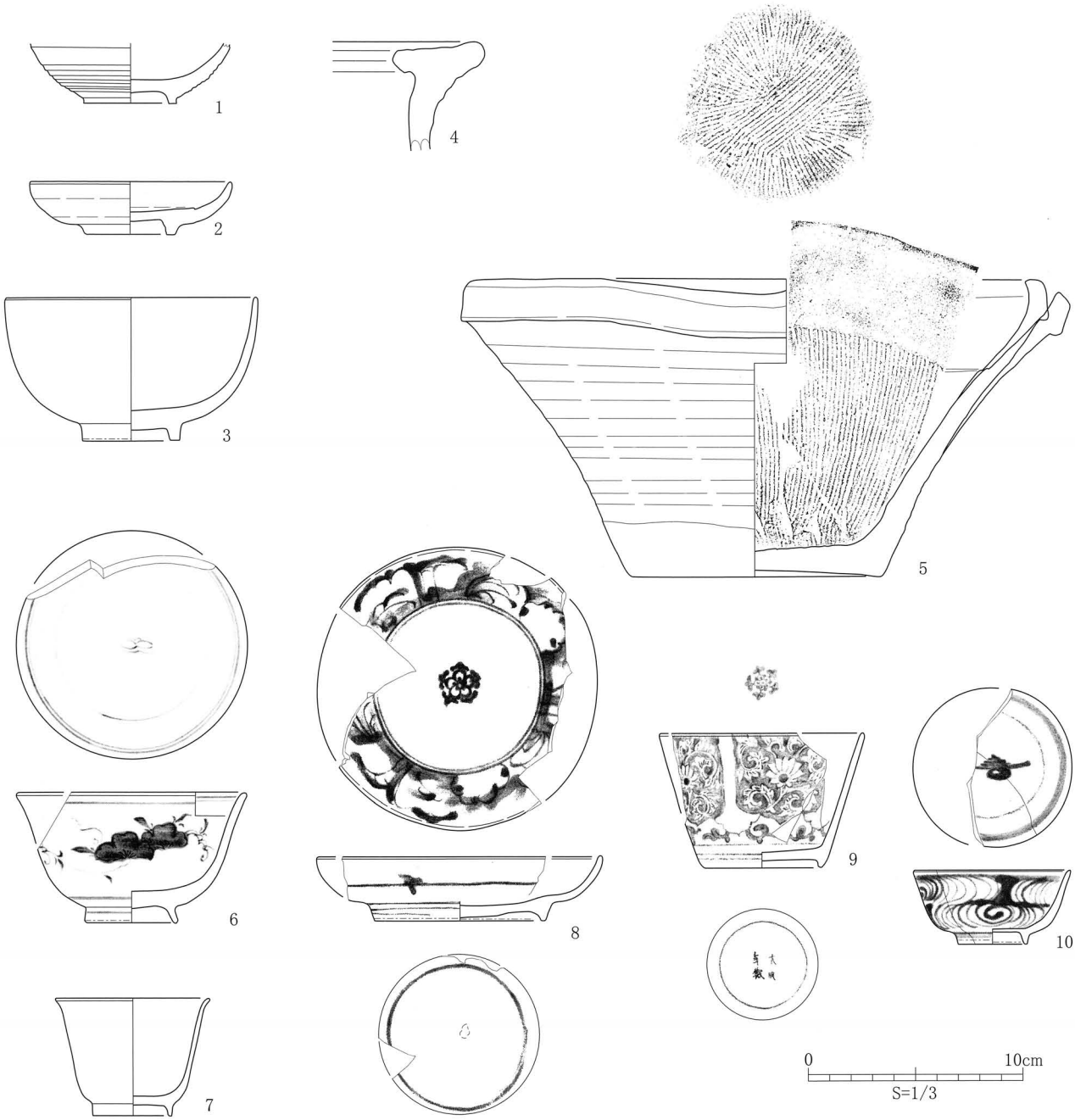
62点出土し、丸瓦22点と平瓦31点が全体の85％を占める。導水トンネルの掘り方中より剣花菱文の滴水瓦（第36図6）、Ⅰ・Ⅱ層中からは鯱瓦の一部が出土した。この他は軒丸瓦がⅡ層より2点出土している。軒丸瓦の瓦当文様は右巻の連珠三巴文である。

土製品

4点出土した。Ⅱ層から型押成形の天神人形（第36図5）と人形の破片、Ⅳ層からは摩滅が激しい人形の頭部、Ｓ159からは人形の破片が出土している。

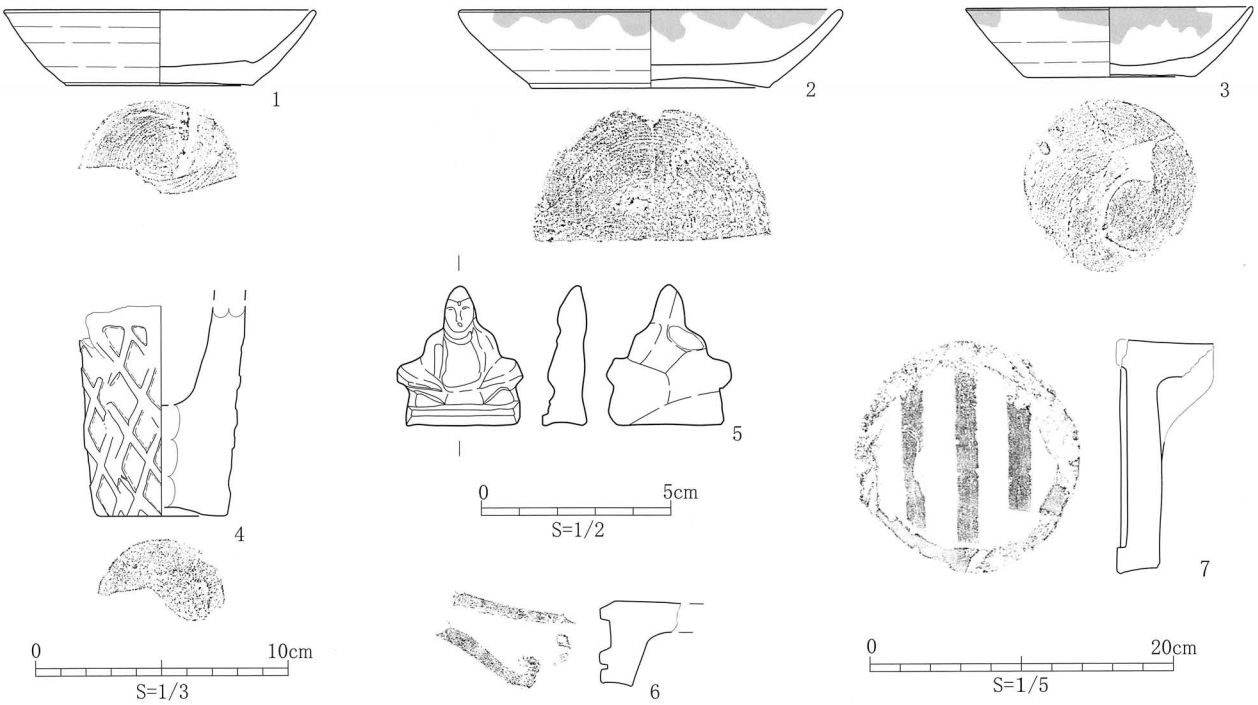
金属製品

75点出土し、種別は釘、古銭、煙管、銃弾、薬莢などがある。釘はⅡ層とＳ163から出土したもの以外は丸釘で、近現代のものである。古銭は7点出土し、うち5点はⅡ層からのもので、内訳は新寛永通宝3点、古寛永通宝1点、康熙通宝（初鋳年：1662年）1点である。この他にⅣ層より古寛永と新寛永が1枚ずつ出土している。煙管はＳ157より吸口部分とＶｃ層より火皿部分が出土した。



図版番号	登録番号	種　類	器　種	遺構・層位	法　量(cm)			産　地	時　期	備　考	写真番号
					口径	底径	器高				
1	Ⅰ108	陶器	碗	Ⅱ層	—	4.3	—	大堀相馬	18ｃ代	外面：鉄釉　内面：灰釉　掛け分け碗	9－1
2	Ⅰ110	陶器	皿	Ⅱ層	(9.3)	(4.1)	2.5	大堀相馬	18ｃ代	灰釉　高台内無釉	9－2
3	Ⅰ120	陶器	碗	Ⅴc層	(11.8)	4.5	6.7	不明	18ｃ前半?	灰釉　胎土：緻密で灰色　在地産の可能性あり。	9－3
4	Ⅰ111	陶器	大甕	Ⅱ層	—	—	—	常滑	17ｃ後半		9－4
5	Ⅰ109	陶器	擂鉢	Ⅱ層	(26.4)	11.6	14.0	堤	19ｃ前半	鉄釉　摺目12本（14mm）	9－5
6	Ｊ87	磁器	端反碗	Ⅱ層	10.6	4.2	6.1	切込	19ｃ前半	染付 外面：花唐草文 見込：唐草文	9－6
7	Ｊ95	磁器	小坏	Ⅴc層	(7.0)	(3.7)	(5.5)	肥前	18ｃ前半	白磁	9－7
8	Ｊ93	磁器	皿	Ⅴc層	13.1	8.0	3.0	肥前	18ｃ前半	染付 外面：唐草文 内面：雪輪草木文 見込：コンニャク印判五弁花	9－8
9	Ｊ94	磁器	猪口	Ⅴc層	(9.6)	5.4	6.3	肥前	18ｃ前半	染付 外面：型紙摺り唐草文 見込：手描き五弁花 高台内：「大明年製」銘	9－9
10	Ｊ86	磁器	端反碗	Ⅱ層	7.2	3.2	3.5	瀬戸美濃	19ｃ中葉	染付 外面：渦 見込：岩波文 内面口縁：無地帯文 焼継痕	9－10

第35図　第３次調査出土遺物（１）



図版番号	登録番号	種　類	器　種	遺構・層位	法　量(cm) 口径	底径	器高	産　地	時　期	備　考	写真番号
1	I 149	土師質土器	皿	Vc層	(12.3)	7.4	2.7	在地	近世	ロクロ調整 左回転糸切痕	9−11
2	I 150	土師質土器	皿	Vc層	(15.0)	9.4	3.1	在地	近世	ロクロ調整 左回転糸切痕 口縁にススが厚く付着	9−12
3	I 148	土師質土器	皿	Vc層	11.4	6.6	2.8	在地	近世	ロクロ調整 左回転糸切痕 口縁にスス付着	9−13
4	I 147	土師質土器	焼塩壺	Vc層	―	(5.0)	―	在地	17ｃ後〜18ｃ前	ロクロ調整 底部：左回転糸切痕、周縁部ナデ　外面：斜格子目状の叩き	9−14

図版番号	登録番号	種　類	器　種	遺構・層位	法　量(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	備　考	写真番号
5	P 4	土製品	人形	II層	3.7	3.4	1.2	10.1	型押し人形　天神	9−15

図版番号	登録番号	種　類	遺構・層位	文　様	長さ(cm)	瓦当部(cm) 幅	高さ	内区幅	内区高	重さ (kg)	備　考	写真番号
6	H 6	滴水瓦	導水	剣花菱文	―	―	―	―	0.6	0.19		9−16

図版番号	登録番号	種　類	遺構・層位	文　様	長さ(cm)	瓦当部(cm) 直径	内区径	周縁部幅	周縁高	重さ (kg)	備　考	写真番号
7	F 8	軒丸瓦	表採	縦三引両文	―	15.4	12.0	1.5	0.5	0.78		9−17

第 36 図　第３次調査出土遺物（２）・表面採集遺物

石製品

S 160 より砥石が１点出土した。

その他の遺物

中世以前の遺物が４点出土したが、全てⅠ・Ⅱ層や撹乱からである。内訳は土師器３点、中世陶器１点で、土師器は小破片のため時期は不明であるが、中世陶器は常滑で小破片のため器種は不明である。

（注８、９）松本秀明氏による。
（注 10）藤澤　敦氏による。
（注 11）鈴木裕子氏による。

第４節　表面採集遺物

追廻地区の南西側にあるテニスコートの脇で追廻地区の住民の方が採集した瓦である（第 36 図７）。種別は軒丸瓦で、文様は縦三引両文である。

トレンチ	遺構番号	検出層位	内容	規模（m）（長軸×短軸×深さ）
1-1T	S1	Ⅰ層下	土坑	(5.8)×(2.0)×(1.0)
	S3	Ⅲ層	土坑	(5.7)×(2.0)×(0.3)
	S4	Ⅸ層	土坑	(1.8)×(1.2)×(0.6)
1-2T	S7	Ⅳ層	礫群	8.0× － × －
	S9	Ⅴc層	土坑	(0.8)× － ×(0.5)
1-3T	S2	Ⅴ層	土坑	(12.0)×(3.8)×(0.6)
	S5	Ⅵ層	土坑	(13.2)×(3.8)×(0.5)
	S6	Ⅲ層	土坑	(1.0)× － ×(0.2)
	S8	Ⅳb層	焼面	0.6 × 0.4 × －
	P1	Ⅵ層	ピット	0.6 ×(0.4)×(0.3)
	P2	Ⅱ層	柱穴	0.3 ×(0.2)×(0.3)
	P3	Ⅲ層	柱穴	0.3 ×(0.2)×(0.5)
	P4	Ⅲ層	ピット	(0.3)× － ×(0.3)
	P5	Ⅲ層	ピット	(0.4)× － ×(0.3)
	P6	Ⅲ層	柱穴	(0.3)× － ×(0.5)
	P7	Ⅲ層	柱穴	0.3 × 0.3 × －
	P8	Ⅲ層	ピット	0.4 ×(0.3)× －
	P9	Ⅲ層	ピット	0.4 × 0.3 × －
	P10	Ⅲ層	ピット	0.4 × 0.0 × －
	P11	Ⅲ層	ピット	0.4 × 0.3 × －
	P12	Ⅲ層	ピット	(0.3)×(0.3)× －
	P13	Ⅲ層	ピット	(0.3)× 0.3 × －
	P14	Ⅲ層	ピット	(0.4)× 0.4 × －
	P15	Ⅸ層	ピット	0.4 × 0.4 × －
2-1T	S10	Ⅱa層	土坑	0.8 ×(0.7)× 0.7
	S11	Ⅱa層	土坑	(1.8)×(0.4)× 0.6
	S12	Ⅱa層	硬化面	(1.8)×(0.8)× －
	S13	Ⅱa層	硬化面	(1.8)×(1.3)× －
	S14	Ⅱa層	硬化面	(3.6)× 3.2 × －
	S15	Ⅱa層	硬化面	(1.3)× 1.2 × －
	S16	Ⅱa層	硬化面	(2.3)×(1.1)× －
	S17	Ⅶa層	土坑	(2.6)×(0.4)× －
	S18	Ⅶ層	土坑	2.0 ×(0.6)× 0.7
	S19	Ⅶ層	池跡	(2.2)×(1.6)× 0.5
	S20	Ⅵ層	土坑	1.7 × 1.1 × －
	S21	Ⅵ層	土坑	0.5×(0.5)×(0.1)
	S22	Ⅵ層	土坑	0.9 × 0.5 × －
	S23	Ⅵ層	土坑	1.2 × 0.4 × －
	S24	Ⅴa層	土坑	0.9 × 0.6 × －
	S25	Ⅴa層	土坑	0.3 × 0.1 × －
	S26	Ⅴa層	土坑	0.4 × 0.4 × －
	S27	Ⅴa層	土坑	0.7 × 0.5 × －
	S28	Ⅴa層	土坑	(1.3)× 0.9 ×(0.2)
	S29	Ⅴa層	土坑	0.5 × 0.5 × －
	S30	Ⅴa層	土坑	0.8 × 0.7 × －
	S31	Ⅵ層	土坑	1.3 × － ×(0.2)
	S32	Ⅶ層	土坑	0.8 × 0.4 × －
	S33	Ⅶa層	土坑	0.5 × 0.4 × －
	S34	Ⅶa層	土坑	0.7 × 0.4 × －
	S35	Ⅶ層	土坑	0.7 × 0.4 × －
	S36	ⅩⅠ層	土坑	(4.2)×(1.5)× 0.3
	S37	ⅩⅠ層	土坑	(0.9)×(0.7)×(0.5)
	S38	ⅩⅠ層	土坑	0.3 × － ×(0.3)
	S39	Ⅹ層	土坑	0.8 × 0.4 × －
	S40	Ⅱb層	土坑	0.5 × － ×(0.7)
	S41	Ⅲa層	土坑	1.3 × － ×(0.3)
	P16	Ⅴa層	ピット	0.3 × 0.2 × －
	P17	Ⅴa層	ピット	0.3 × 0.3 × －
	P18	Ⅴa層	ピット	0.3 × 0.2 × －
	P19	Ⅴa層	ピット	0.2× 0.1 × －
	P20	Ⅴa層	ピット	0.3 × 0.2 × －
	P21	Ⅴa層	ピット	0.2 × 0.2 × －
	P22	Ⅴa層	ピット	0.3 × 0.2 × －
	P23	Ⅴa層	ピット	0.3 × 0.3 × －
	P26	Ⅴa層	ピット	0.1 × － ×(0.2)
2-2T	S42	Ⅱa層	硬化面	(3.2)×(1.6)× －
	S43	Ⅱa層	建物跡	(2.5)×(2.5)× －
	S44	Ⅱb層	溝跡	(9.5)× 1.5 × 0.1
	S45	Ⅱb層	溝跡	(3.8)× 0.9 × 0.2
	S46	Ⅱb層	溝跡	(3.8)× 0.6 × 0.2
	S47	Ⅱb層	土坑	0.7 ×(0.3)× 0.5
	S48	Ⅸ層	土坑	0.3 ×(0.3)× －
	S49	Ⅸ層	土坑	(0.6)×(0.2)× －
	S50	Ⅸ層	土坑	0.5 ×(0.2)× －
	S51	Ⅵ層	土坑	(2.0)×(2.0)× 0.9
	S52	Ⅵ層	土坑	1.4 ×(0.5)× 0.3
	S53	Ⅵ層	土坑	3.0 ×(0.5)× 0.5
	S54	Ⅶ層	土坑	0.9 ×(0.4)× －

トレンチ	遺構番号	検出層位	内容	規模（m）（長軸×短軸×深さ）
2-2T	S55	Ⅵ層	井戸	(1.0)×(0.6)× 0.6
	S132	Ⅲ層	土坑	(0.5)×(0.4)×(0.5)
	S133	Ⅱb層	土坑	(0.5)× － ×(0.1)
	S134	Ⅱb層	土坑	(1.0)× － ×(0.1)
	S135	Ⅱb層	土坑	(0.3)× － ×(0.6)
	S136	Ⅳ層	土坑	(0.4)× － ×(0.5)
	S137	Ⅱb層	土坑	0.6 × － ×(0.2)
	S138	Ⅳ層	土坑	(0.5)× － ×(0.3)
	S139	Ⅳ層	土坑	(0.3)× － ×(0.2)
	P27	Ⅲ層	ピット	0.3 × － ×(0.2)
	P28	Ⅲ層	ピット	0.2 × － ×(0.2)
	P29	Ⅳ層	ピット	0.1 × － ×(0.2)
	P30	Ⅶ層	ピット	0.2 × － ×(0.2)
2-3T	S56	ⅡorⅢ層	土坑	0.6 × 0.6 × －
	S57	ⅡorⅢ層	土坑	0.5 × 0.4 × －
	S58	ⅡorⅢ層	土坑	0.6 × 0.4 × －
	S59	ⅡorⅢ層	土坑	0.5 × 0.5 × －
	S60	ⅡorⅢ層	土坑	0.6 × 0.4 × －
	S61	ⅡorⅢ層	土坑	0.7 × 0.4 × －
	S62	ⅡorⅢ層	石組溝跡	(6.0)× 0.9 × 0.2
	S63	ⅡorⅢ層	石組遺構	(2.7)×(0.4)× －
	S64	ⅡorⅢ層	石組遺構	(1.5)×(0.4)× －
	S65	ⅡorⅢ層	石組遺構	(0.6)×(0.5)× －
	S66	ⅡorⅢ層	石組遺構	(0.8)×(0.3)× －
	S67	ⅡorⅢ層	石組遺構	(1.7)×(0.4)× －
	S68	Ⅵ層	土坑	1.7 ×(0.6)×(0.4)
	S69	Ⅵ層	土坑	0.8 ×(0.5)× －
	S140	Ⅲc層	土坑	0.4 × － ×(0.6)
	S141	Ⅲa層	土坑	0.7 × － ×(0.1)
	S142	Ⅴb層	土坑	0.6 × － ×(0.2)
	S143	Ⅴb層	土坑	(0.6)×(0.5)×(0.1)
	S144	Ⅴc層	土坑	0.2 × － ×(0.2)
	S145	Ⅵ層	土坑	1.7 ×(0.6)×(0.3)
2-4T	S70	Ⅱ層	柱穴	0.6 ×(0.5)× 0.2
	S71	Ⅱ層	柱穴	0.7 ×(0.4)× 0.2
	S72	Ⅱ層	柱穴	0.7 ×(0.4)×0.2
	S73	Ⅱ層	柱穴	0.7 ×(0.4)× 0.2
	S74	Ⅴ層	石敷遺構	(3.9)×(2.0)×(0.1)
	S75	Ⅸb層	土坑	0.3 × － × －
	S76	Ⅸb層	土坑	0.3 × － × －
	S77	Ⅲ層	土坑	0.3 × － ×(0.3)
	S78	Ⅶa層	炭化物層	(2.5)×(1.8)× －
	S79	Ⅸb層	土坑	0.5 ×(0.3)× －
	S80	Ⅸb層	土坑	0.9 ×(0.4)× 0.2
	S81	Ⅸb層	土坑	(0.5)×(0.3)× －
	S82	Ⅸb層	土坑	(0.5)×(0.4)× －
	S83	Ⅸb層	土坑	(0.6)×(0.1)× －
	S84	Ⅸb層	土坑	(0.7)× － ×(0.5)
	S85	Ⅶc層	土坑	(0.5)× － ×(0.5)
	S146	Ⅲ層	土坑	(1.6)× － ×(0.2)
	S147	Ⅲ層	土坑	(0.9)× － ×(0.2)
	S148	Ⅲ層	土坑	(0.2)× － ×(0.2)
	P31	Ⅲ層	ピット	(0.2)×(0.2)×(0.1)
2-5T	S86	Ⅱa層	礎石	(1.7)×(1.3)× －
	S87	Ⅱa層	土坑	1.1 × 0.7 ×(0.5)
	S88-1	Ⅱb層	溝跡	(5.2)× 0.3 ×(0.2)
	S88-2	Ⅱb層	溝跡	(6.9)× 0.3 ×(0.3)
	S88-3	Ⅱb層	溝跡	(5.5)×(0.4)×(0.3)
	S89	Ⅱb層	溝跡	(1.8)×(0.2)×(0.1)
	S90	Ⅱb層	土坑	(0.7)×(0.4)×(0.2)
	S91	Ⅱb層	土坑	0.6 ×(0.6)× －
	S92	Ⅱb層	土坑	0.5 × 0.5 × －
	S93	Ⅲa層	土坑	(1.0)×(0.4)×(0.4)
	S94	Ⅲa層	土坑	(1.4)× 0.8 × －
	S95	Ⅲa層	土坑	(1.8)×(0.9)×(0.1)
	S96	Ⅲa層	土坑	(1.2)×(0.9)× －
	S97	Ⅲa層	土坑	(1.2)×(0.9)× －
	S98	Ⅲa層	土坑	1.8 ×(0.3)×(0.8)
	S99	Ⅲa層	溝跡	(4.0)×(0.6)×(0.3)
	S100	Ⅲa層	柱穴	(0.5)× － ×(0.4)
	S101	Ⅳ層	柱穴	0.4 ×(0.3)×(0.2)
	S102	Ⅳ層	柱穴	0.5 ×(0.4)×(0.3)
	S103	Ⅳ層	柱穴	0.7 ×(0.4)×(0.3)
	S149	Ⅲa層	土坑	(1.5)×(0.6)×(0.3)
	P32	Ⅱb層	ピット	0.3 ×(0.2)×(0.1)
	P33	Ⅱa層	ピット	0.2 × 0.2 × －
	P34	Ⅱb層	ピット	0.5 × 0.2 × －
	P35	Ⅱb層	ピット	0.2 × 0.2 ×(0.2)

トレンチ	遺構番号	検出層位	内容	規模（m）（長軸×短軸×深さ）
2-5T	P36	Ⅱb層	ピット	0.5 × 0.4 ×(0.2)
	P37	Ⅱa層	ピット	0.3 × 0.2 × －
	P38	Ⅱa層	ピット	0.2 ×(0.2)× －
2-6T	S104	Ⅱ層	(撹乱)	－ × － × －
	S105	Ⅱ層	土坑	(1.9)×(1.4)× －
	S106	Ⅱ層	土坑	(1.7)×(1.4)× 0.3
	S107	Ⅱ層	土坑	1.3 ×(0.9)× 0.6
	S108	Ⅱ層	土坑	2.3 × 0.6 × －
	S109-1	Ⅱ層	溝跡	2.5 × 0.2 × －
	S109-2	Ⅱ層	溝跡	(2.1)× 0.2 × －
	S110-1	Ⅱ層	溝跡	(2.9)× 0.2 ×(0.1)
	S110-2	Ⅱ層	溝跡	(5.4)× 0.2 ×(0.2)
	S110-3	Ⅱ層	溝跡	(5.3)× 0.2 ×(0.2)
	S111	Ⅱ層	土坑	1.0 ×(0.6)× －
	S112	Ⅱ層	土坑	1.0 × 0.8 × －
	S113	Ⅱ層	柱穴	0.5 ×(0.5)× －
	S114	Ⅱ層	柱穴	0.5 ×(0.5)× －
	S115	Ⅱ層	柱穴	0.6 × 0.6 × 0.4
	S116	Ⅱ層	柱穴	0.3 ×(0.3)×(0.3)
	S150	Ⅱ層	土坑	(0.9)× － ×(0.2)
	S151	Ⅳ層	土坑	(0.6)× － ×(0.4)
	S152	Ⅱ層	土坑	(0.6)× － ×(0.3)
	S153	Ⅳ層	土坑	(0.3)× － ×(0.4)
	S154	Ⅵa層	土坑	(0.4)×(0.3)×(0.1)
	S155	Ⅱ層	土坑	(0.3)× － ×(0.1)
	S156	Ⅶ層	土坑	0.3 × 0.3 × －
	P39	Ⅲ層	ピット	0.1 × － ×(0.2)
	P40	Ⅳ層	ピット	0.2 × － ×(0.2)
	P41	Ⅳ層	ピット	0.3 × － ×(0.6)
	P42	Ⅵa層	ピット	0.2 × － ×(0.2)
2-7T	S117	Ⅱ層	土坑	0.5 ×(0.3)× 0.2
	S118	Ⅱ層	溝跡	(4.0)× 0.5 × 0.5
	S119	Ⅱ層	土坑	(1.5)×(1.5)× －
	S120	Ⅶa層	土坑	1.7 × 0.8 × －
	S121	Ⅶa層	土坑	(2.1)×(1.0)× 0.3
	S122	Ⅶa層	土坑	(0.9)×(0.9)× 0.1
	S123	Ⅴ層	土坑	0.3 ×(0.2)× －
	S124	Ⅴ層	土坑	(0.6)×(0.5)×(0.6)
	S125	Ⅴ層	土坑	0.8 ×(0.2)× 0.2
	S126	Ⅵ層	土坑	(2.3)×(1.1)×(0.4)
	S127	Ⅱ層	土坑	0.6×(0.5)× －
	S128	Ⅱ層	土坑	0.7 × － ×(0.2)
	S129	Ⅵ層	柱穴	0.7 × － ×(0.4)
	S130	Ⅵ層	土坑	0.5 × － ×(0.2)
	S131	Ⅵ層	土坑	(0.3)×(0.2)×(0.2)
	P24	Ⅱ層	ピット	0.4 × 0.3 × －
	P25	Ⅱ層	ピット	0.4 × 0.3 × －
3-1T	導水	Ⅱ層	導水トンネル	(7.2)×(3.8)×(1.5)
	S157	Ⅰf層	石組遺構	(3.8)× 0.7 × 0.4
	S158a	Ⅲa層	石組遺構	1.6 ×(1.3)×(1.2)
	S158b	Ⅲa層	石組遺構	(1.2)×(1.3)×(1.3)
	S159	Ⅴb層	土坑	1.1 ×(0.8)×(0.7)
	S160	Ⅴa層	溝跡	(2.3)×(0.4)×(0.5)
	S161	Ⅴa層	土坑	0.7 × 0.9 × 0.5
	S162	Ⅴb層	土坑	1.2 ×(0.4)×(0.4)
	S163	Ⅳ層中	整地層	(0.3)×(0.3)×(0.4)
	S164	Ⅳa層中	土坑	0.7 × 0.6 ×(0.3)
	S165	Ⅳa1層	石敷遺構	(3.4)×(1.4)×(0.2)
	S166	Ⅳa4層	石敷遺構	(1.2)×(1.1)×(0.1)
	S167	Ⅳa層中	石組遺構	(2.3)×(1.7)× －
	S168	Ⅳa1層	石組遺構	0.9 × 0.9 × 0.7
	S169	Ⅳa層中	土坑	0.7 × 0.7 × －
	S170	Ⅳa層中	土坑	1.0 × 0.7 × －
	S171	Ⅳb1層中	土坑	0.9 × － ×(0.4)
	S172	Ⅳb1層	土坑	0.9 × － ×(0.1)
	S173	Ⅳb1層	土坑	0.60× － ×(0.4)
	S174	Ⅳ層	土坑	(0.3)×(0.3)×(0.4)
	S175	Ⅴ層中	石組遺構	(9.1)×(1.8)× 0.4
	S176	Ⅴ層中	礫群	(2.5)×(1.0)× 0.4
	S177	Ⅴ層中	礫群	(0.80×(0.8)×(0.5)
	S178	Ⅴ層中	石組遺構	(2.4)× 0.5 ×(0.6)
	S179	Ⅴa層	石組遺構	(2.4)× 0.4 ×(0.4)
	S180	Ⅴ層中	石組遺構	(1.0)× 0.7 × 0.7
	S181	Ⅶf層	土坑	0.9 × － ×(0.60
	S182	Ⅶf層	土坑	0.5 × － ×(0.4)
	S183	Ⅶe層	土坑	2.2 × － ×(0.8)
	S184	Ⅶa層	土坑	(1.5)× － ×(0.4)
	S185	Ⅶb層	土坑	(2.5)× － ×(0.3)

※　計測値の（　　）は、長さについては検出最大長、深さについては検出面からの深さである。

第１表　検出遺構一覧表

陶磁器類・土師質土器・瓦質土器・土製品

トレンチ	層位・遺構	近世																										近現代		時期不明							
		磁器(産地)						陶器（産地）																		軟質施釉陶器											
		肥前	波佐見	瀬戸美濃	切込	中国	産地不明	肥前	波佐見	唐津	現川	瀬戸美濃	瀬戸	美濃	志野	大堀相馬	小野相馬	志戸呂	京・信楽	備前	丹波	常滑	九州系	岸	堤	産地不明	堤	産地不明	磁器	陶器	磁器	陶器	軟質施釉陶器	土師質土器	瓦質土器	土製品	レンガ	その他
1-1T	撹乱																												7					1	4			
	Ⅰ層	1																							1				10	2				1	12			
	Ⅱ層																												7						1			
	Ⅲ層																													1				1				
	S 1	1																											1	1				1				2
	S 3						1							1															1									
1-2T	撹乱									1				1											1	1			15	1				1	2			
	サブトレ													1							1																	
	Ⅰ層																												1						1			
	Ⅱ層														1	2																		1	3			
	Ⅲ層	1																																				
	Ⅳ層																																	2				
	Ⅴ層													1																1				1	4			
	Ⅵ層																												1									
	Ⅷ層																																	2				
1-3T	撹乱																								1				3					3				
	Ⅰ層							1									1													1					1			
	Ⅱ層	2																											2	1								
	Ⅲ層	2														1																						
	Ⅳ層	9											1			1	1		1						2										2			
	Ⅸ層	2														3																		1				
	S 2	3								1						1									1									1				
	S 5	5		1		1		1		1				1		3									1	1								2				
1次調査小計		26	0	1	0	1	1	2	0	3	0	0	1	5	1	11	2	0	1	0	1	0	0	0	6	3	0	0	48	8	0	0	0	18	30	0	0	2
2-1T	撹乱	7													1									2		1			38	18				46	12		2	8
	Ⅰ層	1								1		1			1														21	4				5	9		1	4
	Ⅱ層	11				2	1	3				3		1	1									1					3					12	1			2
	Ⅲ層																																	3				
	Ⅴ層	1						1				1									1					1				1				11	2			
	Ⅵ層											1		1																				2				
	Ⅶ層	4												2																				8				
	Ⅸ層	3	1																																			
	S 10	1																												3								2
	S 18													1																				2				
	S 19	9		1				1		2		1		4	1											4								20	2			
	S 36	3				2									1														2					7	3		1	
	S 37													1																1				1				
2-2T	撹乱	13						1	1			1		1		6	2							1			1		44	11		3		12	9		1	
	Ⅰ層	5						3				1				3										1			151	20				9	11		2	7
	Ⅱ層	19		1			1	1	1							1	4							1	2	8		3	16	3		1		4	3	1	1	
	Ⅳ層	10						5	1			4			1	12	3								3	4			7	1	1	2		16	6	1		
	Ⅶ層	2	1													1																						
	S44	7						1								2													1	2								
	S46											1				1																						
	S52	3						1								1	1		1							1									4			
	S53	1														2										1								1	2			
	S55	3														3	1									1								1	3			
2-3T	撹乱																													1				1	1			
	Ⅰ層	18	4					6	1		1	1	1	2		3								1		1			26	3		1		6	1	1	1	
	Ⅱ層																												1									
	Ⅲ層	27	3					10		2		2		5		3			1					3		1			2					20				
	Ⅳ層	5						5						1		1							1	1		1								4				
	Ⅴ層	7	1					2					2	1		1	1							1										3	1			
	S 62																																	1				
	S 63	1																																				
	S 66							1																														
	S 68	4	1					2																1										8				
	S 69	1																								1								1				
2-4T	撹乱	11		4			2	2		2				1		10	2		2						2	3	2		22	5	1			7	2			1
	Ⅰ層	38		1			1	3		3				1	2	10	2			1				2	3	1			43	16	1	2	1	22	8	1		
	Ⅱ層	1		1																																		
	Ⅳ層	14								2				2	1	6								1		4			1			1		4	2			
	Ⅷ層	1					1							1		1										1									1			
	S 76	1														1													2	1							1	
2-5T	Ⅰ層	1																											2	2					3			
	Ⅱ層	1																																				
2-6T	撹乱	3		1				1		1				1		2													12	2				4		1	1	1
	Ⅰ層								1	1						1	1								2				18	10				7	3			1
	Ⅱ層								1															1										1				
	Ⅲ層		1					1																											1			
	Ⅴ層																																	1				
	Ⅵ層																																		1			
	S 106	1															1							1		1								1	1			
	S 107	1						1	1	1																												
2-7T	Ⅰ層																												4	3				1				
	Ⅳ層							1																														
	Ⅵ層	2																													1			1				
	Ⅶ層															1																						
2次調査小計		241	12	9	0	4	6	52	7	15	1	17	3	26	9	72	18	0	4	1	1	0	1	17	12	36	3	3	416	107	4	10	1	253	92	5	11	26
3-1T	一括	1	1					1						1		1										1	1		4	3				2	1			1
	撹乱	19	1	2				2				1		1		2					1	1		1	4	6	1		25	2		1		5	9			8
	導水	19	4	2				3	1	1		1	1	2		9	2							1	1	4		1		2		1		7	2			
	北側サブ													1															1									
	南側サブ	1											1	1	1	1																		1				
	Ⅰ・Ⅱ層	1														1	1								2										2			
	Ⅰ層	12	3	1	2			1								5	1							4		1			51	6				8				
	Ⅱ層	57	5	8	4	1	1	4	1	1		7				33	11	1	1	1		1		4	6	8	3	1	70	15				10	5	2		
	Ⅲ層	2																																				
	Ⅳ層	8						2								4	1							1		2								1		1		
	Ⅴ層	14						1																		2								83				
	Ⅵ層	1																																				
	S 157	22	4	2				1				2		2		15	1			1					1	4	1		3					3	1			
	S 159	6					1	1								4										1	1		1			2		1	1	1		
	S 160	3														2										2								6				
	S 163															5	1																					
	S 165															1										1												
	S 166	1														3																			1			
	S 167	1														1	1																	1				
	S 168	1																																				
	S 171	1																																				
	S 178																								1	1												
	S 180	2																								1												
3次調査小計		172	18	15	6	1	2	16	2	2	0	11	2	8	1	87	19	1	1	2	1	2	0	11	15	34	7	2	155	28	0	4	0	128	22	4	0	9
合計		439	30	25	6	6	9	70	9	20	1	28	6	39	11	170	39	1	6	3	3	2	1	28	33	73	10	5	619	143	4	14	1	399	144	9	11	37

第２表　出土遺物集計表（１）

瓦 類

トレンチ	層位・遺構	丸瓦	平瓦	軒丸	軒平	滴水	軒桟	桟瓦	板瓦	伏間	飾り	不明
1-1T	撹乱	3										
	Ⅰ層	7	28									
	Ⅱ層	2	3									2
	Ⅲ層		1									
	S1	2	6									
	S3	1	3							1		1
1-2T	撹乱	11	31	1				1				3
	Ⅰ層	6	62		1			2				1
	Ⅱ層	29	30							1		9
	Ⅲ層	9	5									
	Ⅳ層	10	30									10
	Ⅴ層	2	6									
	Ⅵ層		1									
	Ⅷ層	3	10									
1-3T	一括		2									1
	撹乱	2	21									2
	Ⅰ層	8	4									1
	Ⅱ層	13	32		1			1				6
	Ⅲ層	12	12	1	1							8
	Ⅳ層	30	40	1						2		2
	Ⅸ層		2									
	S2	11	37	2				1				16
	S5	11	38	3			1	3	1	2		4
1次調査小計		172	404	8	3	0	1	8	1	6	0	66
2-1T	撹乱	19	88					1			1	9
	Ⅰ層	9	53	1								
	Ⅱ層	2	20									8
	Ⅲ層	1	9	1								
	Ⅴ層	14	68									21
	Ⅵ層		3									1
	Ⅶ層	5	15					1				2
	Ⅸ層		6									
	S10	1	12									
	S14		2									2
	S18	6	21									3
	S19	5	32					1				24
	S36	1										
	S37		5									
2-2T	撹乱	2	4	1								
	Ⅰ層	1	3									3
	Ⅱ層	2	5									
	Ⅲ層		2									2
	Ⅳ層	1	6									1
	Ⅵ層	1										
	Ⅶ層											1
	S46		1									1
	S52	1	1									2
	S55		1									
2-3T	Ⅰ層	8	14									2
	Ⅲ層	5	22	1								12
	Ⅳ層	7	5					1				6
	Ⅴ層	2	7									
	S62	1						1				
	S66		1									
	S68	1										
	S69	1										
2-4T	撹乱	2	5					2				13
	Ⅰ層	7	17						1	1		19
	Ⅳ層		2									
	Ⅶ層		2									
	S76		4									1
2-5T	Ⅰ層	3	1		1							1
2-6T	撹乱		3									1
	Ⅰ層	3	1									1
	S106		3									
	S107		4									
2-7T	Ⅰ層		2									
	Ⅳ層		2									
	Ⅴ層	4	1									
	Ⅵ層	1	4									
	Ⅶ層	1	4									
	Ⅷ層	4	7									10
	S124		10									
2次調査小計		121	478	4	1	0	0	7	1	1	1	146
3-1T	一括	1	1									
	撹乱	1	2									
	導水	2	2			1						1
	南側サブ		2									
	Ⅰ・Ⅱ層	2							2		1	
	Ⅰ層	1	3									
	Ⅱ層	9	12	2								2
	Ⅳ層		3									
	Ⅴ層	4	1									
	Ⅵ層		1									
	S157	2	3									
	S160		1									
3次調査小計		22	31	2	0	1	0	0	2	0	1	3
追廻地区表採				1								
合　計		315	913	15	4	1	1	15	4	7	2	215

金属製品・石製品・木製品・その他

トレンチ	遺構・層位	金属製品											石製品			木製品		動物遺体
		釘		銭			煙管	飾り金具	銃弾	薬莢	看板近現代	不明	硯	砥石	碁石	漆器	木板	
		近世	近現代	渡来銭	近世	近現代												
1-1T	撹乱					2						1						
	Ⅰ層	1	1						1									
	Ⅱ層																	
	S1	2																
	S3							1				1						
1-2T	撹乱		2			7						4						
	Ⅱ層		10									1						
	Ⅳ層		1									1						
1-3T	撹乱											3						
	Ⅰ層					1						1						
	Ⅱ層					1												
	Ⅳ層												1					
	Ⅶ層	1																
	Ⅸ層											7						
	S2											1						
	S5	2										2						
1次調査小計		6	14	0	0	11	0	1	1	0	0	22	1	0	0	0	0	0
2-1T	撹乱		19				1					9						
	Ⅰ層		3									2						
	Ⅱ層																	1
	Ⅴ層	2										1						
	S10		3														1	
	S19				3		1					1	1		2	2	1	2
	S36																	8
2-2T	撹乱		6				1					7	1					1
	Ⅰ層											12	1					
	Ⅱ層		11									1						
	Ⅳ層		3															
	Ⅶ層	1																
	S44	8																
	S46	8																
	S53	2																
	S55													1				
2-3T	撹乱																1	
	Ⅰ層				1						1	1						
	Ⅲ層				1											1		
	Ⅳ層												1					
	S63															1		
	S68											2						
2-4T	撹乱		1									23						
	Ⅰ層		4			1	1		1			1						1
	Ⅱ層											3						
	Ⅳ層		1															
	S76																	
2-5T	撹乱											2		1				
	Ⅰ層					1											1	
2-6T	撹乱		1															
	Ⅰ層		1									2						
	S106	1																
	S107	5										2						
2-7T	S115											1						
2次調査小計		27	53	0	5	2	4	0	1	0	1	70	4	2	2	4	4	13
3-1T	一括	1																
	撹乱		28									8						
	導水											1						
	Ⅰ層		2						1			3						
	Ⅱ層	1	2	1	4							7						1
	Ⅳ層				2													
	Ⅴ層				1		1					2						
	S157						1			1								
	S160											2		1				
	S163	1																
3次調査小計		3	32	1	7	0	2	0	1	1	0	23	0	1	0	0	0	1
合　計		36	99	1	12	13	6	1	3	1	1	115	5	3	2	4	4	14

中世以前の遺物

トレンチ	遺構・層位	弥生土器	土師器	須恵器	中世陶器			古代瓦	石器	石皿
					常滑	白石窯	不明			
1-2T	撹乱		2							
	Ⅳ層		8							
	Ⅴ層		4							
1-3T	撹乱		1							
	Ⅲ層		1							
1次調査小計		0	16	0	0	0	0	0	0	0
2-1T	Ⅱ層		1							
	Ⅴ層		1							
	XV層	10								1
	S19								1	
2-2T	撹乱		1							
	Ⅱ層		6							
	Ⅲ層		6	2		1	1			
	S53		2							
2-4T	撹乱		1							
2-5T	Ⅴ層		1							
2-6T	撹乱							1		
2次調査小計		10	19	2	0	1	1	1	1	1
3-1T	導水		1							
	Ⅱ層		1		1					
	S157		1							
3次調査小計		0	3	0	1	0	0	0	0	0
合　計		10	38	2	1	1	1	1	1	1

第３表　出土遺物集計表（２）

第３章　理化学分析

はじめに

仙台城追廻地区は仙台城三の丸の外側にあたり、仙台藩の家臣片倉家の屋敷や馬場が置かれたとされる。今回の確認調査では、第１次調査１号トレンチからは火山灰の可能性が指摘される堆積物、第２次調査１号トレンチからは水田跡の可能性が指摘される土層、５号トレンチからは畑耕作跡の可能性が指摘されるＳ 88 溝跡の土壌サンプルが採取されている。

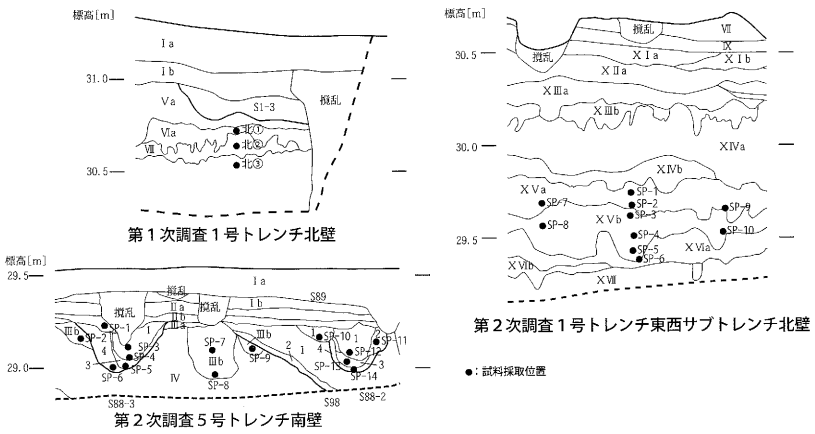
本報告では、１）火山灰の同定、２）水田跡の検証、３）溝跡の用途推定に関する情報を得ることを目的として、テフラ分析、植物珪酸体分析、花粉分析を実施する。

１　試料

テフラ分析に用いる試料は、第１次調査１号トレンチ北壁の東端付近から採取された。採取箇所では、下位よりⅧ層～Ⅰａ層に分層されており、Ⅴａ層を削剥してＳ１の遺構覆土が確認され、上位をⅠｂ層に覆われている。試料採取箇所では、Ⅶ層～Ⅴａ層の各層は、厚さ５～ 10cm で互いの層界はやや不明瞭であるがいずれも波状をなしている。Ⅷ層の下限は確認されていない。Ⅴａ層及びⅥａ層はいずれも暗褐色の土壌であるが、Ⅶ層はにぶい黄褐色を呈するシルト質極細砂である。発掘調査所見では、Ⅶ層は火山灰（テフラ）層で、Ｔｏ－ａ（後述）に由来する可能性があると考えられている。試料は、遺構覆土直下のⅤａ層からⅧ層まで約 30cm の厚さの土壌を幅 10cm 程の柱状にして採取されている。試料には、Ⅵａ層に北①、Ⅶ層に北②、Ⅷ層に北③という試料名が付されており、北②についてテフラ分析を実施する。

植物珪酸体分析に用いる試料は、第１次調査１号トレンチ東西サブトレンチ北壁の中央部付近から採取された。本地点からは弥生時代の遺物が出土している。本地点では下位よりⅩⅦ層～Ⅶ層に分層されており、試料はⅩⅤｂ層、ⅩⅤａ層からＳＰ－１～ＳＰ 10 の 10 点がフィルムケースで採取されている。このうち、ＳＰ－１、４、６の計３点について植物珪酸体分析を実施する。

花粉分析に用いる試料は、第２次調査５号トレンチ南壁から採取された。本地点では畑耕作跡の可能性が指摘される溝跡が検出されている。本地点では下位よりⅤａ層～Ⅰａ層に分層されており、Ⅲａ層以深を削剥して溝遺構覆土が埋積する。試料は、溝覆土のＳ 88 －１の１～４層、Ｓ 88 －２の１～３層、Ｓ 80 の１層、及びⅢｂ層からＳＰ－１～ＳＰ－ 14 の 14 点がフィルムケースで採取されている。このうち、ＳＰ－３、６、８、10、14 の計５点について花粉分析を実施する。各地点の模式断面図及び試料採取位置を第 37 図に示す。



第 37 図　各地点における模式断面と試料採取位置

2　分析方法

（1）テフラ分析

試料約 20 g を蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の 3 タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状及び気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

さらに火山ガラスについては、その屈折率を測定することにより、テフラを特定するための指標とする。屈折率の測定は、古澤（1995）の MAIOT を使用した温度変化法を用いる。

（2）植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム，比重 2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400 倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体 (以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ) を、近藤（2004）の分類に基づいて同定・計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量、検鏡に用いたプレパラートの数や検鏡した面積を正確に計量し、堆積物 1g あたりの植物珪酸体含量（同定した数を堆積物 1g あたりの個数に換算）を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、各分類群の含量は 10 の位で丸め（100 単位にする）、合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている。また、各分類群の植物珪酸体含量から稲作の様態や古植生について検討するために、植物珪酸体含量を図示する。

（3）花粉分析

試料約 10g について、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛，比重 2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸 9：濃硫酸 1 の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400 倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

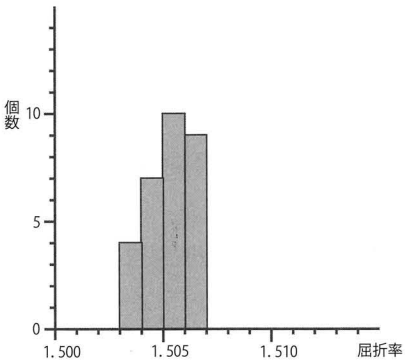
結果は同定・計数結果の一覧表、および花粉化石群集の層位分布図として表示する。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

3　結果

（1）テフラ分析

処理後に得られた砂分には、中量の細砂～極細砂径の火山ガラスと微量の軽石が認められた。火山ガラスのほとんどは無色透明の塊状の軽石型であり、少量の繊維束状のものも混在する。また、微量の無色透明のバブル型や極めて微量の褐色を帯びたバブル型も認められる。軽石は、最大径約 1.2mm、白色を呈し、発泡はやや良好である。

火山ガラスの屈折率測定結果を第 38 図に示す。n1.504 ～ 1.507 のレ



第 38 図　火山ガラス屈折率

ンジに入り、n1.505 ～ 1.506 にモードがある。

（2）植物珪酸体分析

結果を第４表、第 39 図に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪く、表面に多数の小孔（溶食痕）が認められる。

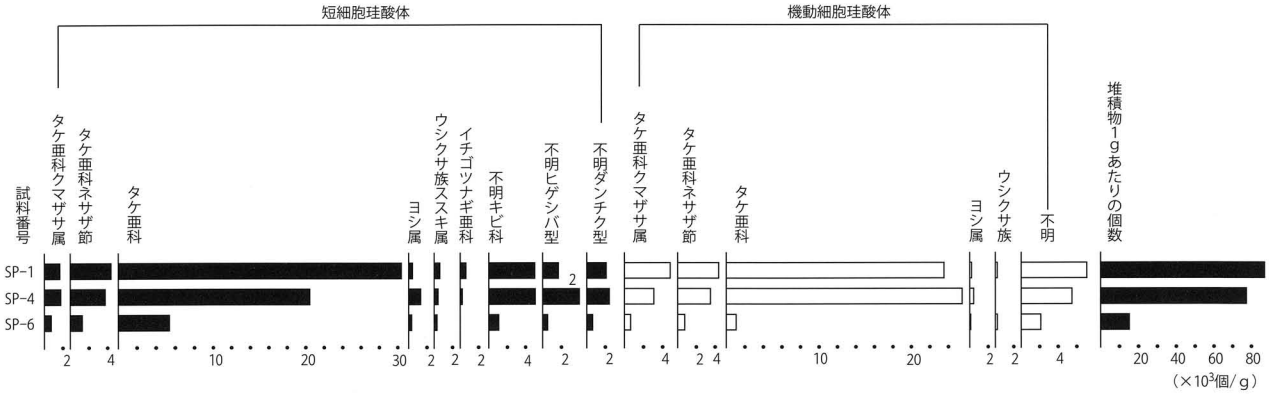
第２次調査１号トレンチ東西サブトレンチ北壁のＳＰ－１、４、６からは、栽培植物のイネ属が全く検出されない。また、各試料では植物珪酸体含量に違いが見られるものの、産状は同様である。すなわち、クマザサ属やネザサ節を含むタケ亜科の産出が目立ち、ヨシ属、ススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科などが認められる。

（個/g）

種　類	第2次調査1号トレンチ東西サブトレンチ北壁		
試料番号	SP-1	SP-4	SP-6
イネ科葉部短細胞珪酸体			
タケ亜科クマザサ属	1,700	1,800	700
タケ亜科ネザサ節	4,400	3,700	1,300
タケ亜科	30,400	20,400	5,400
ヨシ属	400	1,300	300
ウシクサ族ススキ属	600	400	300
イチゴツナギ亜科	600	200	-
不明キビ型	5,000	5,100	1,100
不明ヒゲシバ型	1,700	4,000	500
不明ダンチク型	2,100	2,400	600
イネ科葉身機動細胞珪酸体			
タケ亜科クマザサ属	4,800	3,100	600
タケ亜科ネザサ節	4,400	3,500	700
タケ亜科	23,500	25,500	1,100
ヨシ属	200	400	100
ウシクサ族	200	-	200
不明	7,100	5,500	2,100
合　計			
イネ科葉部短細胞珪酸体	46,800	39,300	10,300
イネ科葉身機動細胞珪酸体	40,200	38,000	4,900
総　計	87,000	77,300	15,100

含量は、10の位で丸めている（100単位にする）
なお、合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている

第４表　植物珪酸体含有量



第 39 図　植物珪酸体含有量　堆積物１ｇあたりに換算した個数を示す。

（3）花粉分析

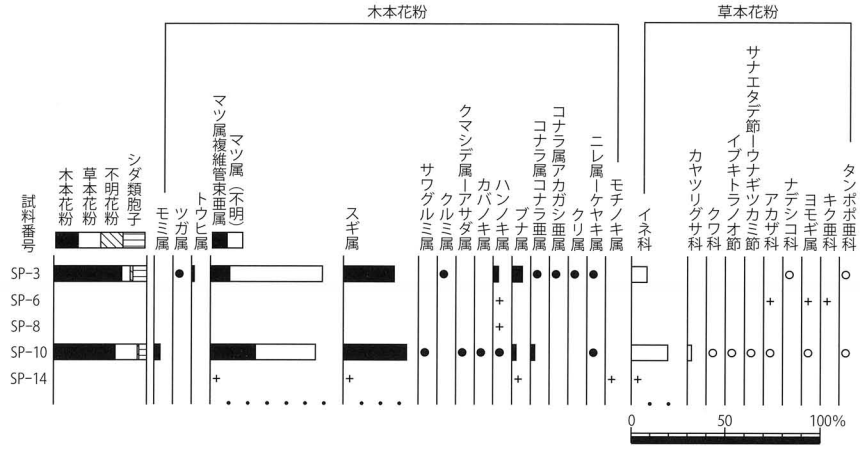
結果を第５表、第 40 図に示す。図表中で複数の種類をハイフォンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。なお、木本花粉総数が 100 個体未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるので、出現した種類を＋で表示するにとどめておく。

全体的に花粉化石の産出状況・保存状態が悪く、第２次調査５号トレンチ南壁のＳＰ－６、８、14 からは定量解析が行えるだけの個体数を得ることが出来なかった。

ＳＰ－３、ＳＰ－ 10 からは花粉化石が産出するものの、保存状態は良好ではなく、花粉外膜が破損・溶解しているものも多く認められた。群集組成はいずれも類似しており、木本花粉が優占し、マツ属とスギ属が多産する。その他ではトウヒ属、ハンノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属等が認められる。草本花粉の中ではイネ科が多く認められ、カヤツリグサ科、アカザ科等を伴う。

種　類	第2次調査5号トレンチ南壁				
試料番号	SP-3	SP-6	SP-8	SP-10	SP-14
木本花粉					
モミ属	-	-	-	7	-
ツガ属	1	-	-	-	-
トウヒ属	2	-	-	-	-
マツ属複維管束亜属	15	-	-	51	-
マツ属（不明）	70	-	-	67	1
スギ属	39	-	-	72	1
サワグルミ属	-	-	-	1	-
クルミ属	1	-	-	-	-
クマシデ属－アサダ属	-	-	-	1	-
カバノキ属	-	-	-	1	-
ハンノキ属	4	1	1	2	-
ブナ属	8	-	-	5	1
コナラ属コナラ亜属	1	-	-	5	-
コナラ属アカガシ亜属	1	-	-	-	-
クリ属	1	-	-	-	-
ニレ属－ケヤキ属	1	-	-	1	-
モチノキ属	-	-	-	-	1
草本花粉					
イネ科	16	-	-	62	1
カヤツリグサ科	-	-	-	7	-
クワ科	-	-	-	1	-
イブキトラノオ節	-	-	-	2	-
サナエタデ節－ウナギツカミ節	-	-	-	1	-
アカザ科	-	2	-	3	-
ナデシコ科	1	-	-	-	-
ヨモギ属	-	1	-	1	-
キク亜科	-	1	-	-	-
タンポポ亜科	1	-	-	1	-
不明花粉	6	-	-	6	-
シダ類胞子					
シダ類胞子	30	7	3	27	5
合　計					
木本花粉	144	1	1	213	4
草本花粉	18	4	0	78	1
不明花粉	6	0	0	6	0
シダ類胞子	30	7	3	27	5
総計（不明を除く）	192	12	4	318	10

第５表　花粉分析結果



第 40 図　花粉化石群集の層位分布

出現率は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉・シダ類胞子は総数より不 明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。なお●○は 1 %未満、＋は木本花粉 100 固体未満の試料について検出した種類を示す。

4　考察

（1）火山灰の同定

試料より検出された細粒の軽石および火山ガラスは、その特徴および仙台城の地理的位置と、これまでに研究された東北地方におけるテフラの産状（町田ほか ,1981,1984;Arai et al.,1986; 町田・新井 ,2003 など）との比較から、十和田ａテフラ（Ｔｏ－ａ）の降下堆積物に由来すると考えられる。Ｔｏ－ａは、平安時代に十和田カルデラから噴出したテフラであり、給源周辺では火砕流堆積物と降下軽石からなるテフラとして、火砕流の及ばなかった地域では軽石質テフラとして、さらに給源から離れた地域では細粒の火山ガラス質テフラとして、東北地方のほぼ全域で確認されている（町田ほか ,1981）。また、その噴出年代については、早川・小山（1998）による詳細な調査によれば、西暦 915 年とされている。なお、町田・新井（2003）に記載されたＴｏ－ａの火山ガラスの屈折率は、n1.496 ～ 1.508 の広いレンジを示す。ただし、n1.502 以下の低い屈折率の火山ガラスを主体とする火山灰層は、南方へは広がらず、十和田周辺とその東方地域に分布が限られるとされている（町田ほか ,1981）。今回検出されたテフラは n1.504 ～ 1.507 のレンジに入ることから、おそらく低屈折率の火山ガラスを含まないＴｏ－ａに相当するものと考えられる。

トレンチ断面におけるⅦ層の堆積状況は、上下の土層との層界がやや不明瞭かつ波状を呈することから、Ｔｏ－ａの降下堆積層が堆積後の土壌化等により撹乱を受けたものであると考えられる。分析処理後に得られた砂分において、火山ガラスや軽石以外のＴｏ－ａには由来しない砕屑物の方が量的には多く含まれていたことも、そのことを示唆している。ただし、Ⅶ層の撹乱は、第１次調査１号トレンチＳ１とされる遺構覆土まで及んでおらず、遺構よりも明らかに下位である。このことから、遺構の構築はＴｏ－ａの降灰以降であるといえる。

（2）水田跡の検証

弥生時代の遺物が出土した第２次調査１号トレンチ東西サブトレンチ北壁ＸＶ層において、調査した土壌試料からイネ属に由来する植物珪酸体が検出されなかった。そのため、今回の産状のみからＸＶ層での稲作の可能性を判断することは難しい。今後さらに、同層位について複数地点でイネ属珪酸体の有無を調べるとともに、花粉分析や種実遺体による調査、土壌の微細構造の観察による耕作痕の確認を含めて検討することが望まれる。

なお、植物珪酸体の産状からクマザサ属やネザサ節を含むタケ亜科、ヨシ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科などのイネ科植物の生育がうかがえる。このうち、ネザサ節やススキ属は開けた草地に生育する種類が多い。また、ヨシ属は湿潤な場所に生育する。そのため、トレンチの周辺には草地や湿潤な場所が存在していたと思われる。

（3）溝跡の用途推定

今回分析した試料は、花粉化石の産出状況の悪い試料が多く認められ、かろうじて産出が認められる試料においても花粉化石の保存状態が悪い。花粉やシダ類胞子の腐蝕に対する抵抗性は種類により異なっており、落葉広葉樹に由来する花粉よりも針葉樹に由来する花粉やシダ類胞子の方が酸化に対する抵抗性が高いとされている（中村,1967; 徳永・山内,1971; 三宅・中越,1998 など）。検出された花粉化石の保存状態を考慮すると、得られた花粉化石群集は経年変化による分解・消失の影響を受けており、分解に強い花粉が選択的に多く残されている可能性がある。このことを考慮した上で、検討を行う。

第 2 次調査 5 号トレンチ南壁に認められた溝跡は、調査所見から畑耕作跡の可能性が指摘されている。しかし、今回分析したいずれの試料においても、栽培に関わる種群は 1 個体も検出されなかった。よって、花粉分析の結果から、栽培植物の検討をすることは難しい。ここで、仙台市内においても多くの遺跡から畑跡が検出されている（佐藤,2000 など）。しかし、畑は好気的環境であるため、直接畑作を示唆する植物化石が検出する事例は少ない。このような場合、同時期の井戸・土坑等の埋積物からの検討も有効である。したがって、本遺跡の栽培植物についても、植物珪酸体分析、土壌の洗出し等を実施し、併せて検討することが望まれる。

周辺の植生を反映する種類についてみると、上述の分解の影響を受けたことを考慮してもマツ属とスギ属の多産が顕著である。多産するマツ属のうち亜属まで同定できたものは、全て複維管束亜属であった。マツ属複維管束亜属（いわゆるニヨウマツ類）は生育の適応範囲が広く、尾根筋や湿地周辺、海岸砂丘上など他の広葉樹の生育に不適な立地にも生育が可能である。また、極端な陽樹であり、やせた裸地などでもよく発芽し生育することから、伐採された土地などに最初に進入する二次林の代表的な種類でもある。一方スギ属は、人工林では山腹斜面下に出現し、水分・養分の供給が十分で、水はけの良い土壌でもっともよく生育するとされている。よって、当時の本遺跡周辺に、マツ属、スギ属の林分が存在したと考えられる。

その他の種類では、トウヒ属、ハンノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属等が認められる。このうちブナ属、コナラ亜属は冷温帯性落葉広葉樹林の主要構成要素であり、ハンノキ属等は河畔や低湿地等の適湿地に林分を形成する種群である。よって、これらのことから、周辺の丘陵部等にはブナ属・コナラ亜属等の落葉広葉樹林と、部分的にトウヒ属等の針葉樹が分布しており、広瀬川沿い等の低湿地にハンノキ属を主体とする林分が形成されていた可能性がある。

本地域周辺の植生変遷については、仙台市史編さん委員会（1994）にまとめられており、それによると丘陵下部では約 7,000 年前以降はコナラとイヌブナが広く多い、排水の良い場所にはアカマツが生育していたと考えられている。約 2,500 年前頃になると平野部でハンノキ林が拡大をはじめ、500 年前以降はアカマツ林や植林と思われるスギ林が優勢となるとされている。今回の結果は、既存の分析結果とも調和的な種類が検出されることから、同様の植生を反映している可能性がある。

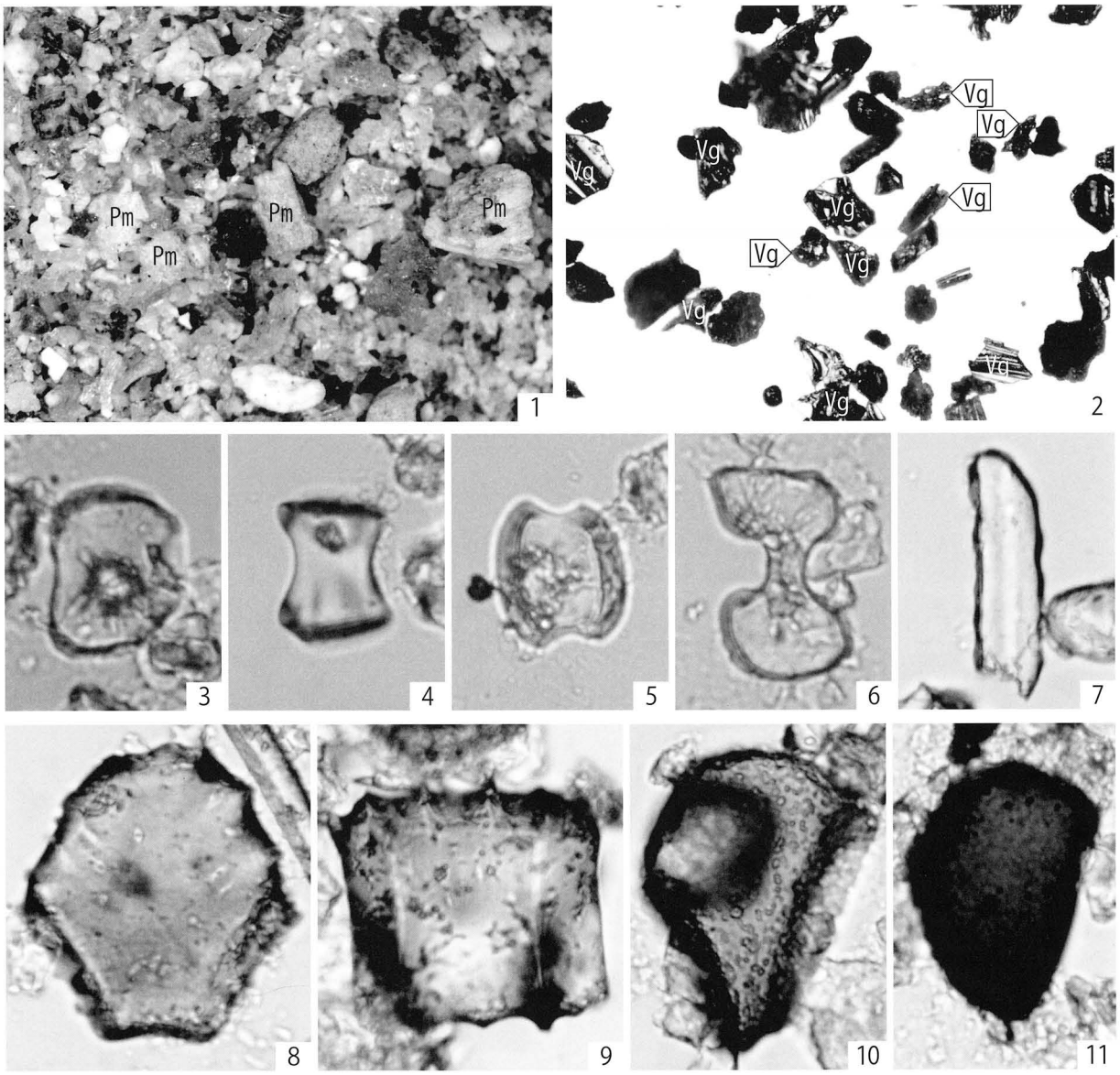
なお、草本類ではイネ科をはじめ、カヤツリグサ科、アカザ科等が認められた。これらは開けた明るい場所を好む「人里植物」を多く含む分類群であり、その他に検出されるいずれの草本類も同様の生育環境を示す。よって、溝周辺には草地が存在し、そこにこれらの草本類が生育していたと推測される。

引用・参考文献

Arai,F.・Machida,H.・Okumura,K.・Miyauchi,T.・Soda,T.・Yamagata,K,「Catalog for late quaternary marker-tephras in Japan Ⅱ－ Tephras occurring in Northeast Honshu and Hokkaido －」『Geographical reports of Tokyo Metropolitan University』 No.21,223 － 250.1986

古澤　明「火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別」『地質学雑誌』

101,123 − 133.1995
早川　由紀夫・小山　真人「日本海をはさんで 10 世紀に相次いで起こった二つの大噴火の年月日－十和田と白頭山－」『火山』43,403 − 407.1998
近藤　錬三「植物ケイ酸体研究」『ペドロジスト』48,46 − 64.2004
町田　洋・新井　房夫『新編　火山灰アトラス』東京大学出版会 ,336p.2003
町田　洋・新井　房夫・森脇　広「日本海を渡ってきたテフラ」『科学』51,562 − 569.1981
町田　洋・新井　房夫・杉原　重夫・小田　静夫・遠藤　邦彦 ,1984,「テフラと日本考古学－考古学研究と関連するテフラのカタログ－」渡辺直経 (編)『古文化財に関する保存科学と人文・自然科学』同朋舎 ,865 − 928.1984
三宅　尚・中越　信和「森林土壌に堆積した花粉・胞子の保存状態」『植生史研究』,6,15 − 30.1998
中村　純『花粉分析』古今書院 ,232p.1967
佐藤　甲二「畑跡の耕作痕に関する問題点と今後の課題－仙台市域の調査事例をとおして－」『日本考古学協会 2000 年度鹿児島大会資料集　第 1 集　はたけの考古学 , 日本考古学協会 2000 年度鹿児島大会実行委員会編』16 − 25.2000
仙台市史編さん委員会『仙台市史　特別編 1　自然』仙台市 ,520p.1994
徳永　重元・山内　輝子『花粉・胞子 . 化石の研究法』共立出版株式会社 ,50 − 73.1971



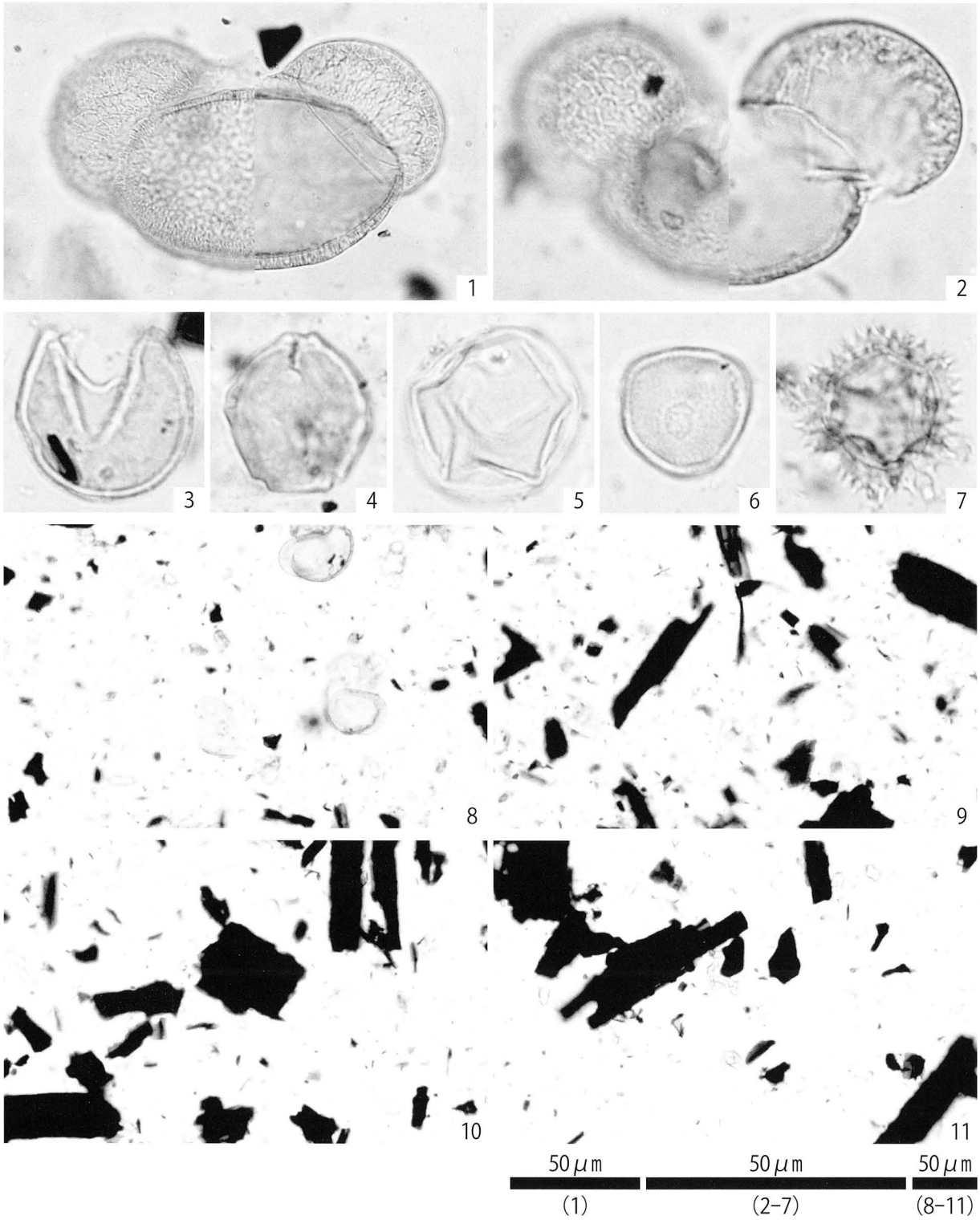
Pm：軽石．Vg：火山ガラス．

1mm　0.5mm　50μm　50μm

(1)　(2)　(3-6)　(7-11)

1．軽石（第1次調査1号トレンチ北壁；北②）
2．火山ガラス（第1次調査1号トレンチ北壁；北②）
3．クマザサ属短細胞珪酸体（第2次調査1号トレンチ東西サブトレンチ北壁；SP-4）
4．ネザサ節短細胞珪酸体（第2次調査1号トレンチ東西サブトレンチ北壁；SP-4）
5．ヨシ属短細胞珪酸体（第2次調査1号トレンチ東西サブトレンチ北壁；SP-4）
6．ススキ属短細胞珪酸体（第2次調査1号トレンチ東西サブトレンチ北壁；SP-4）
7．イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体（第2次調査1号トレンチ東西サブトレンチ北壁；SP-1）
8．クマザサ属機動細胞珪酸体（第2次調査1号トレンチ東西サブトレンチ北壁；SP-6）
9．ネザサ節機動細胞珪酸体（第2次調査1号トレンチ東西サブトレンチ北壁；SP-1）
10．ヨシ属機動細胞珪酸体（第2次調査1号トレンチ東西サブトレンチ北壁；SP-4）
11．ウシクサ族機動細胞珪酸体（第2次調査1号トレンチ東西サブトレンチ北壁；SP-6）

第41図　テフラ・植物珪酸体



1．モミ属（第2次調査5号トレンチ南壁；SP-10）
2．マツ属（第2次調査5号トレンチ南壁；SP-10）
3．スギ属（第2次調査5号トレンチ南壁；SP-10）
4．ハンノキ属（第2次調査5号トレンチ南壁；SP-3）
5．イネ科（第2次調査5号トレンチ南壁；SP-10）
6．カヤツリグサ科（第2次調査5号トレンチ南壁；SP-10）
7．タンポポ亜科（第2次調査5号トレンチ南壁；SP-10）
8．プレパラート内の状況（第2次調査5号トレンチ南壁；SP-3）
9．プレパラート内の状況（第2次調査5号トレンチ南壁；SP-6）
10．プレパラート内の状況（第2次調査5号トレンチ南壁；SP-8）
11．プレパラート内の状況（第2次調査5号トレンチ南壁；SP-14）

第42図　花粉化石

第４章　まとめ

仙台城跡追廻地区の遺構調査は第１次から第３次調査までの３回にわたり、計 11 か所のトレンチを設定し、総面積 727.1 ㎡を対象に行った。そのうち第１・２次調査は追廻地区における主に近世遺構の遺存状況を確認することを目的とし、また第３次調査は地区南東縁辺における護岸石垣の確認を目的として行った。護岸石垣については確認することができなかったが、地区内での河川側縁辺部における遺構の状況を確認することができた。

「仙台城下絵図」（寛文４ [1664] 年）や「安政補正改革絵図」（文久２ [1855] 年）などの絵図によると、本地区は仙台城が造営された江戸時代初期から幕末に至るまで、地区北側が家臣屋敷地、南側が馬場や厩などが配置され、その地割に大きな変化はみられない。今回の調査では近世を中心に複数の整地面と多くの遺構を確認し、また全体的には家臣屋敷地と馬場などの性格が異なる地区により整地状況の違いなどを確認した。以下、地区ごとに確認した主な整地土や遺構についてのまとめとする。

北部（大手筋南側）の状況

この地区は藩政期を通して大身の家臣屋敷が配置されており、延宝５年以降、幕末に至るまで片倉氏の屋敷となっている。「片倉氏仙台屋敷藩主御成図」によると、屋敷建物は敷地西側に位置し、河川に近い東側は庭として利用されている。今回の調査では第１次調査１～３号トレンチ（１－１Ｔ～１－３Ｔ）と、第２次調査１号トレンチ（２－１Ｔ）がこの付近にあたるとみられる。

確認した遺構は自然の窪地かあるいは人為的掘り込みかは不明であるが、河川側に向かい傾斜する複数の大型の落ち込みの存在が想定される。２－１Ｔでは南側に傾斜する落ち込みを確認し、その傾斜を利用して構築されたとみられる石組みを伴う池跡（Ｓ 19）を確認した。調査範囲が狭いため、池跡の構造や規模についての詳細は不明だが、池跡は屋敷地の南側に位置するとみられ、絵図によるとそこには池が確認できることから、確認した池跡は片倉屋敷内における池の可能性がある。また池跡（Ｓ 19）の上層には炭化物を多量に含む層が認められているが、屋敷は弘化３（1846）年９月に焼失した記録があることから、池跡（Ｓ 19）はこの時期に埋没した可能性が考えられる。

中央部の状況

「仙台城下絵図」（寛文４ [1664] 年）などによると、地区中央部付近には西側の巽門より追廻への通路が存在し、この通路北側には家臣屋敷地、南側には馬場や厩などが配置されていたことがわかる。今回の調査では第２次調査の２～７トレンチ（２－２Ｔ～２－７Ｔ）がこの位置にあたる。地区の整地状況をみると、中央部付近に位置する２－３Ｔと２－４Ｔでは１ｍ前後の厚さの整地層がみられる一方、河川に最も近い２－５Ｔでは厚さが約 0.3 ｍと薄くなっている。これは後世の改変等の影響も考えられるが、同地区内においても施設の違いにより整地等の普請の程度を変えていたものと推測される。

確認した遺構のうち、溝跡、石敷遺構、石組遺構、柱穴列の方向は、ほぼ真北もしくは東西方向を基準に造られている。これらについては遺構確認範囲が広く、かつ検出面も異なるものも多いが、絵図に記されている施設や区画の方向に概ね沿ったものとなっている。

２－２Ｔで確認したＳ 45 とＳ 46 の溝跡は、同一面上で近接して平行に並んでおり、Ｓ 45 は暗渠として利用され、Ｓ 46 は木樋を伴うもので、これらは建物やその近辺にある付属施設の可能性が考えられることから、付近に建物跡の存在が推測される。２－３Ｔで確認したＳ 62 はほぼ真北方向の石組溝跡で、これと平行するＳ 63・64 石組遺構や、直行するＳ 65・66 石組遺構との配置関係から、屋敷内の地割となる何らかの施設として機能したとみられる。２－４ＴのＳ 74 は下層での確認で規模は不明であるが、東西方向に延びる石敷の遺構と推定される。同ト

Ｓ 114・Ｓ 115 があり、これらの方向はほぼ北である。今回の調査では各々の遺構の年代を明らかにするには至ってないが、地区の地割に大きな変化がみられないことから、当時の施設の配置関係を示している可能性がある。

南部の状況と護岸石垣について

護岸石垣については、第二師団設置に伴う追廻地区の大規模な改変に伴い、現在では確認することができない。第３次調査（３－１Ｔ）地点においては、石垣が想定される位置にトレンチを設定したにもかかわらず、その存在を連想させる構造物などは全く確認できず、石組遺構や度重なる整地土などを数多く確認している。

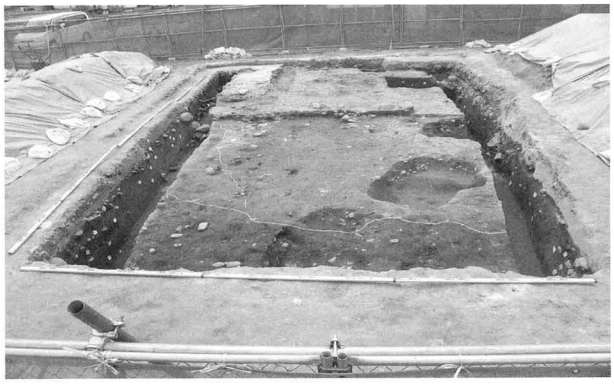
第３次調査で確認した近世遺構の中で最も新しい遺構は、Ｓ 165 とＳ 166 により構成される版築状の整地土とみられる。トレンチ西端の整地層が第２次調査６Ｔや７Ｔのものと同一層とみられることから、版築状整地土の構築範囲はこの地区に限られたものと推定される。また整地土が傾斜した南側部分には石組溝と石敷きによる石組遺構（Ｓ 167）があり、これら両遺構は一体的構造をもった何かしらの遺構の可能性がある。

石組み列によるＳ 175 については溝跡か、あるいは石列の北側を高位部とする段差部分に構築された石積みの可能性がある。またその東端では同じく石組み構造をもつＳ 178・180 の石組溝とＴ字に接続しているが、これらは時期の異なる遺構である可能性があるほか、接続部分の壁石の位置関係からみて、両者は同時に機能していたことも考えられる。さらにＳ 178・180 の南北方向の溝跡の東側に平行して構築されるＳ 179 の石組みは、東の河川側に段差を造るために構築された土留め的な石積みの可能性があり、これは後にⅢ層による土盛りにより埋められ、平坦地とされている。このようにトレンチ中央から東半部の遺構の状況は、石を組んだ溝や井戸など、水との関連性を強く思わせる遺構が多く、また河川との境界地区らしく、土地縁辺部における土盛りなどの土地造成に関わるものが主体とみることができる。出土遺物をみると、Ｓ 175 のＶｃ層からは 18 世紀前半の遺物がややまとまって出土しており、これが当地区で確認できる遺構に伴う最も古いものである。以上のことから、本地区においては 18 世紀前半代よりその時々の土地利用の目的に合わせて段差や溝を造り、あるいは土盛りなどの土木作業を繰り返しながら各面に施設を構築し、現在に至っていることがわかる。

今回の調査においては本来の目的であった護岸石垣の存在を確認することができなかった。石垣は近代における本地区の改変に伴い、石垣石材が解体撤去されている可能性も十分考えられるが、裏込め部分や基礎部分などそれ以外の構造物が遺存している可能性は高いといえる。そのため石垣はトレンチの西側かあるいはトレンチ東側に近接する段丘崖との間に存在しているものと考えられるが、現時点では不明と言わざるを得ない。また近世段階での石垣の東西両側の隣接地がどのような状況にあったのかを知ることは難しいが、石垣は正保年間には既に構築されており、その内側には既に馬場にかかわる諸施設が存在していたことを考えた場合、第３次調査で確認した度重なる大規模な土木作業（普請）をそれら施設の改修に伴うものとみるか、あるいは石垣外側への新たな地区の拡張とみるかについては本地区のみならず、周辺地区全体での層位や遺構の状況を広範囲に検討する必要がある。

引用・参考文献

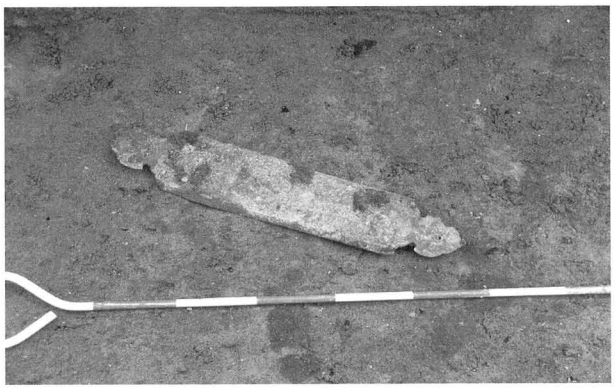
『伊達治家記録』（貞山公治家記録）
佐藤　巧　『近世武士住宅』　昭和 54 年（1979）
我妻健治・平井　聖・八木清勝　『よみがえる白石城』　平成７年（1995）
松山正将　「元仙台愛宕下発電所導水トンネルについて」『宮測協』No.29 平成９年（1997）
仙台市教育委員会　『仙台城跡１～８』　平成 13 ～ 20 年（2001 ～ 2008）
仙台市史編さん委員会　『仙台市史　通史編４　近世２』　平成 15 年（2003）
仙台市史編さん委員会　『仙台市史　特別編７　城館』　平成 18 年（2006）
仙台市教育委員会　『仙台城跡登城路１次調査』　平成 18 年（2006）



1－1Ｔ　全景（東から）

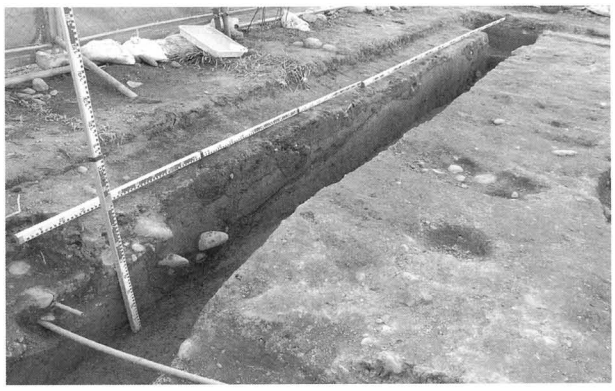
1－1Ｔ　南側サブトレンチ南壁（北東から）

1－1Ｔ　北側サブトレンチ北壁（南東から）



1－1Ｔ　飾り金具出土状況（北から）

1－2Ｔ　全景（南から）



1－2Ｔ　西側サブトレンチ西壁（南東から）

1－2Ｔ　西側サブトレンチ西壁（北東から）

1－2Ｔ　東西サブトレンチ南壁（北西から）

写真図版１

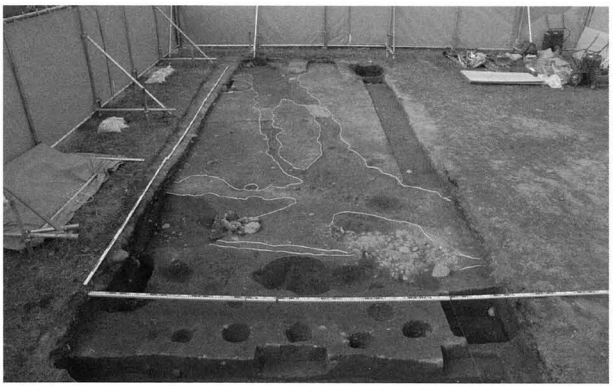
1－3Ｔ　全景（南西から）

1－3Ｔ　西側サブトレンチ西壁（北東から）

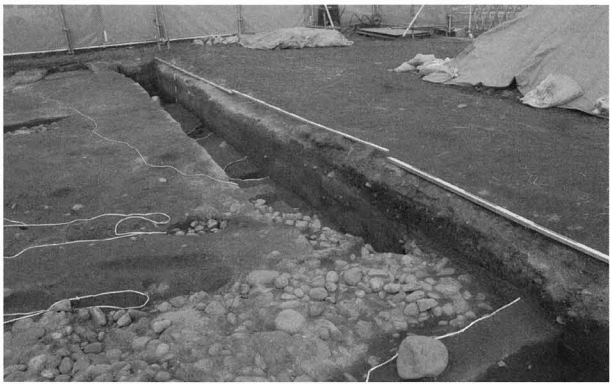
2－1Ｔ　全景（南西から）

2－1Ｔ　西側サブトレンチ西壁（南東から）

2－1Ｔ　S19 検出状況（南西から）



2－2Ｔ　全景（南から）

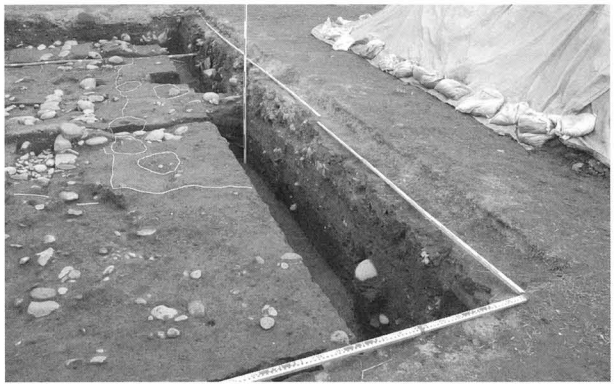


2－2Ｔ　東側サブトレンチ東壁（南西から）

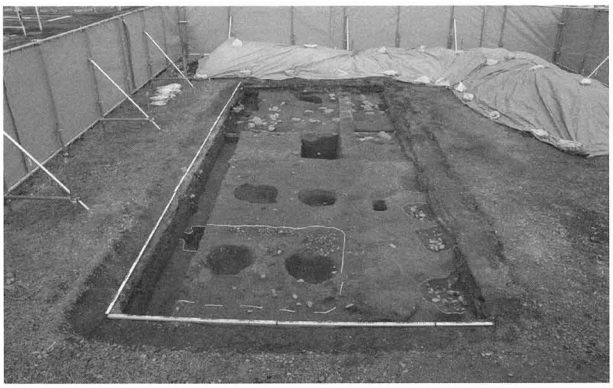
写真図版２

2－2Ｔ　Ｓ 45・Ｓ 46 検出状況（東から）

2－3Ｔ　全景（北から）



2－3Ｔ　東側トレンチ東壁（南西から）

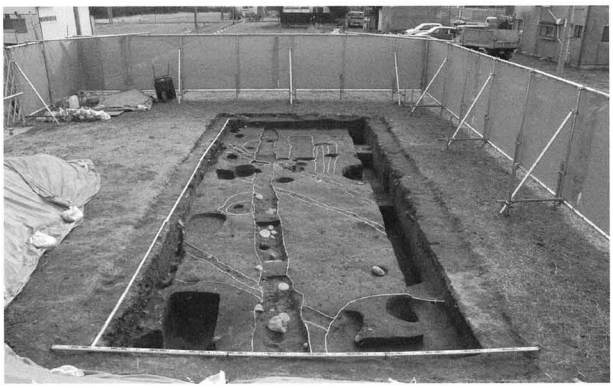


2－4Ｔ　全景（南から）

2－4Ｔ　西側サブトレンチ西壁（北東から）

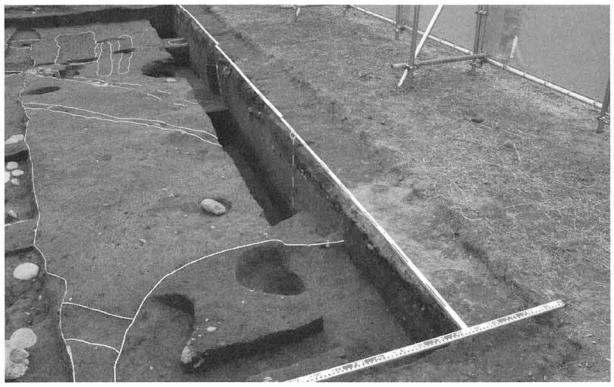
2－5Ｔ　全景（南から）

2－5Ｔ　東西サブトレンチ南壁（北から）



2－6Ｔ　全景（北から）

写真図版３



２－６Ｔ　西側サブトレンチ西壁（北東から）

２－７Ｔ　全景（北から）

２－７Ｔ　東側サブトレンチ東壁（南西から）

３－１Ｔ　全景（東から）

２－７Ｔ　中央サブトレンチ西壁（南から）

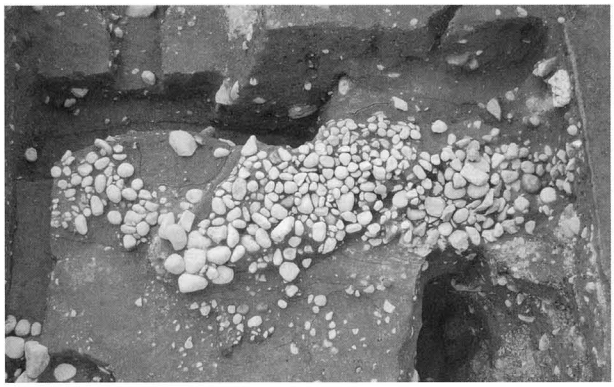
３－１Ｔ　西壁（東から）

３－１Ｔ　Ⅳ層堆積状況（北西から）

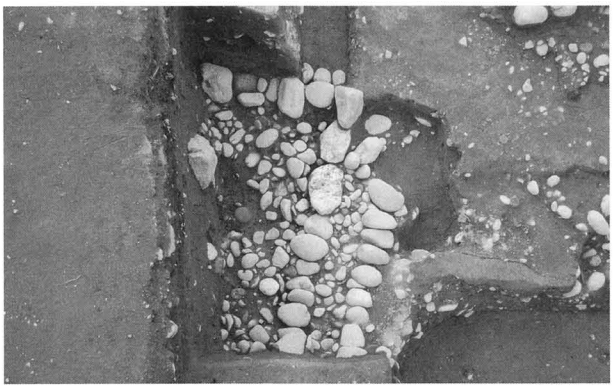
写真図版４

3－1Ｔ　中央部分南壁（北東から）

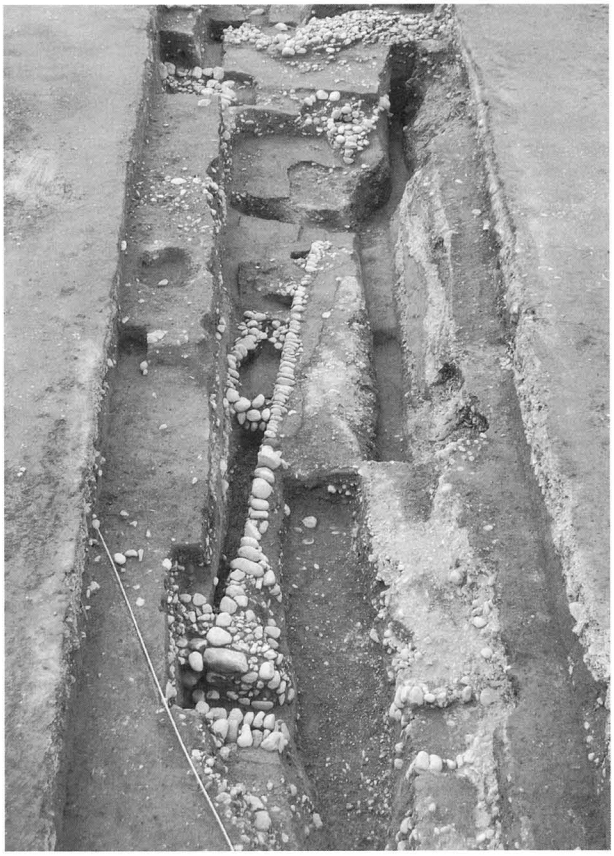
3－1Ｔ　東端部分南壁（北東から）



3－1Ｔ　Ｓ 165・Ｓ 166 検出状況（東から）



3－1Ｔ　Ｓ 167 検出状況（東から）

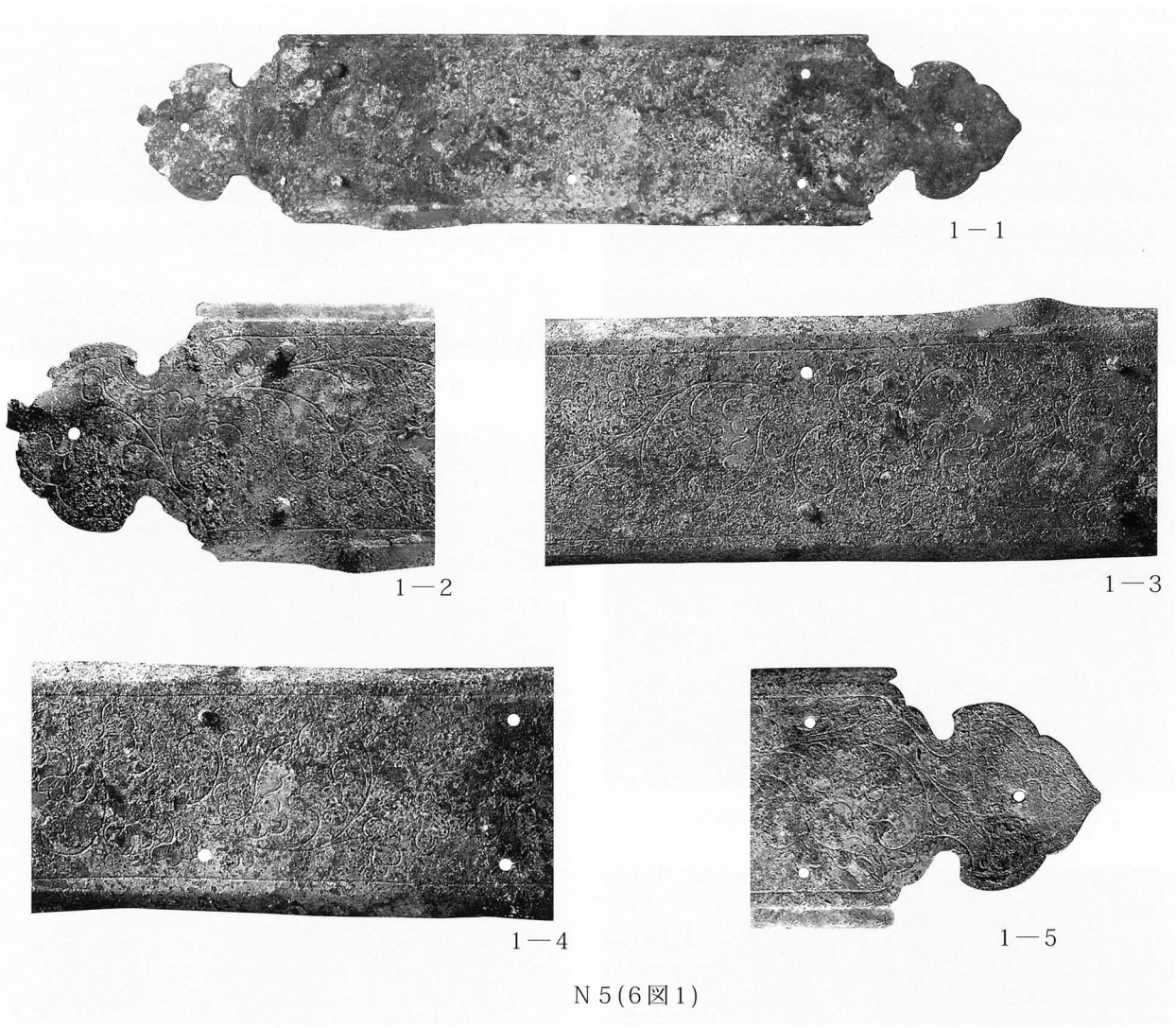


3－1Ｔ　Ｓ 175・Ｓ 178・Ｓ 180 検出状況（東から）

3－1Ｔ　Ｓ 168 断面（西から）

3－1Ｔ　Ｓ 178・Ｓ 179・Ｓ 180 検出状況（北から）

写真図版 5

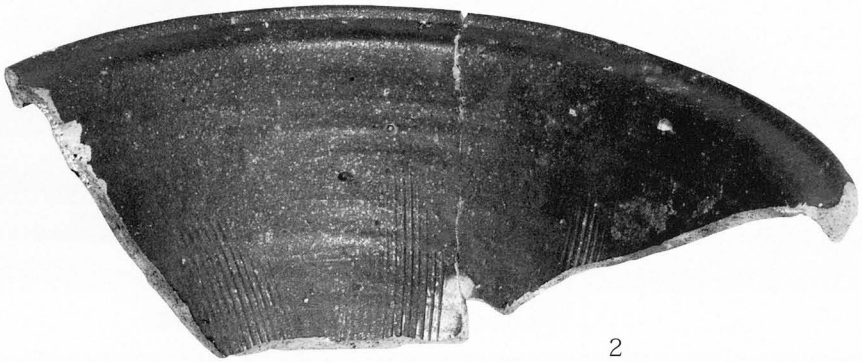


S=約1/2:1～3、約1/3:4～7、約1/5:8・9

写真図版6　第1次調査出土遺物

1

I 20(17図1)

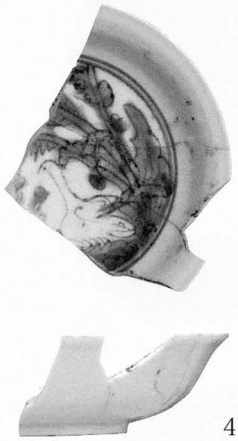


2

I 25(17図2)

3

J 35(17図3)



4

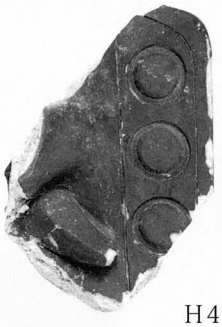
J 40(17図4)

5

J 41(17図5)

6

F 5(18図1)

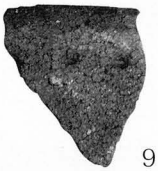


H4(18図2)

7

8

B 6(18図3)



9

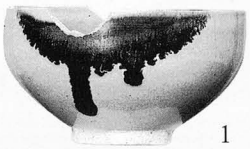
B 7(18図4)

10

K 1(18図5)

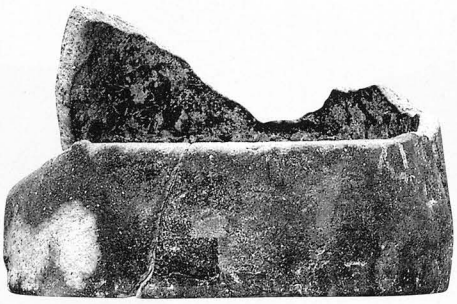
S=約1/3:1～5・8・9、約1/5:6・7、約2/3:10

写真図版7　第2次調査1号トレンチ出土遺物



1

Ⅰ39(22図1)



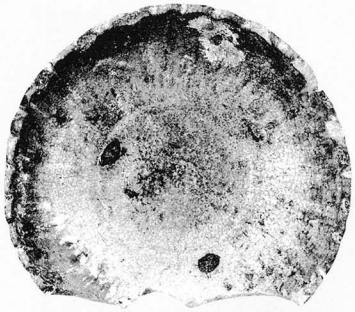
2

Ⅰ129(22図2)

2号トレンチ出土遺物

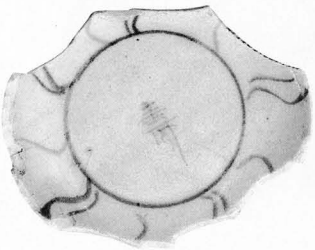
3

Ⅰ53(24図1)



4

Ⅰ58(24図2)

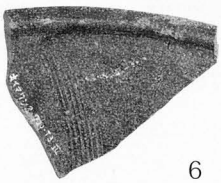


7

J61(24図5)

5

Ⅰ67(24図3)



6

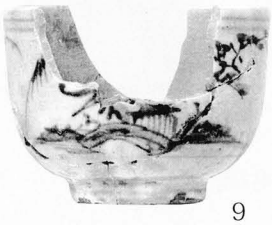
Ⅰ63(24図4)

3号トレンチ出土遺物

8

Ⅰ145(26図1)

4号トレンチ出土遺物

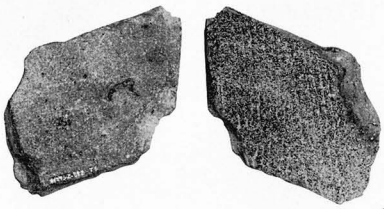


9

Ⅰ96(29図1)

10

Ⅰ130(29図2)



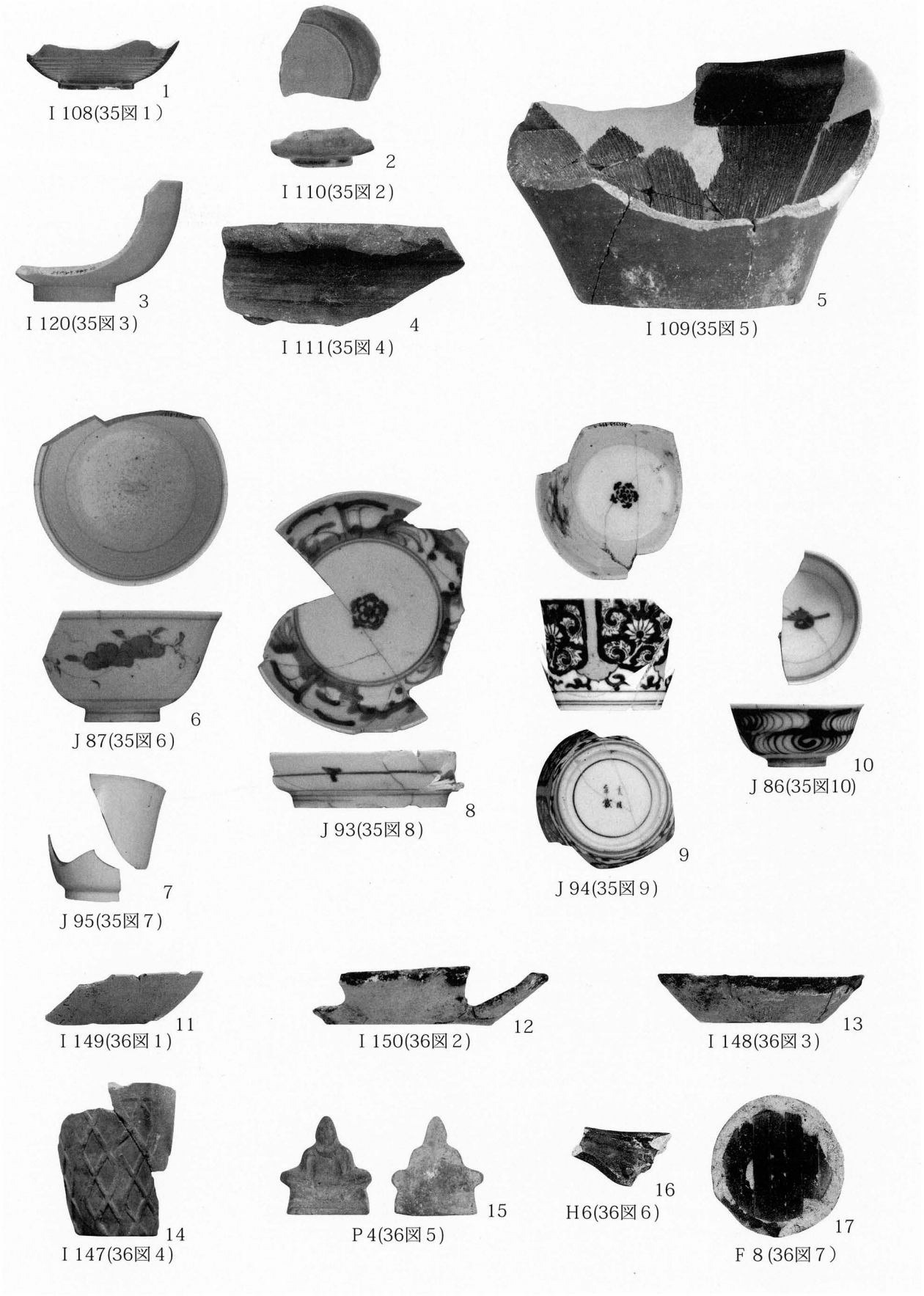
11

G3(29図3)

6号トレンチ出土遺物

S=約1/3:1～10、約1/5:11

写真図版8　第2次調査2～7号トレンチ出土遺物



S=約1/3:1～14、約1/2:15、約1/5:16・17

写真図版9　第3次調査出土遺物・表面採集遺物

報告書抄録

ふりがな	せんだいじょうあと　おいまわしちくいこうかくにんちょうさ
書名	仙台城跡　—追廻地区遺構確認調査—
副書名	
巻次	
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書
シリーズ番号	第350集
編著者名	佐藤　淳・渡部　紀・黒田恵之・大口和樹
編集機関	仙台市教育委員会
所在地	〒980-8671　仙台市青葉区国分町3丁目7-1　TEL022-214-8544
発行年月日	2009年３月19日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	調査地点	コード 市町村	コード 遺跡番号	調査期間	調査面積	調査原因
			04100	01033			
			北緯	東経			
仙台城跡（せんだいじょうあと）	宮城県仙台市（みやぎけんせんだいし）青葉区川内（あおばくかわうち）追廻地内（おいまわしちない）	第１次調査	38° 15′ 11″ ～ 38° 15′ 27″	140° 51′ 30″ ～ 140° 51′ 35″	2007.3.1 ～ 2007.3.20	183.1㎡	公園整備に伴う遺構確認調査
		第２次調査			2007.10.9 ～ 2007.12.27	367.0㎡	
		第３次調査			2008.8.25 ～ 2008.10.22	177.0㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項
仙台城跡	城館跡	江戸時代	池跡 石組遺構 溝跡 井戸跡 土坑	陶磁器 瓦 金属製品 石製品	第１次調査１号トレンチＳ３より飾り金具が出土した。 第２次調査１号トレンチから片倉家の屋敷絵図に描かれている池に相当する可能性のある遺構（Ｓ19）を確認した。 第３次調査では石組み遺構や石敷遺構を発見し、追廻東南端の土地利用の状況を確認した。

仙台市文化財調査報告書第350集

仙　台　城　跡

—追廻地区遺構確認調査—

2009年3月

発行　仙台市教育委員会
仙台市青葉区国分町3丁目7-1
文化財課　022(214)8544

印刷　株式会社　東プリ
東京都大田区蒲田四丁目41-11
TEL 03(3732)4155